山形県埋蔵文化財センター調査報告書第64集

八ツ目久保遺跡

発掘調査報告書

1999

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

八ツ目久保遺跡

発掘調査報告書

平成11年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

遺跡全景（南から）

RP28 注口土器復元状況

SK35内 RR28 注口土器出土状況（北西から）

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、八ツ目久保遺跡の調査成果をまとめたものです。

八ツ目久保遺跡は山形県のほぼ中央部に位置する西村山郡朝日町にあります。朝日町は西に磐梯朝日国立公園の一部を成す朝日連峰が連なり、中央を山形県の母なる川・最上川が流れる自然豊かなりんごの町です。

この度、平成9年度一般国道287号道路改良工事に伴い、工事に先立って八ツ目久保遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡、土坑、陥穴が確認されました。また、遺物として多くの完形土器や石製品の他、縄文時代中期としては珍しい注口付の深鉢が土坑覆土中から出土しました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発、普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成11年3月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
理事長　　木　場　清　耕

例　言

1　本書は平成９年度一般国道287号道路改良工事に係る「八ツ目久保遺跡」の発掘調査報告書である。

2　調査は山形県土木部の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3　調査要項は下記の通りである。

遺　跡　名　　八ツ目久保遺跡（ＣＡＨＹＫ）　遺跡番号　平成８年度登録
所　在　地　　山形県西村山郡朝日町大字四ノ沢字八ツ目久保
調 査 主 体　　財団法人山形県埋蔵文化財センター
受 託 期 間　　平成９年４月１日～平成10年３月31日
現 地 調 査　　平成９年７月28日～平成９年10月31日
調査担当者　　調査第二課長　　野尻　　侃（現調査第一課長）
　　主任調査研究員　尾形　與典（現調査第二課長兼研究課長）
　　調査研究員　　佐竹　桂一（調査主任）
　　調査員　　宮地　文七

4　発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県土木部寒河江建設事務所、西村山教育事務所、朝日町教育委員会等関係諸機関の協力を得た。また報告書作成にあたって、阿子島功氏（山形大学人文学部教授）に現地地形についてのご教示を賜り、神原雄一郎氏（盛岡市教育委員会）からは出土資料の閲覧の便宜を図っていただいた。ここに記して感謝申し上げる。

5　本書の作成・執筆は佐竹桂一が担当した。編集は尾形與典、須賀井新人、長瀬えみ子が担当し、全体については野尻　侃が監修した。

6　委託業務は下記のとおりである。

遺構の写真測量・実測　　㈱国際航業
遺物実測　　㈱シン技術コンサル
資料の理化学分析（土壌分析）　　パリノ・サーヴェイ株式会社

7　出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は次の通りである。

ＳＴ……竪穴住居跡　　ＳＫ……土坑・陥穴　　ＳＤ……溝跡　　ＳＸ…性格不明遺構
ＳＰ……ピット　　ＥＰ……遺構内柱穴　　ＥＬ……炉跡　　ＥＵ…埋設土器
ＲＰ……登録土器・土製品　　ＲＱ……登録石器・石製品
Ｐ……土器　　Ｓ……石

2　遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。

3　報告書執筆の基準は下記の通りである。

（1）　遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。

（2）　グリッドの南北軸は、Ｎ－7°－Ｅを測る。

（3）　遺構実測図は1/20～1/300の縮図で採録し、各挿図にスケールを付した。なお、実測図中の●は破片土器、◎は一括土器、△は石製品の出土地点を表わす。

（4）　遺物実測図・拓影図は、原則的に１／２、１／３、１／４で採録し、おのおのスケールまたは表示を施した。

（5）　遺物観察表中の計測値欄で（　）内のデータは推定値である。破片での現存値は省略している。出土地点欄の層位では「Ｆ」は遺構覆土内出土、「Ｙ」は遺構底面出土を各示し、ローマ数字「Ⅰ～Ⅲ」等は遺構を覆う土層（基本層序）を表している。

（6）　遺物図版については実測図の縮尺と同一で採録したが、一部については任意の縮尺とした。

（7）　遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物図版ともに共通したものである。遺構挿図中に図示している遺物も同様である。

（8）　遺構覆土の色調の記載については、1987年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に拠った。

目　次

Ⅰ　調査の経緯
　1　調査に至る経過……1
　2　調査の経過……1
Ⅱ　遺跡の立地と環境
　1　地理的環境……3
　2　歴史的環境……3
Ⅲ　遺跡の概観
　1　基本層序……5
　2　遺構・遺物の分布……9
Ⅳ　検出された遺構
　1　竪穴住居跡……10
　2　土坑……17
　3　陥穴……23
　4　その他の遺構……28
　5　遺構間接合土器について……29
Ⅴ　出土した遺物
　1　縄文土器……33
　2　土偶……34
　3　円盤状土製品……34
　4　石器……57
Ⅵ　まとめと考察
　1　調査のまとめ……87
　2　遺構の変遷と性格……87
　3　第3群土器群について……88
報告書抄録……92
付　編
　八ツ目久保遺跡における自然科学分析

表

表１　竪穴住居跡観察表……16
表２　土坑観察表……22
表３　陥穴観察表……27
表４　出土土器観察表（１）……77
表５　出土土器観察表（２）……78
表６　出土土器観察表（３）……79
表７　出土土器観察表（４）……80
表８　石鏃属性表……81
表９　石錐属性表……81
表10　石匙属性表……82
表11　石篦属性表……83
表12　二次加工のある剝片（１）属性表……83
表13　二次加工のある剝片（２）属性表……84
表14　石核計測表……84
表15　石皿計測表……84
表16　砥石計測表……84
表17　敲打痕のある礫器計測表……85
表18　凹石計測表……85
表19　磨石計測表……86

挿　図

第１図　遺跡位置図……2
第２図　調査区概要図……4
第３図　基本層序……6
第４図　遺構配置図……7
第５図　ＳＴ１竪穴住居跡……11
第６図　ＳＴ２竪穴住居跡……12
第７図　ＳＴ３竪穴住居跡……13
第８図　ＳＴ４竪穴住居跡……14
第９図　ＳＴ５・ＥＬ12・13竪穴住居跡…15
第10図　土坑（１）……18
第11図　土坑（２）……19
第12図　土坑（３）……20
第13図　土坑（４）……21
第14図　陥穴（１）……24
第15図　陥穴（２）……25
第16図　陥穴（３）……26
第17図　その他の遺構……30
第18図　ＳＸ21遺物包含層……31
第19図　ＳＴ１・２・３出土土器……35
第20図　ＳＴ４出土土器……36
第21図　ＳＴ５・６出土土器……37
第22図　ＳＫ30出土土器……38
第23図　ＳＫ27・28出土土器……39
第24図　ＳＫ32・34出土土器……40

第25図　ＳＫ35出土注口土器深鉢……41
第26図　ＳＫ35出土土器（１）……42
第27図　ＳＫ35出土土器（２）……43
第28図　ＳＫ101出土土器 ……44
第29図　ＳＫ31出土土器（１）……45
第30図　ＳＫ31出土土器（２）……46
第31図　ＳＫ36出土土器（１）……47
第32図　ＳＫ36出土土器（２）……48
第33図　ＳＫ37出土土器（１）……49
第34図　ＳＫ37出土土器（２）……50
第35図　ＳＫ37出土土器（３）……51
第36図　ＳＸ21出土土器（１）……52
第37図　ＳＸ21出土土器（２）……53
第38図　ＳＸ21出土土器（３）……54
第39図　ＳＸ21出土土器（４）……55
第40図　その他の遺構出土土器……56
第41図　出土石製品（１）……61
第42図　出土石製品（２）……62
第43図　出土石製品（３）……63
第44図　出土石製品（４）……64
第45図　出土石製品（５）……65
第46図　出土石製品（６）……66
第47図　出土石製品（７）……67
第48図　出土石製品（８）……68
第49図　出土石製品（９）……69
第50図　出土石製品(10)……70
第51図　出土石製品(11)……71
第52図　出土石製品(12)……72
第53図　出土石製品(13)……73
第54図　出土石製品(14)……74
第55図　出土石製品(15)……75
第56図　出土石製品(16)……76
第57図　出土土器集成図（１）……89
第58図　出土土器集成図（２）……90

図　版

巻頭図版１　調査区全景
巻頭図版２　注口土器深鉢
図版１　遺跡遠景・調査風景
図版２　竪穴住居検出状況・遺物出土状況
図版３　竪穴住居・炉跡検出状況
図版４　炉跡検出及び遺物出土・完掘状況
図版５　土坑内遺物出土・完掘状況
図版６　土坑内遺物出土・完掘状況
図版７　土坑内遺物出土・完掘状況
図版８　包含層土層断面・遺物出土状況
図版９　包含層遺物出土・陥穴完掘状況
図版10　陥穴完掘状況
図版11　出土土器（１）
図版12　出土土器（２）
図版13　出土土器（３）
図版14　出土土器（４）
図版15　出土土器（５）
図版16　出土土器（６）
図版17　出土土器（７）
図版18　出土土器（８）
図版19　出土土器（９）
図版20　出土土器(10)
図版21　出土土器(11)
図版22　出土土器(12)
図版23　出土土器・土製品
図版24　出土土器(13)
図版25　出土石製品（１）
図版26　出土石製品（２）
図版27　出土石製品（３）
図版28　出土石製品（４）

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

八ツ目久保遺跡は、山形県のほぼ中央にあたる西村山郡朝日町大字四ノ沢字八ツ目久保に所在し西に朝日連峰を望み、母なる川・最上川によって形成された河岸段丘上に位置する。

今回の発掘調査は、山形県土木部による一般国道287号道路改良工事に伴って実施されたものである。本遺跡は、同事業に関わる平成８年度遺跡詳細分布調査によって遺跡の存在が確認され、平成８年10月～11月に山形県教育庁文化財課による事業区域内の試掘調査が行われた。調査は９月に現地踏査を実施し、その結果に基づき10月に２ｍ×10ｍの試掘トレンチを６箇所設定して、トレンチ調査を実施した。

その結果、各トレンチから遺構・遺物が検出され、遺物として縄文土器片・石器剝片などが出土し、また住居跡・土坑・柱穴などの遺構が検出されたことにより、縄文時代中期の集落跡であることが確認され、平成８年度に新たに登録された遺跡である。

県教育庁文化財課では事業主体である寒河江建設事務所との間で、遺跡の現状保存の可能性や工事施工方法の検討なども含めて調整協議を行った。その結果、遺跡範囲のうち、削平を受け既に遺存していない東側及び南側を除いた3,000㎡について、工事に先立って、図面・写真などによる記録保存を目的とした緊急発掘調査で対応することになり、平成９年度に財団法人山形県埋蔵文化財センターが県の委託を受けて、発掘調査を実施することになったものである。

発掘調査に至るまでの協議等は以下の通りである。

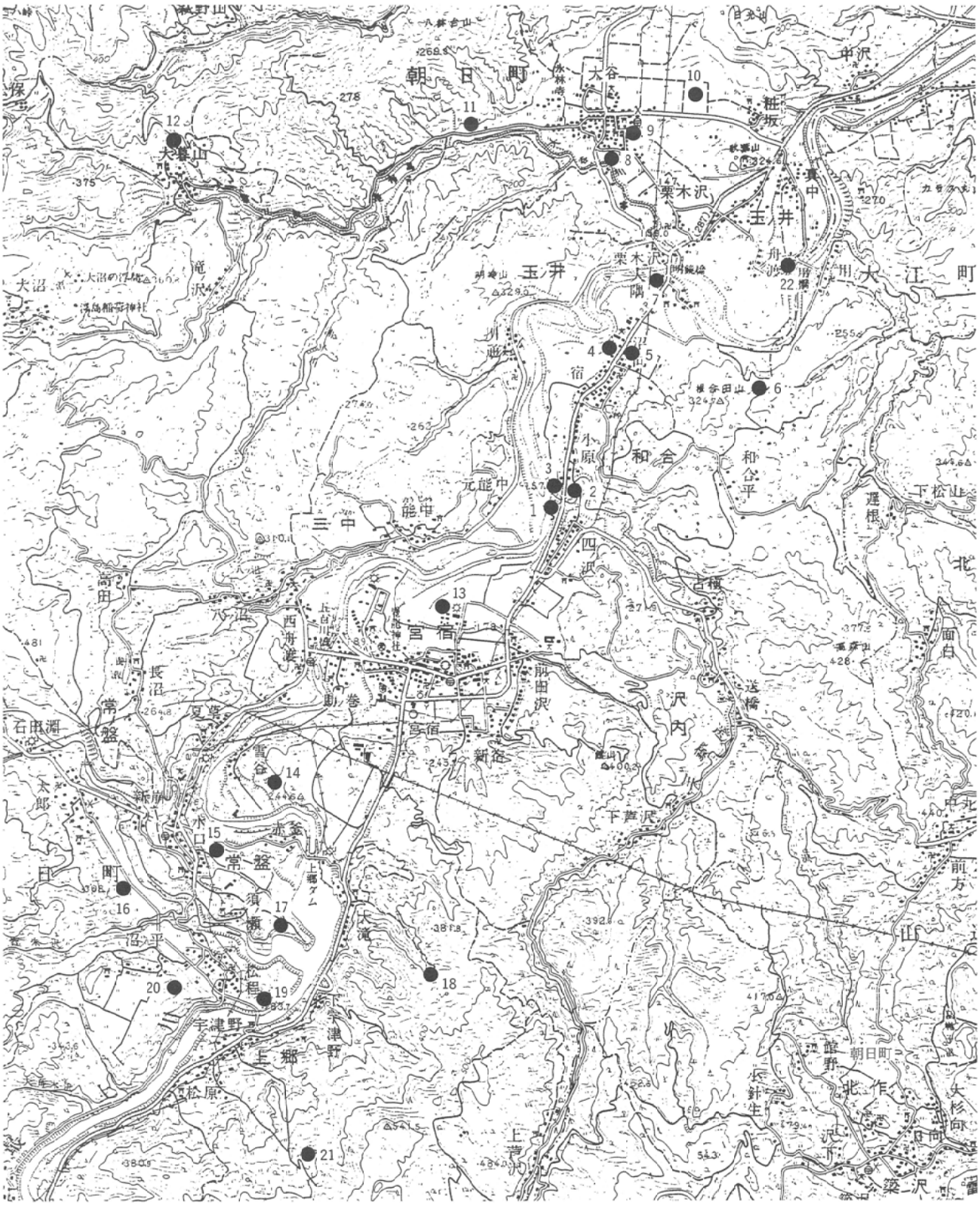
- ◆ 寒河江建設事務所長より県埋蔵文化財センター理事長あてに、「一般国道287号道路改良工事の実施に伴う地区内の埋蔵文化財発掘調査」の依頼（Ｈ９／３／17）。
- ◆ 県埋蔵文化財センター理事長より寒河江建設事務所長あてに、発掘調査を実施すること及び経費見積りの回答（Ｈ９／３／27）。
- ◆ 県土木部管理課と県埋蔵文化財センターとで「埋蔵物発掘調査業務の委託契約」を締結（Ｈ９／４／１）。

2　調査の経過

調査区は県教育庁文化財課の試掘調査の結果示された範囲を基に、調査区東辺から調査区内に１ｍ入る位置でｙ軸の基準線を任意に設定し、第３象現上のｘ軸をアルファベット、ｙ軸をアラビア数字で示し、２ｍ×２ｍのグリッドで方眼地区割りを行った。

調査の行程は以下の通りである。

7月28日　鍬入れ式。器材搬入。調査開始。
8月8日　表土除去完了。グリッド設定。
8月22日　遺構検出完了精査開始。
10月24日　調査説明会開催。参会者96名。
10月29日　空中写真測量実施。
10月31日　調査終了。器材搬出。



1．八ツ目久保遺跡（縄文中期）
2．岩坂遺跡（縄文晩期）
3．小笹遺跡（縄文・弥生）
4．川前遺跡（縄文中期）
5．沼向遺跡（縄文後期）
6．釜山遺跡（縄文早期・前期）
7．大隅遺跡（旧石器）
8．鶯沢遺跡（縄文）
9．上ノ原（縄文中期）
10．昭和新田遺跡（平安・中世）
11．右沢遺跡（縄文）
12．大塚遺跡（縄文中期）
13．上ノ台遺跡（縄文中期）
14．雪谷遺跡（縄文後期）
15．畑鉾遺跡（縄文中期）
16．南上台遺跡（縄文晩期）
17．小松野遺跡（旧石器）
18．野沢遺跡（縄文晩期）
19．松程遺跡（縄文中期）
20．沼ノ平遺跡（縄文中期）
21．松原遺跡（縄文中期）
22．上川原山の神遺跡（縄文晩期）

第１図　遺跡位置図(S＝1：50,000)

II　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

八ツ目久保遺跡は、山形県西村山郡朝日町大字四ノ沢に所在する。四ノ沢は朝日町の中心部の宮宿集落すぐ北側に位置し、遺跡は国道287号に隣接する。遺跡は最上川右岸の河岸段丘にあり、標高は約143mを測る。南西に朝日連峰を望む日当たりの良い緩やかな傾斜地に立地している。

本遺跡が存在する朝日町は、最上川の営みの中で生活の糧を築いてきたといえるが、その中でも、西置賜郡白鷹町荒砥～西村山郡大江町左沢間の25kmにわたる部分は、川の流れが速く、岸辺は切り立った断崖絶壁の部分が多く、「五百川(いもがわ)渓谷」と呼ばれている。当地における最上川は、数万年前から土地の隆起と侵食の相互作用によって険しい断崖を形成し、約３万年前ごろに現在の地形がほぼできあがったといわれる。

現在の集落の営まれている下位段丘面は、幅の広い平坦地が多いことを特徴としている。遺跡の立地部分は、現在の集落形成面より１段下がった面に営まれていた。遺跡面は段丘としてはやや未発達な形成部分である。現在は河床から十数mの高さに位置しているが、遺跡が営まれた当時は現在より５～７mは河床が高かったと考えられる。(註１)

2　歴史的環境

朝日町には、最上川をはじめ朝日川・大谷川等の河岸段丘面に多くの遺跡が存在している。中でも最上川周辺は遺跡の集中が顕著で、母なる川の恩恵を古来より受けてきたことが窺える。大隅遺跡は後期旧石器時代の遺跡としては、群馬県岩宿遺跡の発見と並び称される遺跡であり、学史的にも先鞭をつけた遺跡で、近年その存在が再評価されてきている。

縄文時代の遺跡になると、早～前期の釜山遺跡、中期の上ノ原・上ノ台・川前・八ツ目久保遺跡、後期の沼向遺跡、晩期のウシガシ遺跡・岩坂遺跡等が存在し、いずれも最上川の段丘上に位置している。

上川原山の神遺跡は平成10年に新規発見され、教育庁文化財課によって本調査が行われた縄文晩期の遺跡である。径30cm級の柱痕が25本と大量に検出され、全国的にも稀なケースとして紹介された。これらは巨木による建物跡の可能性が示唆され、晩期の拠点集落が存在するとして注目を浴びた。

また、本遺跡に隣接し、平成８年度に新規登録された小笹遺跡からは縄文土器の他に弥生土器の出土もみられたことから、弥生時代も人々の生活の営みがあったことが裏付けられている。

今回の調査は、五百川渓谷沿いの遺跡としては初めて大規模な調査が行われたものであり、当該地域の縄文時代中期後葉の様相を窺い知る資料が多く得られることとなった。

第２図　調査区概要図(S=1：1,000)

Ⅲ　遺跡の概観

1　基本層序

八ツ目久保遺跡の位置する段丘面は、第三紀中新世の堆積岩あるいは鮮新世の堆積岩（未固結の砂礫）からなる。五百川渓谷では低位に位置する未発達な段丘である。

基本層序は以下の通りである。

覆土の層位は概して4種に大別できる。

Ⅰ層……耕作土であり、撹乱を受けている様相が一部で観察された。

Ⅱ層……無遺物層である。Ⅲ層下面が赤褐色化した状況が見受けられたが、水田として利用されていた時期の、それに伴う堆水による鉄分の酸化沈殿現象が現れたものと考えられる。

Ⅲ層……旧地表を含む遺物包含層。

Ⅳ層……地山。

調査区の北壁及び南壁の覆土の堆積状況を観察し記録をとった。これらから遺跡の覆土の堆積状況が概観できる。北壁と南壁では、各基本層によってはさらに細分が可能となる（第3図遺跡基本層序）。

遺構の検出はⅢ層中の旧地表の把握が困難であったため、地山であるⅣ層の黄褐色シルト層まで掘り下げて遺構検出を行った。

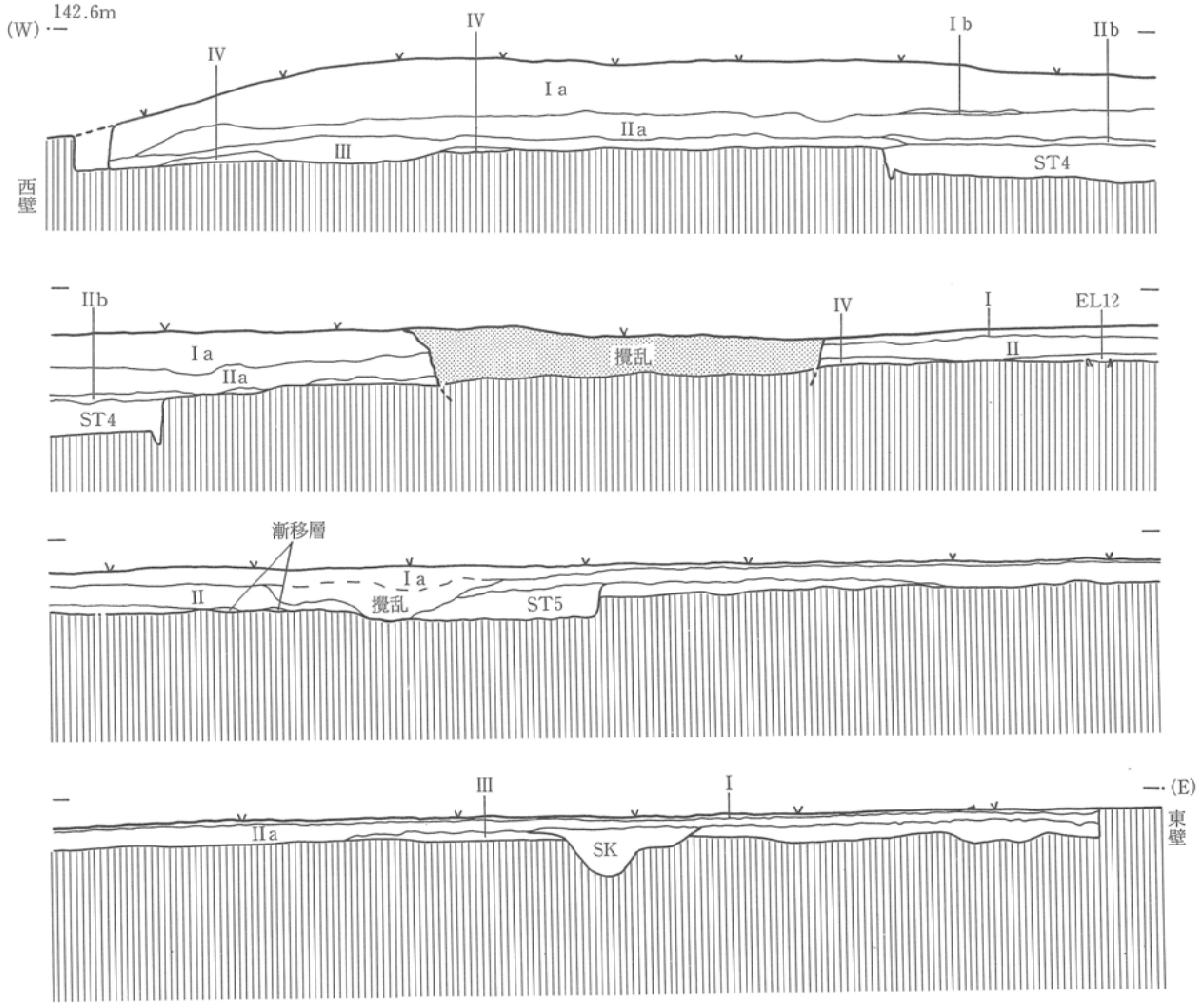
また、遺構検出面の全域にⅠ層中からの掘り込みによる撹乱の痕跡が残されており、調査の妨げになることが予想されたため、撹乱痕も検出時は遺構と同様に扱いながら図面上に記し（第4図　遺構配置図）、その後、トレンチによって遺構への影響を調べた。

以上の基本層序の概観を受けて、以下に調査区の地形の特徴を述べる。

北半部はⅠ層表土・Ⅱ層とも厚く体積している。Ⅲ層遺物包含層にはやや遺物を含み、土器が破片で混入する。北辺縁辺を中心にⅢ層下部でシルト質岩をブロック状に含む層が確認され、その下から遺構が検出されている。遺跡東側にそびえる断崖からの土砂崩壊による流入と考えられる堆積状況が示唆される。（註2）

南半部は安定した均質な砂質の強い地山である。東西辺に比して中央部がやや高くなっており、緩やかな尾根状の地形を有していたと推察できる。後述する陥穴の立地状況との関連が窺い知れる。

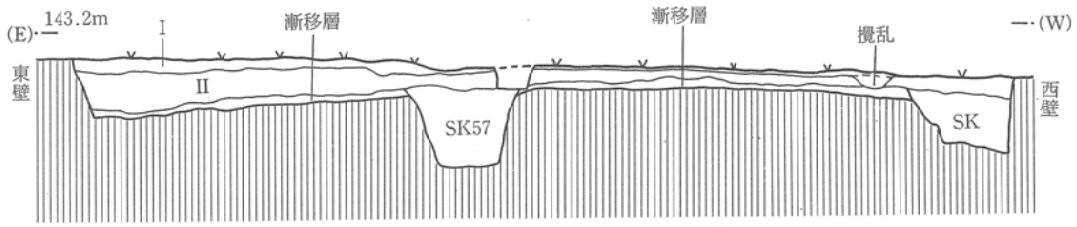
南半部のⅠ層耕作土・Ⅲ層無遺物層は薄く、Ⅲ層は遺物を含む層上位は既に削平されており、北半部で比較するところの層下位部分を残すのみで、直下に地山漸移層が続く。北半部よりも地山面での標高は約140～160cm程高い。遺跡は南側から緩やかな尾根状の地形の末端部分で、段丘が形成されたといえる。



北壁基本層序

Ⅰa	10YR	3/3	暗褐色土
Ⅰb	10YR	3/3	暗褐色砂質土
Ⅱa	10YR	4/2	灰黄褐色シルト質土
Ⅱb	7.5YR	5/6	明褐色シルト質土
Ⅲ	10YR	4/6	褐色シルト
Ⅳ	10YR	4/2	灰黄褐色シルト
Ⅴ	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト

最も厚い部分で70～80cmを図る耕作土で、植物茎を多量に含む。
上層より砂質が強く、小型の礫をやや含む。
浅黄橙色粘土を粒状に30%含む。やや腐食土を混入する。
小型の風化礫を多く含む。水田利用時に赤褐色化したと思われる。
やや砂質が強い。場所によって褐色化、礫の混入も見られる。
土質はやや砂質を帯びたシルト。遺物を多く包含する。
地山。砂質が強く、さらさらしている。均質な土質。



南壁基本層序

Ⅰ	10YR	3/3	暗褐色土
Ⅱ	10YR	2/2	黒褐色シルト
Ⅴ	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト

耕作土。植物茎を多量に含む。
均質な土質。しまっている。遺物は含まない。
地山。砂質が強く、さらさらしている。均質な土質。

0 1m
(1：40)

第3図　　基本層序

凡 例

竪穴住居(ST)

土　坑(SK)

陥　穴(SK)

攪　乱

0　(1：300)　20m

最上川

SK117　SK121　SK23　SX17　SK97　SK100　SK94　SK116　SK22　U
SK89　EU8　SK93　SK95　SK98　ST2　SK96　SK99　ST4
SK88　SK29　SK30　SK26　SK28　ST1　SK87　ST3　SK34　SK25　SK33
SK115　SK27　P
SK120　SX21　SP216　SK32　SK35
SK65　SK66　SK80　SK113　SK112　SK119　SP232　SK271　SK101　SK36　ST6·7
風倒木　SK78　SK67　SK79　SK90　SK91　SK31
SK63　SK64　SK77　SK70　SK39　SK38　K
SK61　SK60　SK62　SK49　SK44　SK40　ST5
SK48　SK47　SK82　SK84　SK110　SK108　SK105
SK58　SK59　SK51　SK76　SK81　SK109　SK37
SK52　SK72　SK50　SK46　SK69　SK43　SK83　SK85　SK92
SK53　SK45　F
SK73　SK114
SK55　SK56　SK54　SK107
SK57　SK102　SK74　SK68　SK41　SK42　SK106
46　41　36　31　26　21　16　11　6　A

第４図　遺構配置図(S＝1：600)

2　遺構・遺物の分布

遺跡の現況

遺跡の現況は果樹畑でりんごの立ち木が林立する状態であった。それ以前は水田として利用されていたことが地区民からの聞き取りによって確認されている。昭和50年代には、最上川中流土地改良区の利水施設が南側に建設され、その工事に付随する工事事務所や作業員詰所が遺跡の中に設置された。その時の痕跡が遺跡の全域に及んでおり、東側を中心に大きく撹乱・削平を受け、深いところでは検出面から1.5mの深さまで撹乱が及んでいる状況が見られた。調査では、大きな撹乱部分にトレンチを入れ遺構への影響の確認を行ったが、前述の状況がいくつかのトレンチから見られたことから、撹乱部分を取り除くことは行わず、影響を受けていない部分に調査の主眼を置くこととした。

遺構の分布

遺構はほぼ調査区の全域で確認できる。調査区の中央部を東から西へ横断する形で遺物を大量に含む黒色土の拡がりが確認された。黒色土のため、土中での遺構検出が困難であるため、遺物包含層（ＳＸ21）として登録した。このＳＸ21を境に南側と北側で遺構が異なる様相を呈したため、便宜上調査区を２つに分け、ＳＸ21を含む北側を北区、南側を南区として調査をすすめた。グリッド単位では21グリッド以後を南区として登録し、遺物の取り上げも同様に行った。

最も遺構の集中がみられるのは北区北側縁辺の部分で、送橋川に接する部分である。この近辺では、竪穴住居跡や土坑等の遺構が数多く検出された。竪穴住居跡はすべて調査区の縁辺、つまり段丘の先端部まで存在しているのが特徴的である。土坑群は住居より奥まったところに築かれていたようである。それに比して南区は、土坑が列状に並ぶ状況が検出されたことから、墓域か陥穴と思われたが、調査が進むにつれ陥穴であることが確認された。

遺物の分布

遺物はコンテナにして88箱の出土をみた。そのほとんどがＳＸ21より北側の北区からの出土である。ＳＸ21遺物包含層からはそのうち約30箱の出土があり、およそ全体の３割の出土量をみる。出土遺物の大半は土器片が占める。石器は剥片や礫器の類は多く出土しているが、定型石器としてとらえられる石器は数える程度の出土である。遺物の出土状況は破片が散在する様相を呈しており、中には一括性の高い土器も見られたが、完形に近い状態で復元できる土器は少なかった。

遺跡の北側は遺構中に豊富に遺物を含み、竪穴住居跡及び土坑群から、覆土・底面それぞれより良好な資料を得ている。

南側の陥穴からは覆土中にわずかに石器類が出土している以外はほとんど出土していない。基本層Ⅰ・Ⅲ層中からの出土もほとんどなかった。

Ⅳ　検出された遺構

1　竪穴住居跡

竪穴住居跡は全部で7棟検出されている。その内、プランが確認できたものは5棟で、2棟は炉跡のみの検出であったが、炉跡は2基とも複式炉の形態をとっていたため住居跡ととらえてここでは扱う。各遺構の詳細は観察表中でまとめているが、以下は調査の過程と検出状況を述べていく。

ＳＴ1（第5図）

ＳＸ21の精査に伴って検出された。黒色土中のため当初はその存在が確認できなかったが、石組み炉が検出されたことをきっかけとして、プランを確定することができた。規模は比較的小さく、円形プランを有する。ＳＸ21との重複関係は判然としなかった。

ＳＴ2（第6図）

調査区西壁に半円状にかかる形で検出された。プランの検出はＳＸ21精査中に地山まで掘り下げた段階で確認できた。そのため、検出時のＳＸ21との切り合いは不明である。検出前は覆土上層に川原石の堆積が認められ、その記録終了後に掘り下げを行っている。

住居全域の調査のためには調査区の拡張が必要であったが、これ以上の拡張は作業の安全を確保できない段丘の傾斜変換点にかかるため、拡張することはできなかった。

ＳＴ3（第7図）

検出時は円形プランを持つ遺構と考えられ、覆土上層に多数の破片遺物を内包していたが、精査を進める中で床面及び馬蹄形石組み炉を検出し、住居であることを確認できた。遺存状態は良く、床面で完形の遺物が出土し良好な資料が得られている。

ＳＴ4（第8図）

調査区北壁に半円状にかかる形で検出された。複式炉を検出したことにより住居跡であることがわかった。全域の調査のためには、調査区の拡張が必要であったが、これ以上の拡張は段丘の傾斜変換点にかかり、作業の安全が確保できないため、拡張することは行わなかった。

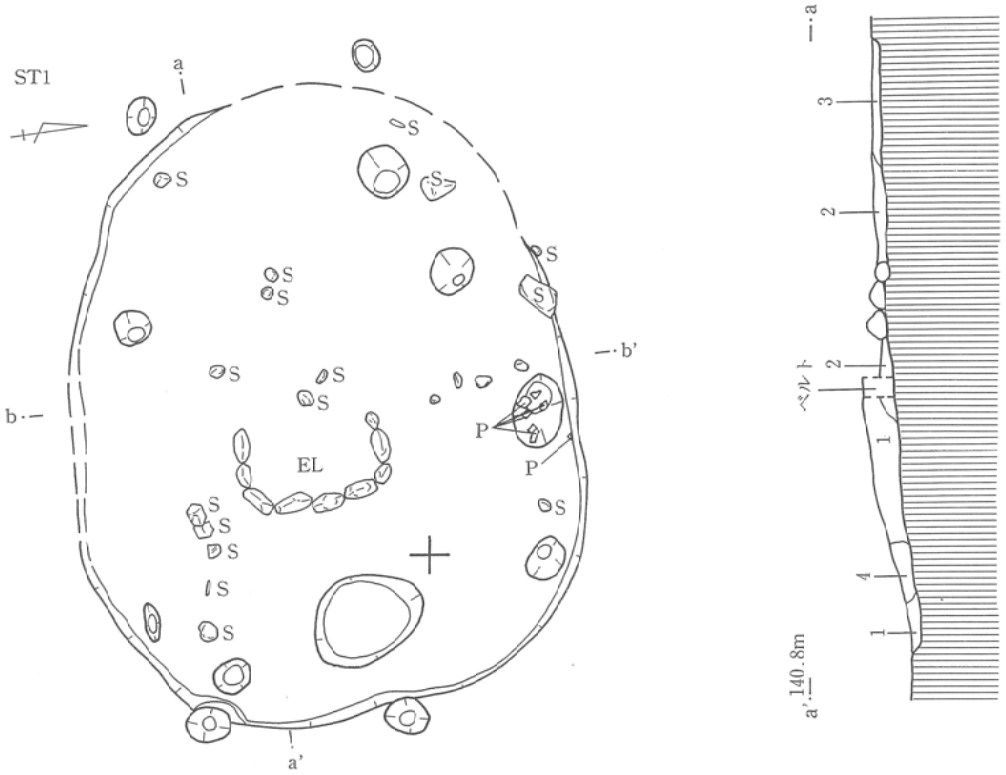
ＳＴ6・7（第9図）

調査区北壁に埋設土器がかかっていることが、表土除去時に確認され、調査のため北壁を安全確保できる位置ぎりぎりまで北へ拡張した際に複式炉が2基検出されたことにより、住居跡と確認できた。

2基ともコンクリート枡に半分破壊されている状況で検出されており、2つの間の切り合い関係ははっきりとわからなかった。平面プランは周囲の地山がシルト質岩や礫を多数含む土質で既に床面まで削平を受けていたため、はっきりとしたプランは判明しなかった。

ＳＴ5（第9図）

調査区北壁に半円状にかかる形で検出された。ＳＴ6・7の調査のため、北壁を安全確保できる位置ぎりぎりまで拡張した際に、隣接して複式炉が検出されたことから、住居跡の存在が判明した。プランは円形を呈し、東側でわずかに壁の立ち上がりを確認することができた。

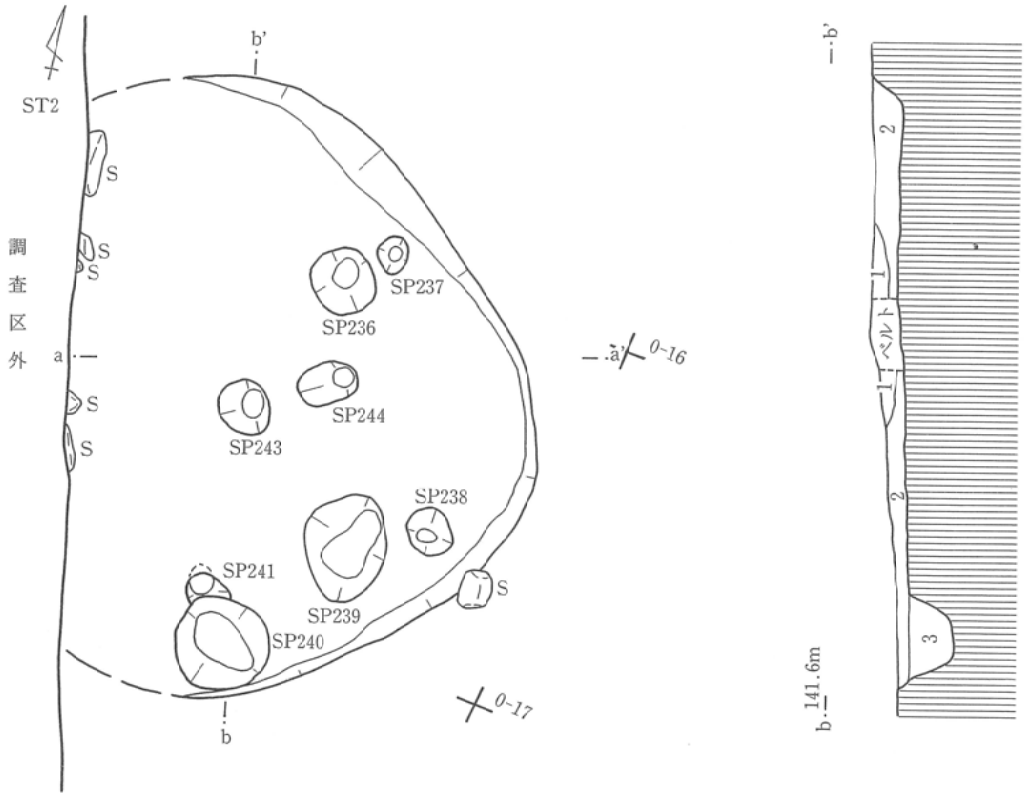


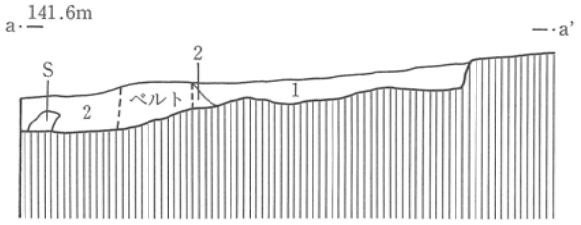
ST1

1	10YR	2/2	黒褐色土	腐食性強い。下位で礫を含む。
2	10YR	2/3	黒褐色土	粘性あり。わずかに炭化物を含む。
3	10YR	3/1	黒褐色土	粘性あり。鉄分を多めに含む。赤褐色粒全体に30%程度含む。
4	10YR	3/2	黒褐色粘質シルト	上位層よりやや砂質を帯びる。遺物をわずかに含む。
5	10YR	3/2	黒褐色粘質土	壁面の崩落か？

0　1m
(1：40)

第5図　ST1竪穴住居跡



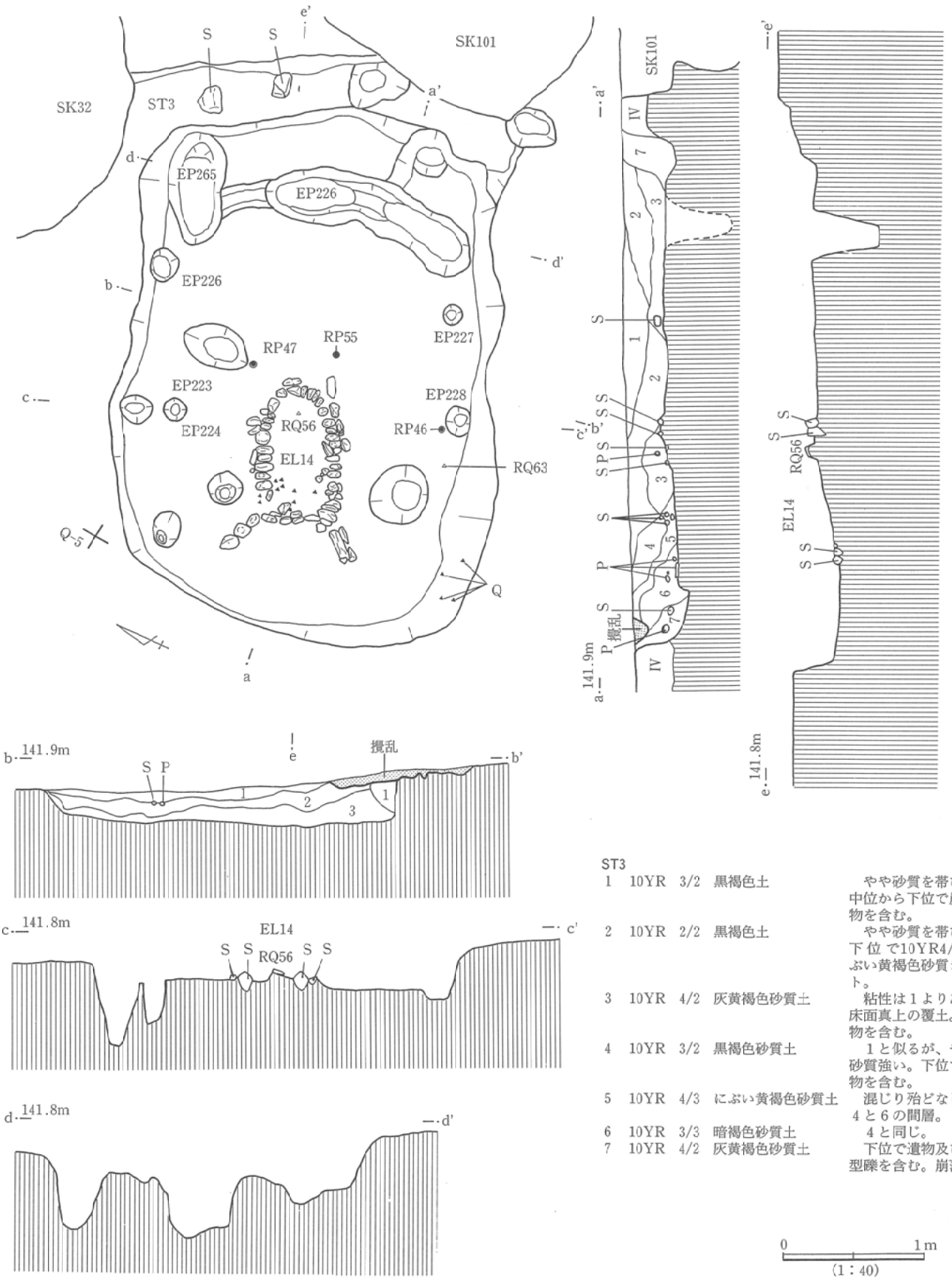


ST2

1　10YR　2/3　黒褐色砂質土　微小風化礫を５％程度含む。
2　10YR　3/1　黒褐色粘質土　混じりなく均質。上位はわずかに攪乱され、大型礫を伴う。
3　10YR　1.7/1　黒色土　混じりなく均質な土質。炭化物をやや含む。

0　1m
(1：40)

第６図　ST２竪穴住居跡

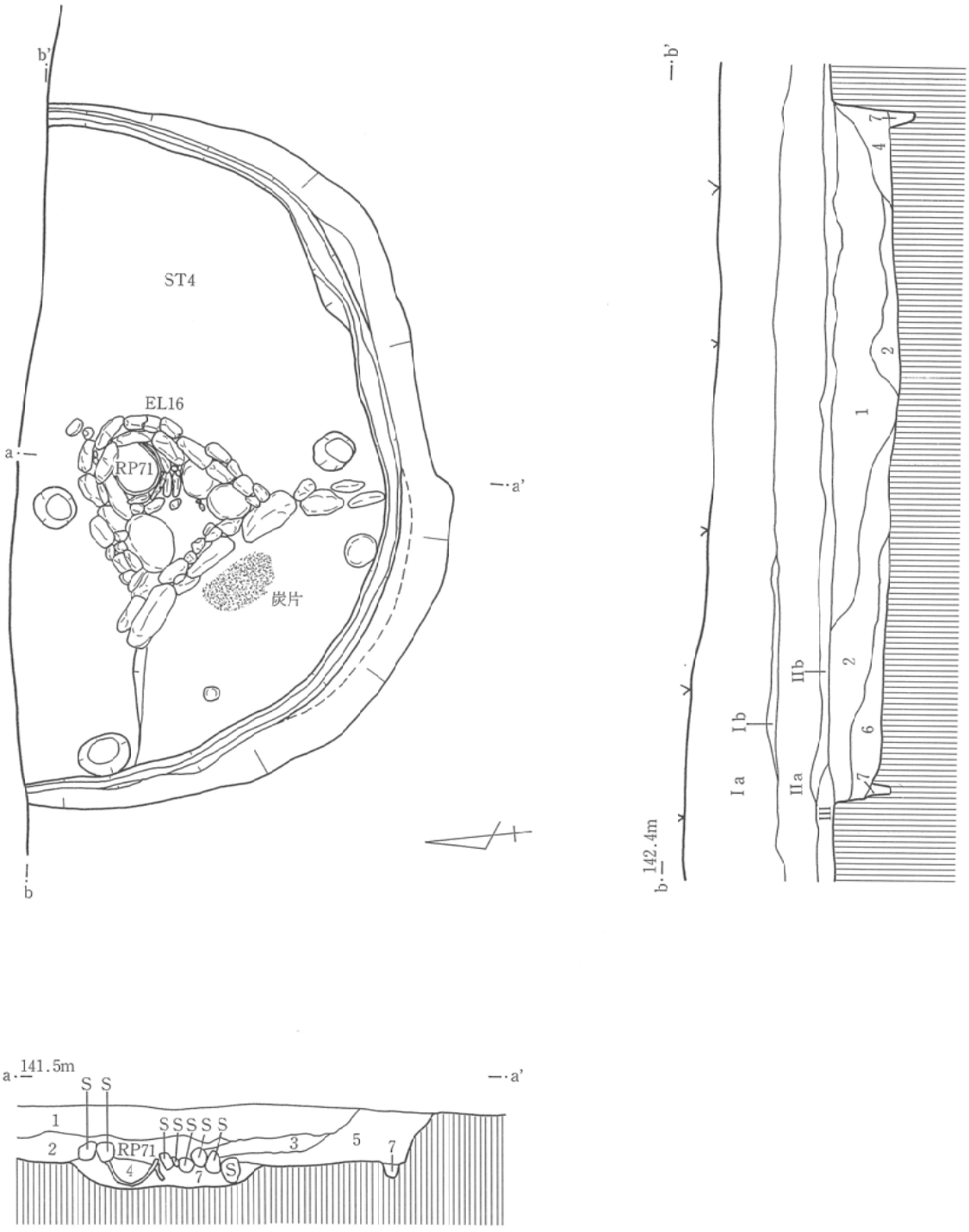


ST3

1	10YR	3/2	黒褐色土	やや砂質を帯びる。中位から下位で炭化物を含む。
2	10YR	2/2	黒褐色土	やや砂質を帯びる。下位で10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト。
3	10YR	4/2	灰黄褐色砂質土	粘性は1よりあり。床面真上の覆土。遺物を含む。
4	10YR	3/2	黒褐色砂質土	1と似るが、やや砂質強い。下位で遺物を含む。
5	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質土	混じり殆どなし。4と6の間層。
6	10YR	3/3	暗褐色砂質土	4と同じ。
7	10YR	4/2	灰黄褐色砂質土	下位で遺物及び中型礫を含む。崩落土。

0　1m
(1：40)

第7図　ST3竪穴住居跡

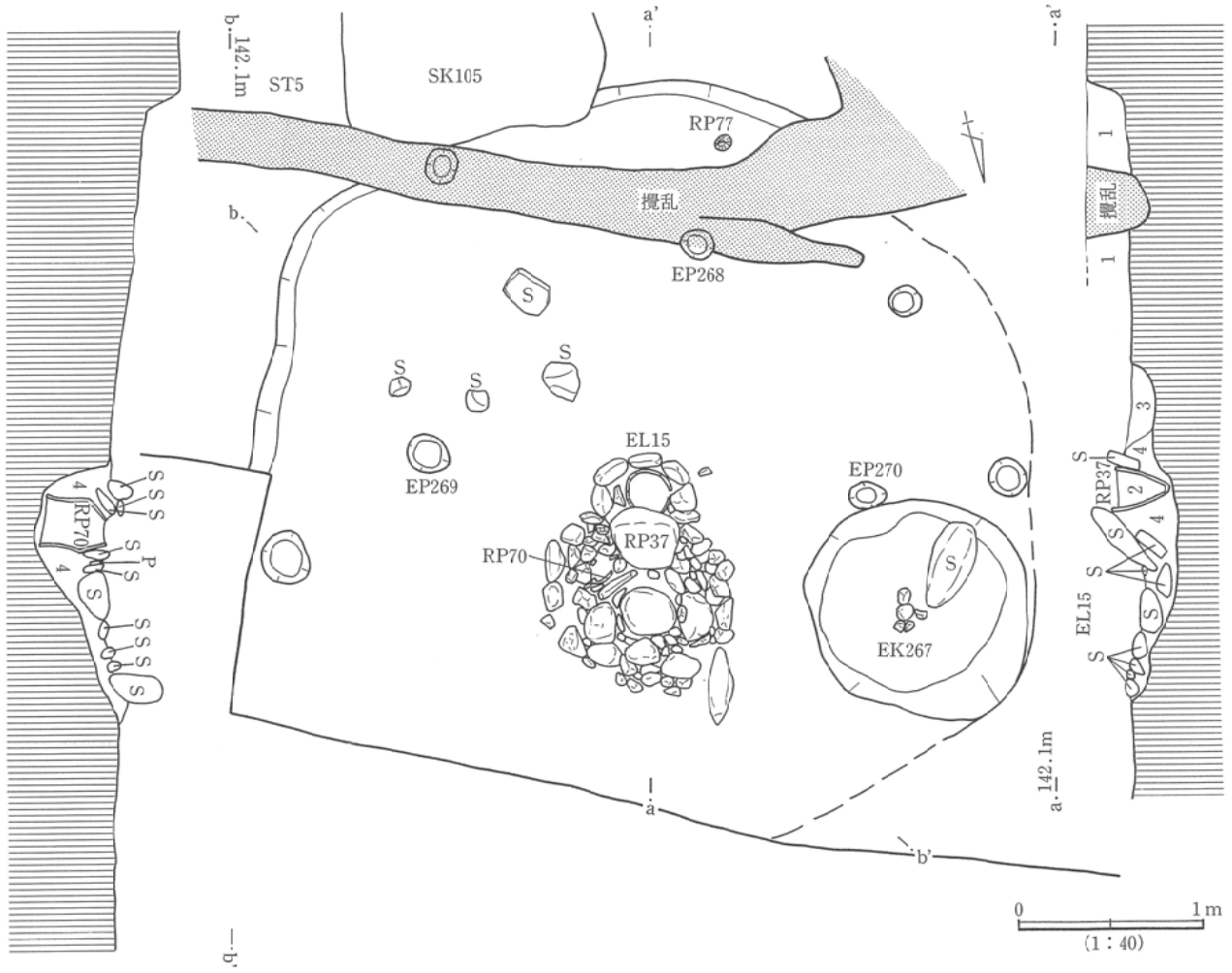


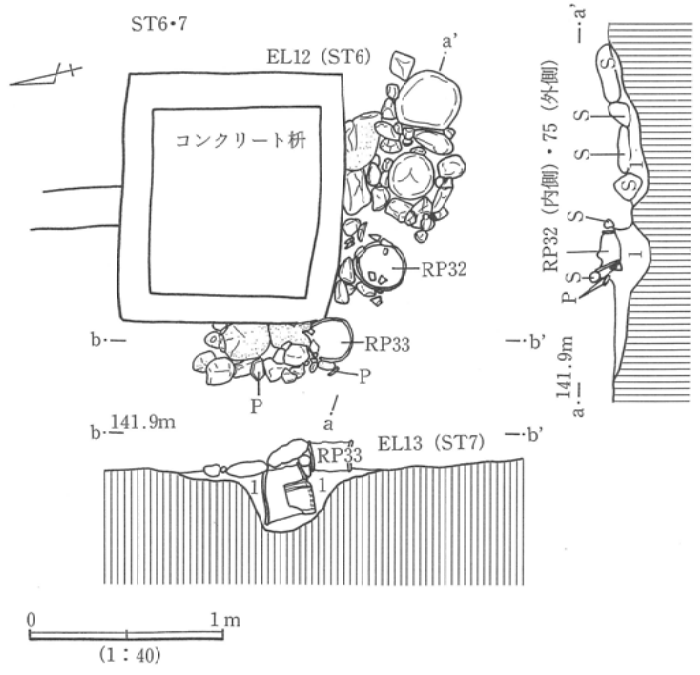
ST4

1	10YR	3/1	黒褐色土	やや砂質を帯びる。炭片を多く含む。
2	10YR	3/2	黒褐色砂質土	下位で小型礫を混入する。遺物をやや含む。
3	10YR	3/1	黒褐色土	やや砂質を帯びる。炭片を多く含む。
4	10YR	3/3	暗褐色砂質土	下位で小型礫を混入する。遺物をやや含む。
5	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	中型礫をやや含む。暗褐色砂質土を30%程度斑状に含む。
6	10YR	5/6	黄褐色砂質シルト	中型礫をやや含む。壁面崩落による地山混入と思われる。
7	10YR	3/1	黒褐色土	やや砂質を帯びる。黄褐色砂質シルトを斑状に20%程度含み、炭片をやや含む。

0 1m
(1:40)

第8図　ST4竪穴住居跡





ST5

1	10YR	3/4	暗褐色砂質土	にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで30%程度混入する。
2	10YR	3/2	黒褐色粘質土	やや砂質を帯びる。下位で小径の風化礫をやや含む。
3	10YR	3/1	黒褐色土	わずかに砂質を帯びる。にぶい黄褐色砂質シルトを５%程度小ブロックで含む。
4	10YR	2/1	黒色土	にぶい黄褐色砂質シルトを５%程度小ブロックで含む。粘性わずかにある。

EL12(ST6)

1	10YR	2/1	黒色土	均質な土質。上位で遺物を破片で混入する。粘性わずかにある。

EL(ST7)

1	10YR	2/1	黒色土	均質な土質。にぶい黄褐色砂質シルトを５%程度小ブロックで含む。粘性わずかにある。

第９図　ST５,EL12・13竪穴住居跡

表１　竪穴住居跡観察表

挿図番号	遺構番号	平面形・規模・覆土	床面・壁・壁溝・周溝	ピット・貯蔵穴・炉	出土遺物
第5図	ＳＴ１	円形プラン。径3.8mの規模を有すると推定。ＳＸ21精査中に方形石組み炉を検出したことから住居跡と判明。ＳＸ21との重複関係は判然とせず。	床面は直床。壁は検出面から11cm掘り込み、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝・周溝はない。	方形石組み炉を伴う。主柱穴は未確認。	大木８ｂ式並行の土器群
第6図	ＳＴ２	円形プラン。径3.3mの規模を有する。調査区西壁にかかる状態で、東半部のみ検出。覆土上層は撹乱され中型礫を多く含む。	床面は直床。壁は検出面から30cm掘り込み、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝・周溝はない。	炉跡は未検出。主柱穴の可能性の高いピットが幾つか検出。	大木８ｂ式並行の土器群 ピットから破片数点の出土。
第7図	ＳＴ３	隅丸長方形プラン。長径3.8m・短径2.6mの規模を有する。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。	床面は直床。壁は検出面から35cm掘り込み、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝・周溝はない。	馬蹄形石組み炉を伴う。主柱穴の可能性の高いピットが幾つか検出。	大木８ｂ末～９式平行の土器群。床面で入れ子状の土器出土。 磨製石斧 石篦
第8図	ＳＴ４	円形プラン。径4.3mの規模を有する。調査区北壁にかかる状態で、南半部のみ検出。北側は安全上の理由から調査は行わず。	床面は直床。壁は検出面から40cm掘り込み、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝が周囲に巡る。	複式炉を伴う。埋設土器は１つ。外側に土器片を貼りつける。主柱穴の可能性の高いピットが幾つか検出。	大木10式中段階の土器群
第9図	ＳＴ５	円形プラン。径4.3mの規模を有する。東半部の一部でのみ壁の立ち上がりが確認でき、規模が推定できた。	床面は直床。壁は検出面から40cm掘り込み、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝・周溝はない。	西側に土坑あるが、深さは浅い。遺物は出土せず。 複式炉を伴う。２つの土器が埋設される。	大木10式中段階平行の土器群
第9図	ＳＴ６	プラン不明。 複式炉の検出によって住居跡と確認。ＳＴ７と切り合う。コンクリート構造物によって撹乱を受ける。	床面は直床。壁は検出面から17cm掘り込み、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝・周溝はない。	複式炉を伴う。埋設土器は１つ。外側に土器片を貼りつける。 主柱穴は未検出。	大木10式新段階平行の土器群
第9図	ＳＴ７	プラン不明。 複式炉の検出によって住居跡と確認。ＳＴ６と切り合う。コンクリート構造物によって撹乱を受ける。	床面は直床。壁は検出面から17cm掘り込み、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝・周溝はない。	複式炉を伴う。埋設土器は２つ。一方には、外側に土器片を貼りつける。 主柱穴は未検出。	大木10式中段階の土器群

2　土坑

本遺跡では規模の大きい土坑が集中して見られる点に特徴がある。また、覆土上層で遺物を大量に含むものが多い傾向があるのも特徴的である。特に遺物の混入が著しいのは、ＳＫ27・31・35・36・37・101である。

ＳＫ35は覆土１層目から遺物を大量に混入し、４層で土色が大きく変化し、炭化物を含む黒色土層となる。この層からＲＰ28の注口土器が出土した。出土状況は、ほぼ完形に近かった。

ＳＫ101は覆土１層目から遺物を大量に混入していた。ＳＫ35のＦ４と同様の黒色土層がここではＦ３層で見られた。遺物の混入度合はＳＫ35と同様だが、深さは検出土坑群の中では最も深く、約２ｍに達する。全面に大型礫が検出されたところが底面となり、そこからＲＰ50が出土している。礫は下層まで続いていたため、地山であると判断した。礫は円礫がほとんどであったことから、旧河道の河床と思われる。

土坑は機能していた当時はフラスコ状の形態をとっていたと考えられるが、基盤層の土壌は砂質が強く、非常に崩落しやすい土壌のため、オーバーハング部分はほとんどの土坑で既に崩落している。断面観察の結果、上記の事実が確認されたわけであるが、これらは覆土中に多くの遺物を含んでおり、所期の機能を失った後、廃棄土坑としての性格を担うものが存在する。また覆土の堆積状況も特徴的であり、検出面から約30cm下までの層が黒色土をレンズ状に堆積している部分が見られる。その前後の層は褐色シルトが強く、明らかに自然堆積とは違う様相を示している。またその黒色土層中に完形の深鉢が出土しているものが数例認められた。埋納施設の可能性も示唆されたが、土壌分析の結果、リンやカルシウム成分は通常値の範囲内に収まることがわかった。さらに分析からは焼成痕も確認できず、土中から堅果類の種皮が微細遺物として検出された。種皮類の廃棄による腐植土の堆積と考えられる。（付編）

以下は検出された土坑についてその状況及び形態を三段階に分類し、Ｉ－Ａａの形で表中に記した。

第一分類

Ｉ類：円形のプランを有するもの

II類：不整円形のプランを有するもの

III類：楕円形のプランを有するもの

IV類：不整楕円形のプランを有するもの

Ｖ類：上記のいずれにも属さないもの

第二分類

Ａ類：壁面がオーバーハングして立ち上がるもの

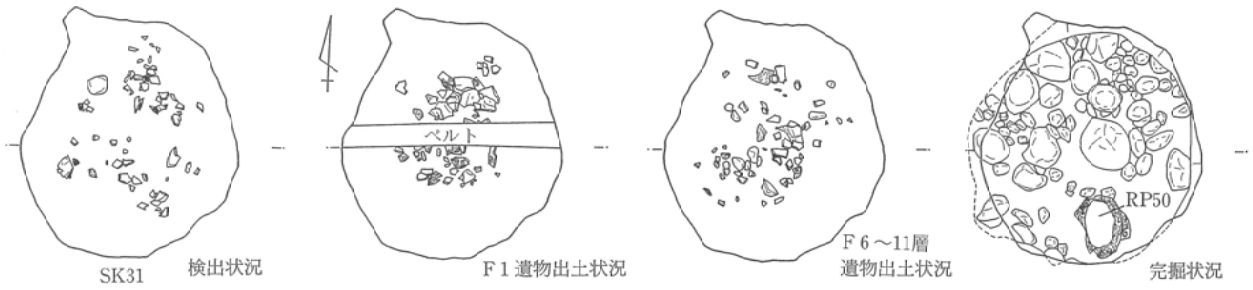
Ｂ類：壁面が垂直に立ちあがるもの

Ｃ類：壁面は緩やかに立ちあがるもの

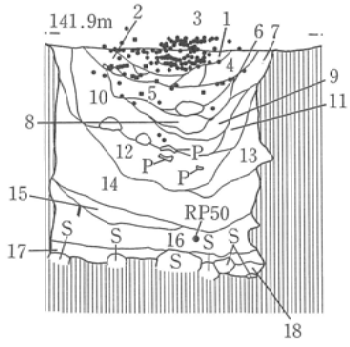
第三分類

ａ類：底面が平坦なもの

ｂ類：底面が弯曲したもの

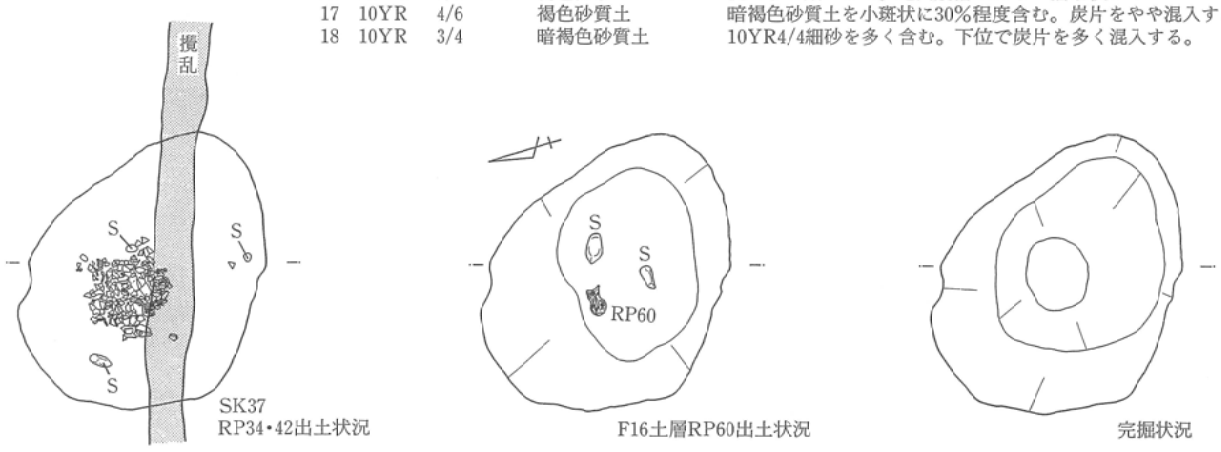


SK31 検出状況　　F１遺物出土状況　　F６～11層 遺物出土状況　　完掘状況

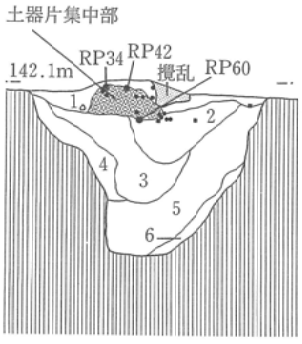


SK31

1	7.5YR	4/3	褐色シルト質土	遺物を多く含む。炭化物多い。下位に焼土を多く含む、約40%。
2	7.5YR	2/2	黒褐色シルト質土	１%焼土を含む。
3	10YR	1.7/1	黒色粘質土	遺物を上位に、下位で中型礫を含む。10YR2/2黒褐色シルト質土を斑状に10%程度含む。炭化物あり。
4	10YR	1.7/1	黒色粘質土	微小礫をわずかに３%程度含む。
5	7.5YR	3/1	黒褐色粘質土	Ｆ２の土を斑状に20%程度含み、炭化物を混入する。下位で小型礫を10%程度含む。
6	7.5YR	2/1	黒色粘質土	上位で風化礫を７%程度含む。下位で大型礫あり。炭化物を混入する。
7	10YR	1.7/1	黒色粘質土	微小礫を10%程度含む。わずかに炭化物を含む。
8	10YR	3/2	黒褐色シルト質土	地山崩落土を30%程度伴う。小礫及び風化礫を混入する。
9	7.5YR	2/2	黒褐色粘質土	やや砂質土を帯びる。微小礫及び風化礫をわずかに混入。微少の炭化物あり。
10	7.5YR	3/1	黒褐色粘質土	Ｆ９よりやや砂質強い。微小礫を20%混入。炭化物を塊で含む。
11	7.5YR	2/1	黒色粘質土	わずかに砂質土を帯びる。上位で風化礫を20%程度混入し炭化物を含む。下位で遺物を包含する。
12	10YR	3/4	暗褐色砂質シルト	地山崩落土。炭化物あり。礫及び風化礫を微少含む。
13	7.5YR	2/1	黒色粘質土	やや砂質を帯びる。遺物及び炭化物を多く包含する。風化礫あり。
14	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	混入物殆どなし。地山崩落土？SK31下層で検出ピットの覆土か？
15	10YR	3/4	暗褐色砂質土	10YR4/4細砂を多く含む。下位で炭片を多く混入する。
16	10YR	4/6	褐色微砂	混じりは殆どなし。地山崩落による一括堆積か？
17	10YR	4/6	褐色砂質土	暗褐色砂質土を小斑状に30%程度含む。炭片をやや混入する。
18	10YR	3/4	暗褐色砂質土	10YR4/4細砂を多く含む。下位で炭片を多く混入する。



SK37 RP34・42出土状況　　F16土層RP60出土状況　　完掘状況

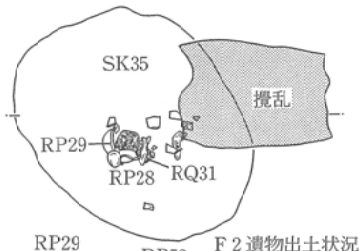


SK37

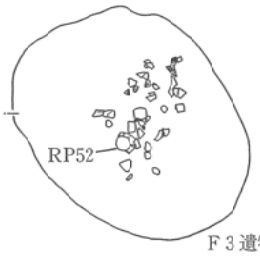
1	10YR	3/4	暗褐色砂質シルト	遺物を破片で大量に包含する。下位でRP60完形土器出土。
2	10YR	4/3	にぶい黄褐色粘質シルト	下位に風化礫を伴う。
3	10YR	2/2	黒色砂質土	全体に風化礫を５%程度含む。
4	10YR	4/4	褐色シルト	地山崩落土。
5	10YR	3/2	黒褐色砂質土	上位に大斑状に10YR4/4褐色シルトを含む。
6	10YR	4/4	褐色シルト	地山崩落土。

0　1m
(1：60)

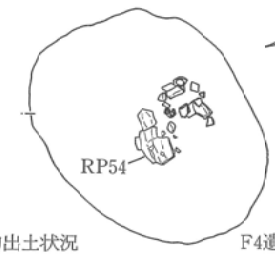
第10図　土坑(1)



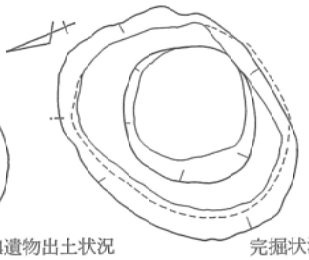
F２遺物出土状況



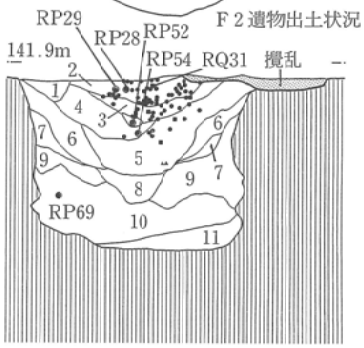
F３遺物出土状況



F4遺物出土状況

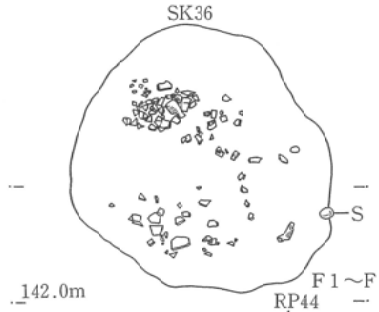


完掘状況



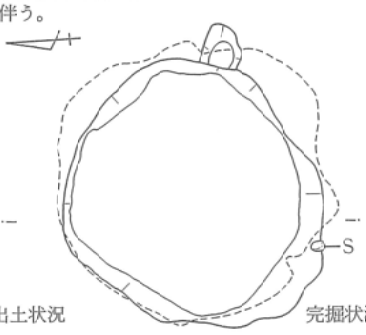
SK35

1	10YR	3/3	暗褐色砂質土	新しめのピットか。風化礫をやや混入する。
2	10YR	2/3	黒褐色土	やや砂質を帯びる。土器片及び炭片を多量に含む。注口土器出土層。
3	10YR	1.7/1	黒色粘質土	粘性強く、遺物をやや含む。２よりは少ない。風化礫をわずかに混入する。
4	10YR	3/4	暗褐色砂質シルト	遺物をわずかに含む。風化礫を多量に50%程度混入する。地山崩落土。
5	10YR	2/3	黒褐色土	わずかに砂質を帯びる。上位で遺物を含む。小型の風化礫を10%程度含む。
6	10YR	2/2	黒褐色砂質土	やや粘性あり。上位でわずかに風化礫を混入する。遺物なし。
7	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	地山と接する。混入物なし。
8	10YR	3/2	黒褐色砂質シルト	小礫わずかに３%程度含む。
9	10YR	4/4	褐色砂質シルト	砂質が強い。地山崩落土。
10	10YR	3/2	黒褐色砂質土	中位で礫及び地山シルトをブロック状に混入する。完形遺物を含む。
11	10YR	3/2	黒褐色砂質土	下位で礫を伴う。

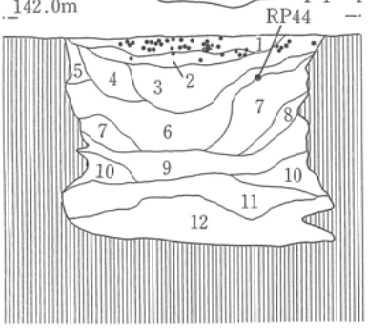


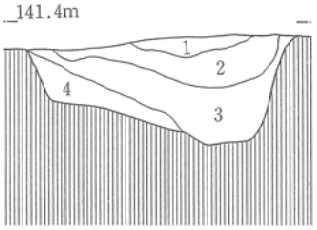
F１～F２遺物出土状況

F３・F６遺物出土状況



完掘状況





SK35

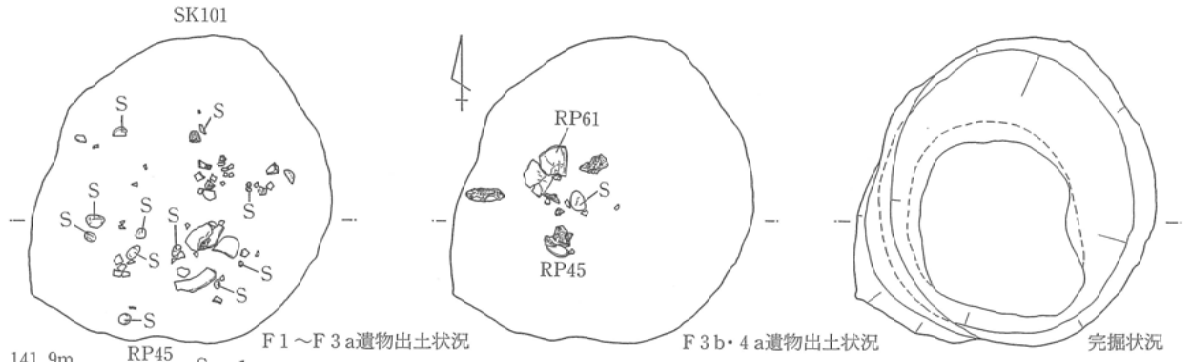
1	10YR	2/2	黒褐色土	下位で炭化物を多く含む。遺物も多く含む。
2	10YR	3/1	黒褐色土	中位で炭化物及び遺物を多く含む。細かい礫を全体に混入する。
3	10YR	1.7/1	黒色土	粘性強まる。層全体に遺物及び炭片を大量に含む。風化礫の混入あり。
4	10YR	3/2	黒褐色砂質土	上位で遺物を混入する。下位で風化礫ややあり。
5	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	地山崩落土。
6	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	風化礫を大量に含む。わずかに炭片を含む。
7	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	風化礫の混入６より少ない。完形の深鉢出土層。
8	10YR	4/4	褐色砂質シルト	混じりなし。
9	10YR	3/4	暗褐色砂質シルト	中位でやや風化礫を混入する。
10	10YR	4/4	褐色シルト	混じりなし。
11	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	上位で10YR3/3暗褐色砂質土をブロック状に10%程度含む。
12	10YR	4/4	褐色微砂	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に30%程度含む。中位で風化礫を混入する。

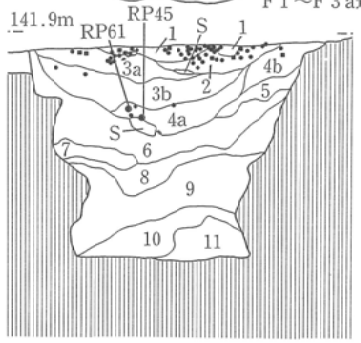
SK23

1	10YR	3/2	黒褐色土	スコリア多く含む。
2	10YR	2/1	黒色土	炭片多く含む。スコリアをわずかに含む。
3	10YR	3/1	黒褐色土	下位で10YR2/3黒褐色砂質土を斑状に30%程度含む。
4	10YR	3/2	黒褐色砂質土	下位で風化礫をやや含む。

0　1m
(1：60)

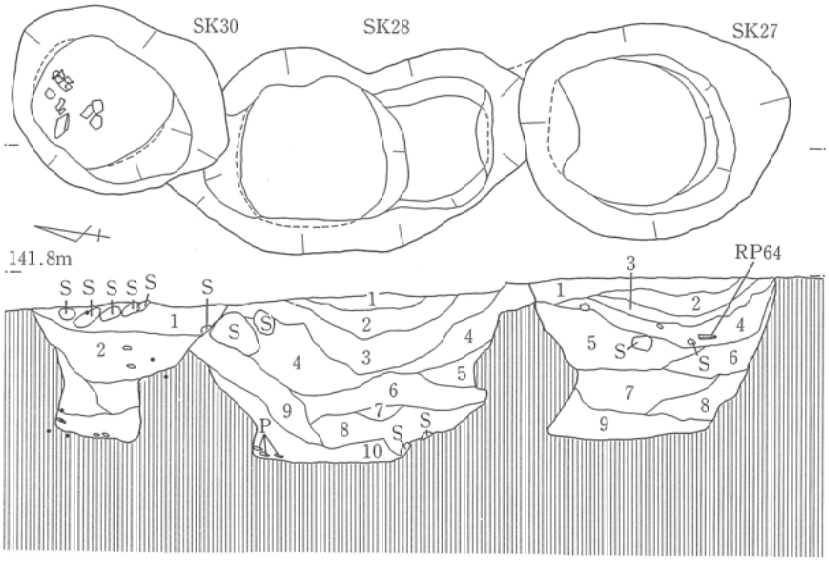
第11図　土坑(2)





SK101

1	10YR	2/3	黒褐色土	やや砂質を帯びる。土器片及び炭片を多量に含む。
2	10YR	1.7/1	黒色砂質土	粘性強い。遺物をやや含む。風化礫をわずかに混入する。
3	10YR	2/3	黒褐色土	やや砂質を帯び、遺物・炭片を含む。中位で褐色が強くなる。
4	10YR	3/2	黒褐色砂質土	遺物・炭片をわずかに含む。風化礫を多量に含み、下位で大型化する。
5	10YR	2/3	黒褐色土	暗褐色砂質土を30%程度含む。
6	10YR	3/2	黒褐色砂質土	上位で風化礫をやや含む。立ち上がりで地山を混入する。
7	10YR	4/4	褐色シルト	混じりなく均質。
8	10YR	2/3	黒褐色砂質土	下位で大型風化礫を伴う。立ち上がりで風化礫を多く含む。
9	10YR	5/4	にぶい黄褐色シルト	やや砂質を帯び、中位で帯状に暗褐色シルトを約30%程度含む。炭片わずかにあり。
10	10YR	7/6	明黄褐色砂質シルト	風化礫をわずかに含む。
11	10YR	5/6	黄褐色砂質シルト	風化礫を多く約50%程度含む。大型の礫も含む。



SK27

1	10YR	3/3	暗褐色砂質土	やや粘性あり。
2	10YR	3/1	黒褐色土	やや砂質を帯びる。炭片をわずかに含む。
3	10YR	4/4	褐色シルト	10YR3/3暗褐色シルトを中斑状に20%程度含む。
4	10YR	2/1	黒色粘質土	遺物を多量に含む。炭片を多量に含む。
5	10YR	3/4	暗褐色砂質シルト	粘性なく、崩れやすい。中型礫及び風化礫を大量に。
6	10YR	5/6	黄褐色細砂	風化礫を多く含む。
7	10YR	5/4	にぶい黄褐色細砂	粘性無し。風化礫をやや含む。下位で大型化。
8	10YR	4/4	褐色中砂	粘性無し。風化礫をやや含む。下位で大型化。

SK28

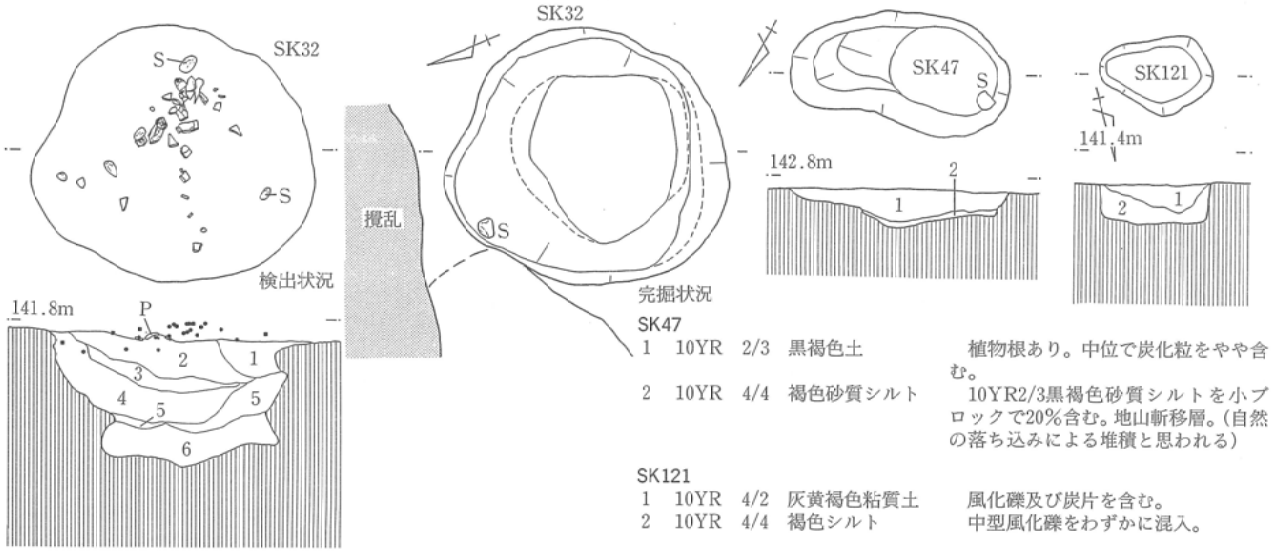
1	10YR	2/2	黒褐色砂質土	やや粘性あり。下位で炭片を含む。
2	10YR	2/1	黒色土	わずかに砂質を帯びる。遺物及び炭片を多く含む。
3	10YR	3/2	黒褐色砂質土	炭片をやや含む。下位で風化礫をわずかに含む。
4	10YR	3/1	黒褐色土	下位で遺物をわずかに含む。炭片あり。全体に小型の風化礫を混入する。
5	10YR	4/2	灰黄褐色砂質シルト	帯状に酸化する。鉄分多し。
6	10YR	3/2	黒褐色土	やや砂質を帯びる。全体に風化礫を5%程度混入する。
7	10YR	3/3	暗褐色砂質土	混じりなく、均質である。
8	10YR	4/4	褐色中砂	わずかにシルト質を帯びる。
9	10YR	4/3	にぶい黄褐色微砂	全体に風化礫を30%程度混入する。
10	10YR	3/1	黒褐色砂質土	粘性あり。混じりなし。

SK30

1	10YR	3/3	暗褐色土	やや粘性あり。中型礫を上位で混入する。
2	10YR	2/3	黒褐色土	均質な土質。遺物をわずかに含む。
3	10YR	3/4	暗褐色砂質土	やや砂質を帯びる。にぶい黄褐色シルトを斑状に20%程度含む。
4	10YR	3/1	黒褐色土	やや砂質を帯びる。にぶい黄褐色シルトを小ブロック状に40%程度含む。
5	10YR	2/2	黒褐色土	粘性ややあり。混じりなく均質な土質。

0 1m
(1:60)

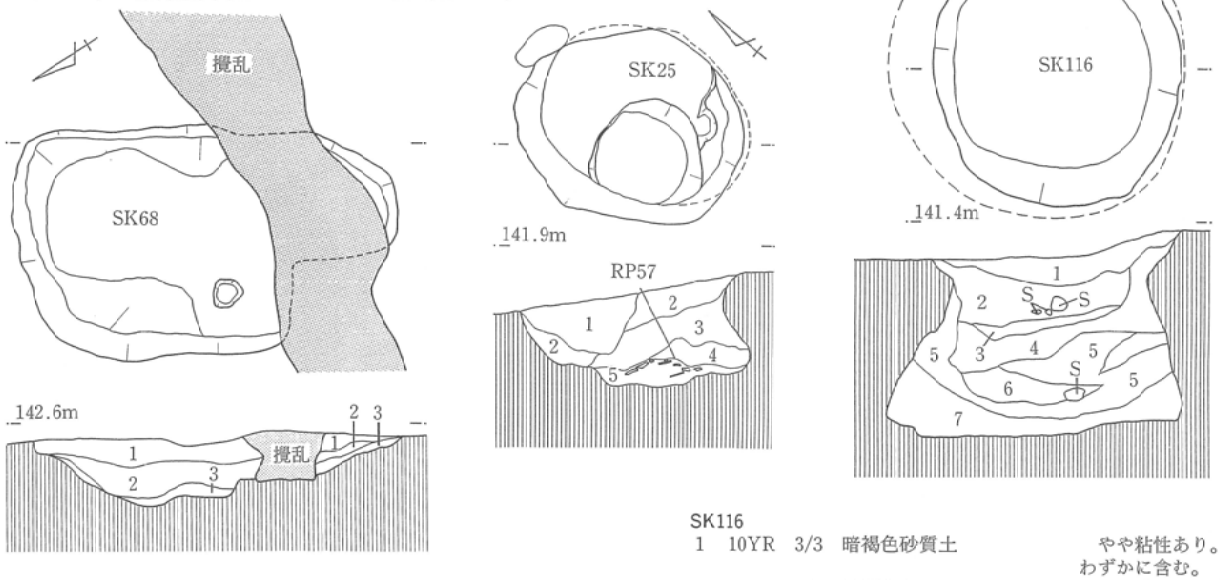
第12図　土坑(3)



SK47
1　10YR　2/3　黒褐色土　　植物根あり。中位で炭化粒をやや含む。
2　10YR　4/4　褐色砂質シルト　　10YR2/3黒褐色砂質シルトを小ブロックで20%含む。地山斬移層。(自然の落ち込みによる堆積と思われる)

SK121
1　10YR　4/2　灰黄褐色粘質土　　風化礫及び炭片を含む。
2　10YR　4/4　褐色シルト　　中型風化礫をわずかに混入。

SK32
1　10YR　3/2　黒褐色砂質土　　遺物、風化礫及び炭片を含む。
2　10YR　3/1　黒褐色砂質土　　遺物、風化礫及び炭片を含む。
3　10YR　4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　　10YR2/3黒褐色砂質土を小ブロックで含む。
4　10YR　3/2　黒褐色砂質土　　土質は2と同じ。遺物、風化礫及び炭片を含む。
5　10YR　3/3　暗褐色砂質土　　風化礫わずかにあり。
6　10YR　3/2　黒褐色砂質土　　混入物少ない。



SK68
1　7.5YR　2/1　黒色土　　粘性あり。全体にわたって赤褐色鉄分を小斑状に40%程度含む。
2　10YR　2/2　黒褐色土　　土質は1と同じ。下位でわずかに炭化物を含む。
3　10YR　5/4　にぶい黄褐色シルト　　赤褐色鉄分を小粒子で30%程度全体に含む。地山斬移層。

SK25
1　10YR　3/2　黒褐色砂質土　　下位で黒色やや強くなる。炭化物をわずかに含む。
2　10YR　3/4　暗褐色砂質土　　1よりややシルト質強くなる。
3　10YR　3/3　暗褐色砂質土　　中斑状に10YR4/6褐色砂質シルトを30%程度含む。
4　10YR　2/3　黒褐色粘質土　　風化礫をわずかに上位及び下位で含む。2を中斑状に30%程度含む。
5　10YR　5/6　黄褐色砂質シルト　　下位で10YR3/4暗褐色砂質土を40%程度混入する。

SK116
1　10YR　3/3　暗褐色砂質土　　やや粘性あり。遺物をわずかに含む。
2　10YR　2/2　黒褐色土　　中型礫をやや含む。炭化物わずかにあり。
3　10YR　3/1　黒褐色土　　炭片を多く含む。遺物を含む。
4　10YR　3/2　黒褐色シルト　　上位で地山を大ブロックで混入する。
5　10YR　5/4　にぶい黄褐色シルト　　地山崩落による堆積。10YR5/6黄褐色シルトを大ブロックで含む。
6　10YR　3/2　黒褐色土　　粘性あり。地山を斑状に10%程度含む。
7　10YR　5/3　にぶい黄褐色砂質シルト　　混じりなく均質。

0　1m
(1：60)

第13図　土坑(4)

表2　土坑観察表

遺構番号	検出グリッド	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	形状	分類	出土遺物	挿図番号
SK22	U-2	337	267	5	不整円形	Ⅳ-Cb	なし	—
SK23	V-2	218	120	85	楕円形	Ⅲ-Cb	土器破片	第11図
SK25	Q-4.5	177	160	78	円形	Ⅰ-Aa	土器破片	第13図
SK26	Q-6	141	132	21	不整円形	Ⅱ-Bb	なし	—
SK27	Q-9	210	170	126	不整円形	Ⅱ-Aa	土器破片	第12図
SK28	Q-8	230	164	130	隅丸方形	Ⅳ-Aa	土器破片	第12図
SK30	Q-7	166	148	106	不整円形	Ⅱ-Aa	土器大量	第12図
SK31	M-7	187	172	165	楕円形	Ⅱ-Aa	土器大量	第10図
SK32	O-4	222	200	98	円形	Ⅰ-Ab	土器大量	第13図
SK33	P-4	198	164	40	不整楕円形	Ⅳ-Ca	土器大量	—
SK35	K.L-3.4	205	156	131	楕円形	Ⅲ-Ab	注口土器	第11図
SK36	L-5	206	200	160	不整円形	Ⅱ-Aa	土器大量	第11図
SK37	G-4	230	174	138	不整楕円形	Ⅳ-Cb	土器大量	第10図
SK47	G—34	170	95	30	不整楕円形	Ⅳ-Cb	なし	第13図
SK65	L-32	177	165	67	円形	Ⅰ-Cb	破片	—
SK67	J-30	70	43	11	楕円形	Ⅲ-Cb	なし	—
SK68	D-31	300	182	53	楕円形	Ⅴ-Cb	破片	第13図
SK69	F-32	83	62	28	楕円	Ⅲ-Ca	なし	—
SK72	E-37	91	57	5	楕円形	Ⅲ-Ba	なし	—
SK73	E-38	82	67	19	不整楕円形	Ⅳ-Cb	なし	—
SK76	G-34	82	45	8	楕円形	Ⅲ-Cb	石器剝片	—
SK77	I-31	80	72	11	円形	Ⅰ-Cb	なし	—
SK83	H-24	58	40	7	円形	Ⅰ-Cb	破片	—
SK84	G-25	70	66	13	不整楕円形	Ⅳ-Cb	破片	—
SK85	E-22	137	60	9	不整楕円形	Ⅳ-Cb	なし	—
SK87	P-15	104	39	54	不整円形	Ⅱ-Ba	なし	—
SK88	Q-15	188	150	133	隅丸方形	Ⅲ-Aa	破片	—
SK92	I-11	110	81	12	不整楕円形	Ⅳ-Ba	なし	—
SK93	T-9	69	42	3	楕円形	Ⅲ-Cb	なし	—
SK94	T-8	248	208	5	円形	Ⅰ-Cb	なし	—
SK95	S-7	108	73	12	円形	Ⅰ-Ba	なし	—
SK96	S-8	102	59	9	不整楕円形	Ⅳ-Cb	なし	—
SK97	T-8	114	78	5	不整楕円形	Ⅳ-Cb	なし	—
SK98	S-5	84	65	9	円形	Ⅰ-Cb	なし	—
SK99	S-5	33	27	7	不整円形	Ⅱ-Cb	なし	—
SK100	S-5	71	46	10	不整円形	Ⅱ-Ba	なし	—
SK101	N-5.6	255	224	170	不整円形	Ⅱ-Aa	土器大量	第12図
SK105	J-4	21	19	70	不整円形	Ⅱ-Ab	土器破片	—
SK106	A-18	144	70	16	不整円形	Ⅱ-Ba	土器破片	—
SK115	Q-17	110	100	35	不整楕円形	Ⅳ-Aa	なし	—
SK116	T-4	212	195	140	楕円形	Ⅰ-Aa	土器破片	第13図
SK117	W-3.4	107	52	42	不整円形	Ⅱ-Cb	土器破片	—
SK121	W-2	90	60	30	不整楕円形	Ⅳ-Ba	なし	第13図

3　陥穴

調査区南半部で陥穴が全部で46基検出された。ＳＸ21包含層下からも数基の落とし穴が検出され、南区から列状につながる様子が確認できた。包含層の黒色土中から掘り込まれていると思われるが、検出が困難であったため黒色土を外して地山面で検出した。

本遺跡の陥穴の傾向として、掘り方壁面が波状にオーバーハングする形状を持つものが多いこと、覆土中に遺物をほとんど含まないことが大きな特徴となっている。波状のオーバーハングが何を意味するのか現在のところは不明である。壁面に何らかの構築物を設置していたのか、それとも獲物の確実な捕獲を行うために波状にしたのか、今後検討を要するものである。

底面中央のピットについては、アタリが存在すると思われるものも幾つか検出することはできたが、覆土と地山の判別がつきにくい土色で抜き取りの行われたピットもあり、それらについては未検出のものも多い。アタリの深さについてもまちまちで、一定の規則性を見出すことはできなかった。

注目すべき検出例としてＳＫ102があげられる。ＳＫ102は底面でピットが検出され、中央にアタリと思われる黒色土、掘り方に川原石を配して杭を押さえていた状況が見つかった。逆茂木の構築方法として注目できる例であるが、他の陥穴からは同様の形状は確認できなかった。ＳＫ102は他の陥穴に比して深い位置で底面となり、ピット掘り方が検出されている。

検出された陥穴からはＳＫ48で覆土中から篦状石器が１点出土している以外は遺物がほとんど出土していないため、北半部の住居域との関わりは不明である。時期の判別も不明であるが、ここでは検出された陥穴の形状による形態分類を行う。計測値等の詳細は観察表を参照していただきたい。又、紙面の都合上掲載できない図が多いことを御了承願いたい。

陥穴は大きく列状に分布していると考えられ、それらは、４列になると思われる。一部には重複関係がみられることから、１列ずつが独自に機能していたとの前提に立ち、それぞれⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ群に分けた。また、４列のうち、どの列に帰属するのか判別が困難なものをⅤ群とした。

さらに形状から以下のように分けられる。

（第２分類）

Ａ類……底面からピットが検出されたもの

Ｂ類……底面からピットが検出されなかったもの

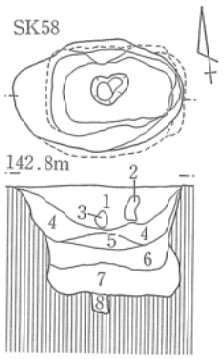
（第三分類）

ａ類……壁面が波状の凹凸を有するもの

ｂ類……壁面がなだらかに傾斜し外反するもの

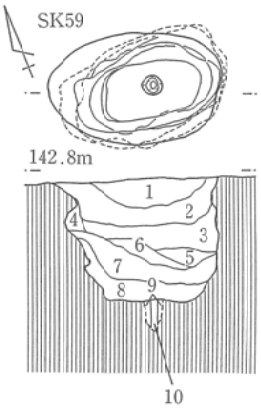
ｃ類……壁面がほぼ垂直に立ちあがるもの

分類の表示は、Ⅰ－Ａａのように示し、観察表中に記し別表のような結果を得た。



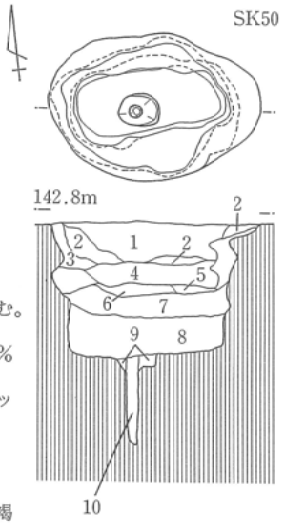
SK58

1	10YR	2/2	黒褐色砂質土	植物根わずかにあり。
2	10YR	1.7/1	黒色土	やや粘性あり。
3	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	F１中のブロック。
4	10YR	3/2	黒褐色砂質土	10YR4/3を小斑状に20%含む。
5	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	地山の一括流入か？
6	10YR	3/3	暗褐色砂質土	中位に10YR2/2黒褐色土を40%程度含む。やや締まっている。
7	10YR	4/4	褐色細砂	やや粘性あり。シルトをやや含む。
8	10YR	4/4	褐色細砂	10YR3/3暗褐色砂質土を斑状に40%程度含む。アタリ。



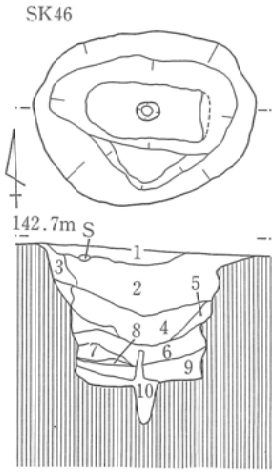
SK59

1	10YR	3/1	黒褐色砂質土	混じりなく均質。わずかに植物茎あり。
2	10YR	2/2	黒褐色砂質土	1より腐食性やや強い。
3	10YR	3/1	黒褐色砂質土	土質は2に似る。中位で遺物（フレーク）を包含する。
4	10YR	3/3	暗褐色砂質土	小斑状に10YR4/4褐色砂質シルトを40%程度含む。
5	10YR	3/3	暗褐色砂質土	小斑状に10YR4/4褐色砂質シルトを30%程度含む。
6	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/3暗褐色砂質土を下位で40%程度含む。
7	10YR	2/2	黒褐色砂質土	やや粘性あり。混じりなし。
8	10YR	3/3	暗褐色砂質土	4と同じ。
9	10YR	4/3	にぶい黄褐色細砂	ややシルト粒を含む。
10	10YR	3/4	暗褐色細砂	黒色粘質土を小粒子で30%程度全体に含む。



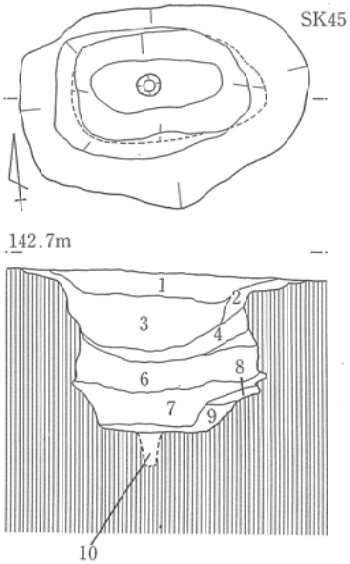
SK50

1	10YR	3/1	黒褐色砂質土	混じりなし。わずかに植物根を上位で含む。
2	10YR	3/2	黒褐色砂質土	10YR3/3暗褐色砂質土を20%程度含む。
3	10YR	3/3	暗褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを40%含む。地山土を混入する。
4	10YR	2/2	黒褐色砂質土	下位で4/4褐色砂質シルトを縦紐状ブロックで10%程度含む。
5	10YR	3/3	暗褐色砂質土	混じりなし。
6	10YR	3/3	暗褐色砂質土	5と同じ。
7	10YR	3/2	黒褐色砂質土	混じりなし。
8	10YR	3/3	暗褐色砂質土	砂質が強く、やや締る。上位に10YR4/4褐色砂質シルトをブロック状に混入する。
9	10YR	4/3	にぶい黄褐色細砂	わずかに粘性あり。
10	10YR	3/2	黒褐色砂質シルト	やや10YR4/4細砂を均一に含む。



SK46

1	10YR	2/1	黒色土	やや砂質を帯びる。
2	10YR	3/1	黒褐色土	やや砂質を帯びる。植物根ややあり。
3	10YR	3/3	暗褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に30%程度含む。3'は10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを70%含む。地山崩落土。
4	10YR	2/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質。
5	10YR	3/3	暗褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで40%程度含む。地山土の混入か。
6	10YR	3/1	黒褐色砂質土	やや粘性あり。混じりなく均質な土質。
7	10YR	3/3	暗褐色砂質土	混じりなく均質な土質。
8	10YR	2/2	黒褐色砂質土	やや粘性あり。混じりなく均質な土質。
9	10YR	3/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質な土質。植物根を含む。
10	10YR	2/1	黒色砂質土	やや粘性あり。下位で植物根を含む。

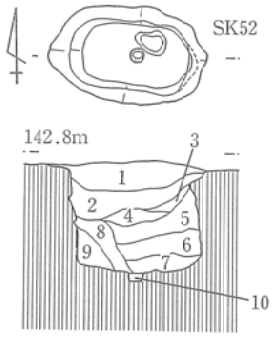


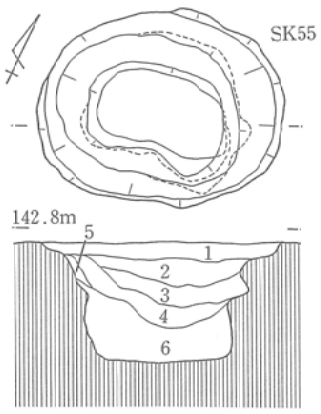
SK45

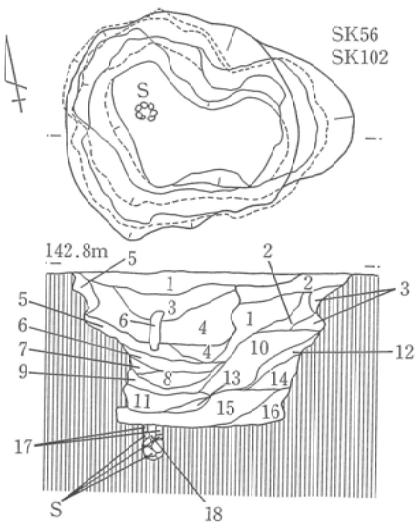
1	10YR	1.7/1	黒色土	やや砂質を帯びる。
2	10YR	2/3	黒褐色砂質土	地山崩落土を混入する。
3	10YR	2/2	黒褐色土	1より砂質強い。中位で遺物（石器剝片）を含む。
4	10YR	3/2	黒褐色砂質土	3及び6との間に細長く10YR4/4褐色シルトを混入する。地山崩落によるもの。
5	10YR	2/3	黒褐色砂質土	2と同じ。
6	10YR	2/2	黒褐色砂質土	やや粘性あり。下位で10YR4/4褐色シルトを斑状に含む。遺物（石片）あり。
7	10YR	2/2	黒褐色砂質土	やや粘性あり。10YR4/4褐色砂質シルトを全体に斑状に30%程度含む。
8	10YR	4/4	褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色砂質土を斑状に20%程度含む。
9	10YR	4/3	にぶい黄褐色シルト	壁面崩落による地山土。
10	10YR	2/2	黒褐色砂質土	砂質を帯びるが、混入物なく均質な土質。

0　2m
(1：60)

第14図　陥穴(1)







SK52、掘方未検出

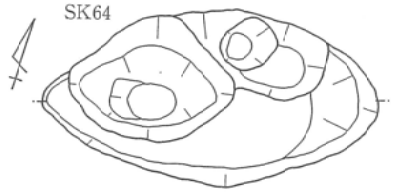
1	10YR	2/2	黒褐色土	やや砂質を帯びる。混じりなし。
2	10YR	3/2	黒褐色土	やや砂質を帯びる。1より強い。下位で褐色強くなる。混じりなし。
3	10YR	3/2	黒褐色砂質土	2よりやや褐色強い。混じりなし。
4	7.5YR	4/4	褐色シルト	地山崩落土の堆積。植物根あり。
5	10YR	2/3	黒褐色砂質土	混じりなし。
6	10YR	3/3	暗褐色砂質土	混じりなし。しまりなし。
7	10YR	4/3	にぶい黄褐色微砂	わずかにシルトを含む。
8	10YR	3/2	黒褐色砂質土	やや締まっている。混じりなし。
9	10YR	2/3	黒褐色微砂	やや粘性あり。シルトをわずかに含む。混じりなし。
10	10YR	4/4	褐色砂質シルト	10YR3/4暗褐色砂質土を40%程度小斑状に混入する。

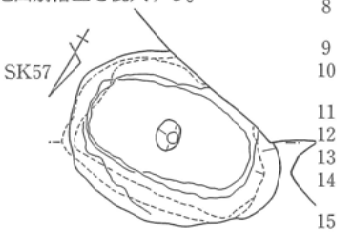
SK55

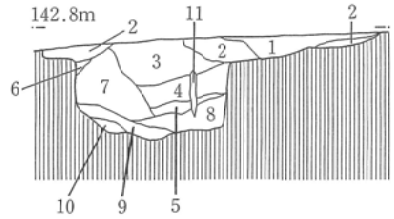
1	10YR	2/2	黒褐色砂質土	10YR1.7/1をブロック状に含む。植物茎か？
2	10YR	3/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質。わずかに植物根を含む。
3	10YR	2/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質。1よりやや締まっている。
4	10YR	2/2	黒褐色砂質土	下位で10YR3/3暗褐色土を中ブロックで10%程度含む。
5	10YR	2/3	黒褐色砂質土	混じりなく均質。
6	10YR	3/3	暗褐色砂質土	砂質強い。地山崩落土を混入する。

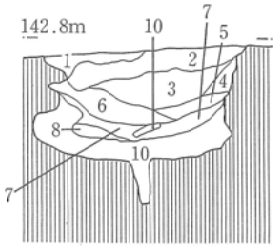
SK56

1	10YR	1.7/1	黒色砂質土	混じりなし。わずかに植物根あり。
2	10YR	3/1	黒褐色砂質土	わずかに3/3を小斑状に5%程度含む。
3	10YR	2/2	黒褐色砂質土	混じりなし。上位でやや植物根あり。
4	10YR	1.7/1	黒色土	やや砂質を帯びる。よく締まっている。混じりなし。
5	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	地山崩落土。
6	10YR	1.7/1	黒色土	4と同じ。締まりあり。逆茂木痕か？









SK64

1	10YR	2/2	黒褐色砂質土	わずかに炭化物微粒子を含む。
2	10YR	2/3	黒褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを小斑状に20%程度含む。
3	10YR	3/2	黒褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを中斑状に40%程度含む。
4	10YR	2/3	黒褐色砂質土	混じりなし。やや締まりあり。
5	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	地山の流入か？
6	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	地山崩落土か？
7	10YR	2/3	黒褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを上位で中斑状に30%程度含む。
8	10YR	3/4	暗褐色砂質土	混じりなし。
9	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	6と同じ。
10	10YR	2/3	黒褐色砂質土	7と同じ。
11	10YR	3/2	黒褐色砂質土	混じりなし。逆茂木痕か？

SK102

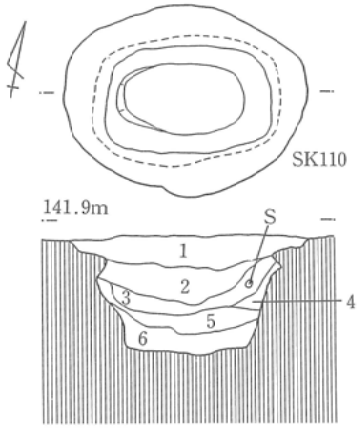
1	10YR	3/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質。わずかに植物根あり。
2	10YR	2/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質。やや締まっている。
3	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	地山崩落土。
4	10YR	2/2	黒褐色砂質土	下位で10YR3/3を斑状に30%程度含む。混じりなし。
5	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	地山の一括流入か？
6	10YR	2/2	黒褐色砂質土	下位で10YR3/3を斑状に30%程度含む。混じりなく均質。
7	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	地山崩落土。
8	10YR	2/2	黒褐色砂質土	10YR3/2黒褐色土を5%程度小斑状に含む。
9	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	地山の一括流入か？
10	10YR	3/2	黒褐色砂質土	締まっている。10YR3/3暗褐色土を10%程度全体に小ブロックで含む。
11	10YR	2/2	黒褐色砂質土	6と同じ。
12	10YR	2/2	黒褐色砂質土	締まっている。地山と接する。
13	10YR	2/2	黒褐色砂質土	6と同じ。地山に接する。
14	10YR	4/4	褐色微砂	地山シルトをやや含む。粘性わずかにある。
15	10YR	4/6	褐色細砂	上位で10YR3/4暗褐色砂質土を30%程度混入する。
16	10YR	5/6	黄褐色細砂	固い黒色炭化土を斑状に全体に50%程度含む。
17	10YR	4/6	褐色砂質シルト	粘土強い。ピットの掘り方。中型川原石で杭を支えた模様。
18	10YR	2/2	黒褐色砂質土	やや粘性あり。杭跡。

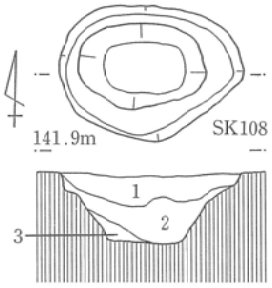
SK57

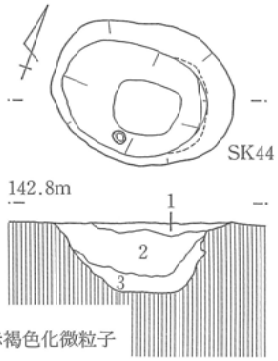
1	10YR	2/2	黒褐色砂質土	F2との境で大きく酸化する。
2	10YR	3/2	黒褐色砂質土	10YR2/2黒褐色土を中斑状に10%程度含む。植物根をやや混入する。
3	10YR	2/2	黒褐色砂質土	斑状に7.5YR4/4褐色シルトを10%程度含む。
4	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	地山崩落土。
5	10YR	2/2	黒褐色砂質土	混じりなし。
6	10YR	3/2	黒褐色砂質土	わずかに植物根を含む。他に混じりなし。
7	10YR	3/2	黒褐色砂質土	下位で10YR3/3暗褐色土を斑状に含む。地山に接する。
8	10YR	2/2	黒褐色砂質土	下位で10YR3/3を30%程度斑状に含む。地山に接する。
9	10YR	3/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質。埋没時に倒れた逆茂木痕か？
10	10YR	3/4	暗褐色砂質土	やや粘性あり。下位で地山微砂を含む。

0　2m
(1：60)

第15図　陥穴(2)







SK110

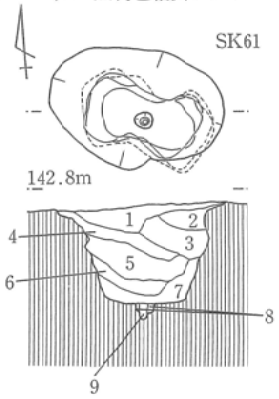
1	7.5YR	2/1	黒色粘質土	炭化が強く、植物根を赤褐色粒状に40%程度含む。
2	7.5YR	1.7/1	黒色粘質土	1より締まっている。赤褐色化粒を上位にやや多く40%程度含む。
3	2.5Y	2/1	黒色粘質土	ややグライ化する。水分多い。
4	2.5Y	3/3	暗オリーブ褐色シルト	地山崩落土。グライ化する。混じりなし。
5	2.5Y	2/1	黒色粘質土	3よりグライ化が進み、砂質も強まっている。締まっている。
6	2.5Y	3/1	黒褐色粘質シルト	大きくグライ化し、粘土強まる。

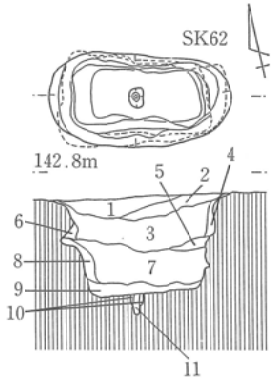
SK108

1	10YR	1.7/1	黒色砂質土	わずかに砂質を帯びる。赤褐色化微粒子を全体に50%程度含む。
2	10YR	2/2	黒褐色砂質土	10YR3/2黒褐色シルトを上位で斑状に40%程度含む。赤化微粒子を全体に含む。
3	10YR	3/2	黒褐色シルト	地山崩落土。

SK44

1	10YR	2/2	黒褐色土	やや砂質を帯びる。10YR3/2を中斑状に20%程度含む。
2	10YR	3/3	暗褐色土	やや砂質を帯びる。10YR3/2を中斑状に30%程度含む。
3	10YR	3/2	黒褐色砂質土	上位で10YR4/3砂質土を中斑状に10%程度含む。



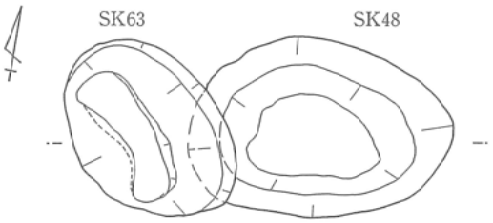


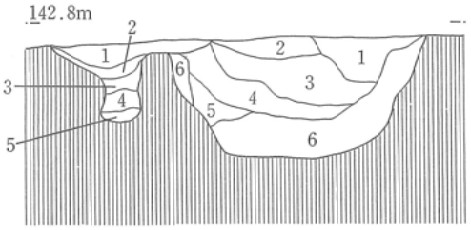
SK61

1	10YR	2/2	黒褐色砂質土	植物根をやや含む。
2	10YR	3/3	暗褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを40%程度小斑状に含む。
3	10YR	3/3	暗褐色砂質土	2と同じ。小斑状に下位で20%程度含む。
4	10YR	3/1	黒褐色砂質土	小粒子で10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを20%程度含む。
5	10YR	3/3	暗褐色砂質土	2と同じ。遺物（フレーク）を含む。
6	10YR	3/1	黒褐色砂質土	4と同じ。
7	10YR	4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	上位～中位にかけて10YR3/3暗褐色砂質土を30%程度含む。
8	10YR	4/4	褐色シルト	10YR3/4砂質土を小斑状に40%程度含む。
9	10YR	3/4	暗褐色砂質土	やや10YR4/4シルトを20%程度混入する。

SK62

1	10YR	2/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質。
2	10YR	3/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質。
3	10YR	2/2	黒褐色砂質土	やや締まりあり。植物茎あり。
4	10YR	3/3	暗褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを30%程度上位で含む。
5	10YR	3/3	暗褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを50%程度斑状に含む。遺物（フレーク）を包含する。
6	10YR	3/3	暗褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを30%程度上位で含む。
7	10YR	3/2	黒褐色砂質土	混じりなく均質。下位で植物根（大型）あり。
8	10YR	3/3	暗褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%程度含む。
9	10YR	3/3	暗褐色砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを40%程度含む。
10	10YR	3/3	暗褐色微砂	わずかにシルトを含む。
11	10YR	2/3	黒褐色砂質土	やや粘性あり。





SK48

1	10YR	2/2	黒褐色砂質土	混じりなし。粘性弱い。
2	10YR	3/4	暗褐色砂質土	締まっているが、粘性なし。サラサラしている。
3	10YR	3/3	暗褐色砂質土	2よりわずかに粘性あり。
4	10YR	2/2	黒褐色砂質土	粘性なし。サラサラしている。混じりなし。
5	10YR	3/4	暗褐色砂質土	砂質強い。混じりなし。
6	10YR	3/4	暗褐色砂質シルト	混じりなし。

SK63

1	10YR	2/2	黒褐色砂質土	10YR3/3暗褐色砂質シルトを斑状に5%程度含む。
2	10YR	3/2	黒褐色砂質土	やや粘性あり。植物根を含む。
3	10YR	3/2	黒褐色砂質土	下位で2より粘性強い。下位で地山ブロックを含む。
4	10YR	2/2	黒褐色土	やや砂質を帯びる。粘性あり。植物根多い。
5	10YR	3/3	暗褐色土	4より砂質強い。混じりなし。

0 2m
(1：60)

第16図　陥穴(3)

表3　陥穴観察表

遺構番号	検出グリッド	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	形状	分類	出土遺物	挿図番号
SK38	I-12	125	90	64	不整円形	Ⅳ-Bb	なし	—
SK39	I-13	118	90	52	楕円形	Ⅱ-Bb	なし	—
SK40	H-13	158	93	70	楕円形	Ⅳ-Bb	なし	—
SK41	B-24	148	97	75	楕円形	Ⅳ-Bb	なし	—
SK42	B-22.23	189	128	76	不整円形	Ⅳ-B	なし	—
SK43	G-25	97	84	31	楕円形	Ⅱ-Bc	なし	—
SK44	H-30	144	114	54	円形	Ⅲ-Bb	石篦(F)	16図
SK45	E-30	226	156	124	楕円形	Ⅱ-Aa	なし	14図
SK46	E-33.34	172	134	104	不整円形	Ⅱ-Aa	なし	14図
SK48	H-35	205	141	95	不整円形	Ⅰ-Bb	なし	16図
SK49	G-36.37	157	112	86	不整楕円形	Ⅰ-A	なし	—
SK50	F-37	164	116	106	不整円形	Ⅱ-Aa	なし	14図
SK51	F-38.39	134	90	84	楕円形	Ⅰ-A	なし	—
SK52	E-40	122	78	88	楕円形	Ⅰ-Aa	なし	15図
SK53	E-42	145	110	101	楕円形	Ⅰ-Ab	なし	—
SK54	D-44	112	85	82	不整楕円形	Ⅰ-Ab	なし	—
SK55	C-46	190	156	95	円形	Ⅰ-Ba	なし	15図
SK56	C-48	225	170	120	楕円形	Ⅰ-Aa	なし	15図
SK57	B-50	175	122	83	楕円形	Ⅰ-Aa	石器片(F3)	15図
SK58	F-41	130	87	84	楕円形	Ⅱ-Aa	なし	14図
SK59	F-41	135	87	95	楕円形	Ⅱ-Aa	なし	14図
SK60	G-41.42	135	96	76	楕円形	Ⅴ-B	なし	—
SK61	H-41	135	96	76	不整楕円形	Ⅲ-Aa	なし	16図
SK62	H-39	92	72	96	楕円形	Ⅲ-Aa	なし	16図
SK63	I-35	156	111	60	楕円形	Ⅲ-Bc	なし	16図
SK64	I-33	262	87	79	楕円形	Ⅰ-Bc	なし	15図
SK66	I-30	94	73	12	円形	Ⅰ-B	破片	—
SK70	H-33	95	63	14	円形	Ⅲ-B	なし	—
SK74	C-40	114	75	81	楕円形	Ⅴ-B	なし	—
SK78	I-31	114	62	53	円形	Ⅰ-Ac	なし	—
SK79	J-27.28	107	54	37	不整楕円形	Ⅰ-Bc	なし	—
SK80	K-24	92	61	39	不整円形	Ⅰ-Bc	破片	—
SK81	F-24	127	70	75	楕円形	Ⅱ-A	なし	—
SK82	G-24	81	75	10	楕円形	Ⅲ-Bc	破片	—
SK90	K-12	92	80	16	楕円形	Ⅰ-B	なし	—
SK91	K-11	100	51	9	楕円形	Ⅰ-B	なし	—
SK102	C-48	225	170	64	楕円形	Ⅰ-Aa	なし	—
SK107	C.D-18	155	101	85	楕円形	Ⅳ-A	なし	—
SK108	H-17	145	106	52	不整円形	Ⅱ-Bb	なし	16図
SK109	H-15	132	53	40	不整円形	Ⅱ-Ba	なし	—
SK110	G.H-19	192	150	92	不整円形	Ⅱ-Ba	なし	16図
SK112	K.L-18.19	129	89	61	楕円形	Ⅰ-Ab	なし	—
SK113	K-21	118	112	49	楕円形	Ⅰ-Ac	なし	—
SK114	G-16	225	124	12	楕円形	Ⅳ-Ac	なし	—
SK119	K-17	130	98	56	楕円形	Ⅰ-Ac	なし	—
SK271	K-15	110	66	36	楕円形	Ⅰ-Ac	なし	—

4　その他の遺構

その他の遺構としては、遺物の出土したピットが７基、土器埋設遺構（ＥＵ８）が１基、配石遺構（ＳＸ17）１基、黒色土を有する遺物包含層（ＳＸ21）が検出されそれぞれ図化掲載した。

詳細は以下の通りである。

ピット（第17図）

柱穴状の掘り込みを持つピットで遺物を含むものは７基程確認されている。ここでは竪穴住居の中から検出されたピットは扱わず、単独の遺構として登録したものを掲載した。

ＥＵ８（第17図）

北区西壁に接して検出された。調査区を後方へ１ｍ拡張し、掘り方を検出した。プランは径40cmの不整円形の掘り方を有する。深さは検出面から約30cm掘り込む。埋設されていた土器は地文を施しただけのもので、磨滅が激しく施文状況ははっきりしない。検出面の地山はシルト質岩を小礫で多量に含み、酸化し赤褐色を呈していた。口縁部は全体が欠損しており、埋設時の状況を維持していなかった。覆土分析からはリン・カルシウム等の含有量は通常値の範囲内であった（付編）。

周囲からは、同様の土器埋設遺構は検出されず、今回の調査では１基のみの検出である。

ＳＸ17配石遺構（第17図）

Ｕ－２～３グリッドで検出された。住居内炉跡の可能性も考えられたが、床面と考えられる土層及び住居プラン・焼土などが確認できず、炉跡とする積極的な論拠を持たないため配石遺構として登録した。石はほぼ地山直上にわずかにめり込む状態で検出されており、往時の状況をとどめていない。遺物の出土は周囲のグリッドからわずかに破片で出土するのみで、時期決定の証になるものはなかった。

ＳＸ21遺物包含層（第18図）

調査区中央を東西に横断する形で黒色土が検出され、遺物を破片で包含している様相が観察された。遺構の４分の１程の面積は後世の撹乱によって壊されていたが、遺物の出土量はコンテナにしてここだけで約30箱の出土があった。撹乱部分はトレンチを掘り、深さの確認を行ったが、最も深いもので、1.5ｍを超える深さまで撹乱されていた。

地形は、地山の状態から緩やかな落ち込みを形成していたと思われる。土器はその落ち込みを中心に散乱していたが、連続的な層位による分布は確認できなかった。

覆土の堆積状況は約３層に分層できるが、遺物を含むのは１層と２層上面である。

調査は遺物の破片を１点ずつ位置とレベルを記録していく方法で行った。中央部にベルトを残し、断面観察を行い、層位を確認しながら、グリッド毎に取り上げを行っている。

遺物の分布は約3ヶ所に集中地点が存在している。O－20グリッド～R－16グリッド付近、E－14グリッド～L－18グリッド付近、H－13グリッド～M－17グリッド付近がそれに当たる。

遺物は土器が破片で内包されているものがほとんどで、散在しているという状況であった。完形に近い状態まで復元できたものは3個体程度であった。

石製品は磨石を中心にした礫石器がほとんどで、定型石器は3点の出土にとどまっている。

東側からは炭化材が面的な広がりで検出された。現場では材の出土形状を把握することに努め、精査をおこなったが困難であった。挿図中では分布範囲を示している。放射性炭素年代測定の結果、約800年前の年代がこの炭化材に与えられた。このことから、出土遺物とは時期を異にする中世の時期の炭化材であることが判明している。但し、炭化材直上からも土器片の出土があるが、これらは2次堆積によるものと思われる。

西側壁面近くでは竪穴住居跡が2棟検出されたが（ＳＴ1・ＳＴ2）、ＳＸ21包含層との切り合いは層位からは確認できなかった。覆土中からの検出は困難であったため、出土遺物を比較すると、西側壁面では大木9式期の遺物を多く含み、ＳＴ1・ＳＴ2覆土と思われる黒色土グリッド範囲からは大木9式土器が出土し、ＳＴ1・ＳＴ2床面及び柱穴からは大木8ｂ式期の破片が出土している。このことから、ＳＴ1・ＳＴ2はＳＸ21より古いと考えられる。

黒色土を完掘後、地山まで達したところで、9基の土坑と幾つかのピットが検出されている。ピットについては、検出面からの深さが浅いことから、黒色土中から掘り込まれていたと考えられ、ＳＸ21の遺物と同時期であった可能性が高い。

土坑については、形状が南区検出の陥穴と類似する長径1ｍ程の楕円形であり、配置も南区から列状に連なる延長部とも考えられることから陥穴であろうと思われる。底面では小ピットの痕跡は確認できなかった。

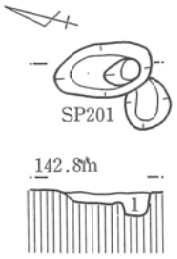
ＳＸ21の遺構としての性格は、地形には緩やかな落ち込み状の緩斜面を有しているが、破片の堆積状況から旧地表面に断続した時間幅の中で一時的に遺棄されていたと考える方が妥当という結論に達した。

5　遺構間接合土器について

本遺跡では遺構間での接合による、土器の復元個体が4点確認されている。それらから同時期に埋没したと考えられる遺構が以下の通りわかった。

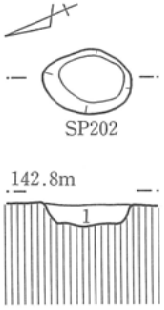
・36図－1の接合…ＳＫ36とＳＸ21
・28図－3の接合…ＳＫ36とＳＫ101
・24図－1の接合…ＳＫ32とＳＫ101
・23図－4の接合…ＳＫ27とＳＫ28

上記のような状況から、土器は埋没土坑に単に廃棄されただけではなく、パーツを分けて故意に各窪地に廃棄されたことが考えられる。本遺跡の土器廃棄の一つのあり方を示す資料としてここでは掲載した。



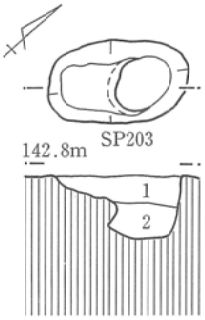
SP201

1　10YR　3/4　暗褐色砂質土



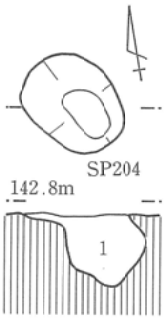
SP202

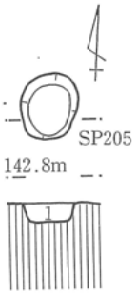
1　10YR　2/3　黒褐色砂質土



SP203

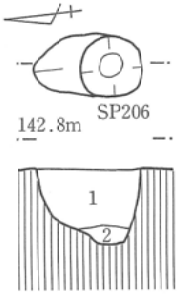
1　10YR　2/3　黒褐色砂質土　やや粘性あり。
2　10YR　3/4　暗褐色シルト　粘性あり。





SP205

1　10YR　2/3　黒褐色砂質土

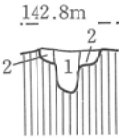


SP206

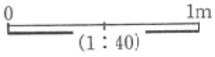
1　10YR　2/2　黒褐色砂質土　やや粘性あり。
2　10YR　3/3　暗褐色微砂

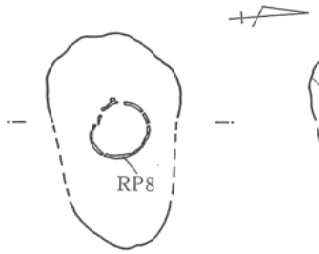
SP204

10YR　2/2　黒褐色砂質土　10YR　3/4　砂質シルトを中ブロックで30%程度含む。

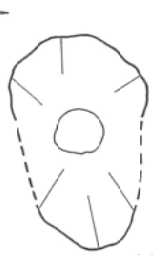


1　10YR　3/3　暗褐色砂質土　下位で地山シルトを根入する。
2　10YR　2/2　　わずかに砂質を帯びる。締まっている。

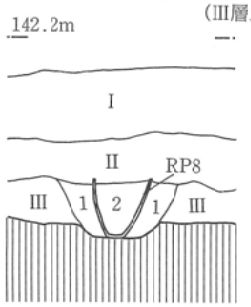




EU8検出状況
(III層上面)



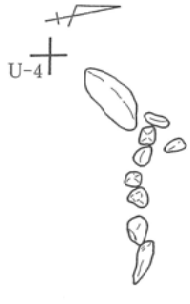
完掘状況



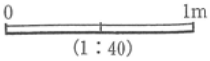
EU8

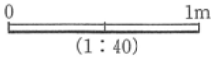
1　10YR　3/4　暗褐色粘質シルト　　生活面に接する所で、赤褐色化し、中型風化礫を10%程度含む。植物根多い。

1　10YR　3/1　黒褐色砂質土　　土器内堆積土。下位で小型の風化礫をやや含む。



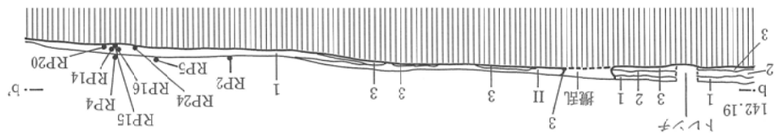
配石検出状況

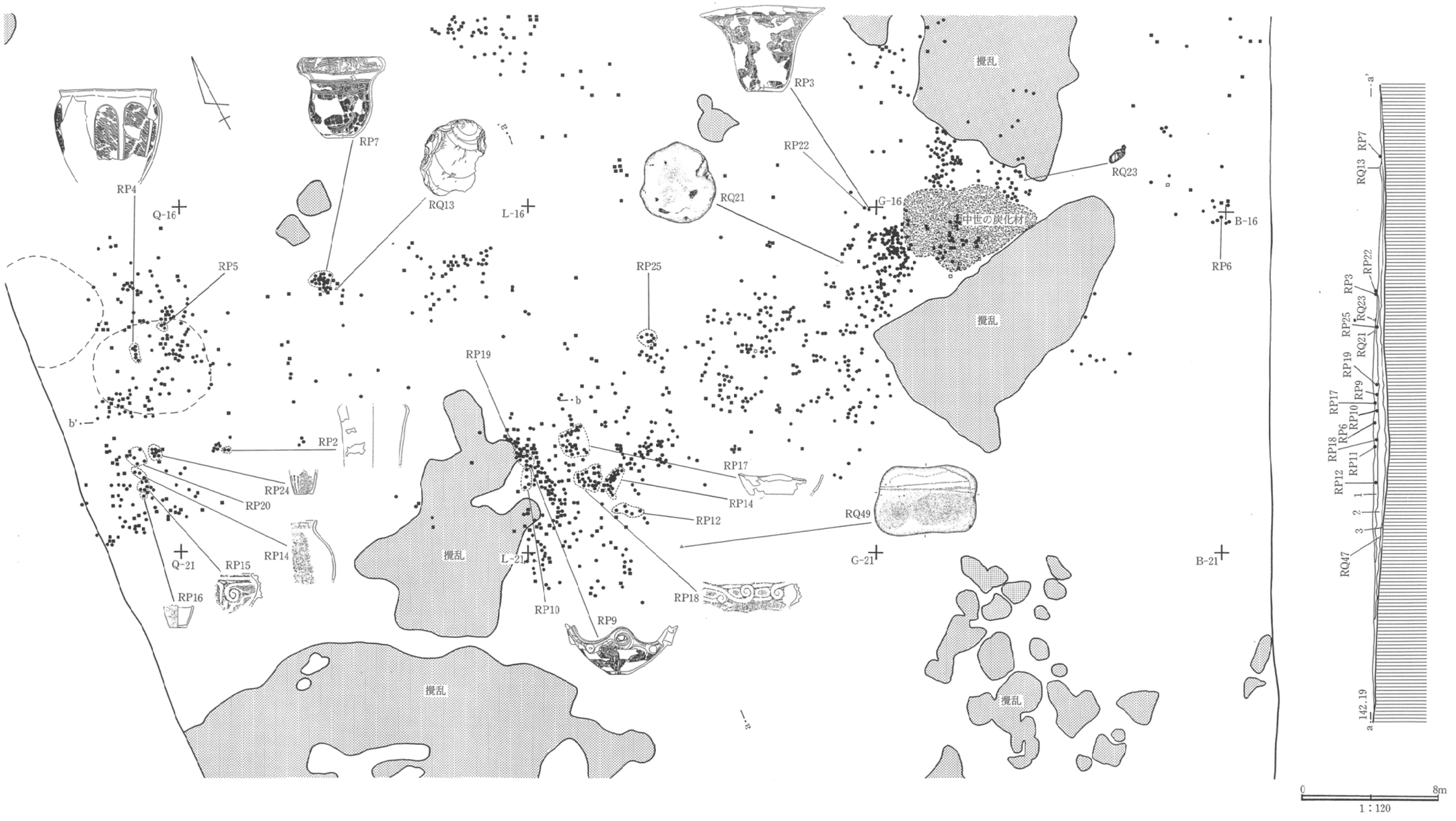




第17図　その他の遺構

SX21
1　10YR　2/2　黒褐色土　　遺物を多く包含する。微小礫及び微小炭化物を5%程度含む。
2　10YR　1.7/1　黒色砂質土　　よくしまっている。植物根を上位でやや含む以外は、混入物殆ど無し。遺物は少ないが、わずかに含む。
1　10YR　2/3　黒褐色シルト　　地山斬移層。





第18図　SX21遺物包含層

Ⅴ　出土した遺物

今回の調査で出土した遺物の総数は、コンテナにして88箱である。その中で約８割を縄文土器が占め、残り約２割を石器・剝片・礫器類が占める。

遺物の分布はその大部分が北区及び包含層からの出土であり、南区からの出土は石器が数点出土している以外は皆無に近い状態であった。南区は前述の通り大きく削平を受け、包含層も層序から確認できなかったことも一部起因していると思われるが、様相は異なっている。北区では土坑と竪穴住居跡・ＳＸ21遺物包含層からの出土が大半を占めている。

１　縄文土器

大木８ａから大木10式期の範疇内におさまる土器群が出土している。大別すると７群のまとまりがみられるが、必ずしも型式的に連続性を保っているとはいえず、途切れる型式がある。これらの出土土器の器形は深鉢・浅鉢・有孔鍔付土器が主で、ここでは深鉢・浅鉢について５つに分類し、１－Ａのように表中に記した。破片資料は、残存部位でのみ分類している。

深鉢Ａ類：頚部が内弯した後外反し、垂直に立ち上がった後口唇部がわずかに内弯するキャリパー型の深鉢

深鉢Ｂ類：頚部が内弯した後外反しながらそのまま口縁部に達する深鉢

深鉢Ｃ類：胴部が緩やかに弧を描きながら立ち上がり、口縁部に達する樽型の深鉢

深鉢Ｄ類：胴部が直線状に外反しながら立ち上がる深鉢

深鉢Ｅ類：Ａ～Ｄ類のいずれにも属さないもの

浅鉢ａ類：口縁部が垂直に立ち上がり、最大径の約半分の長さを器高とする深みのある浅鉢

浅鉢ｂ類：胴部から口縁部への傾斜が緩く、最大径の約３分１以下の長さを器高とする浅鉢

さらに文様構成・施文手法等から型式毎にまとまりのあるものについて７つの群に分けられる(註３)。尚、個々の図化土器については、表中に分類を記すこととし、ここでの詳述は割愛させていただく。

第１群土器群（大木８ａ式並行期）

大木８ａ式に平行する土器を第１群とした。出土は１点のみでＳＫ36土坑覆土中から出土した。深鉢の胴部下半と思われる。地文を施した後、隆帯をＸ状に貼り付けている。隆帯に沈線は這わせていない。同時期の遺構は確認されず流れ込みと考えられる。

第２群土器群（大木８ｂ式新段階並行期）

２本の隆帯貼り付けとそれに這わせる３本の沈線文を有する技法が確立し、胴部全体に渦巻き文が大単位で展開される土器を第２群土器群とした。

第３群土器群（大木８ｂ新段階～大木９式古段階並行期）

胴部の文様から大単位渦巻き文が消失し、渦巻き文同士の連結が強くなり、区画が意識されている文様構成の一群を第３群土器群とした。渦巻き文は退化せず巻ききっているのが特徴的である。技法的には、地文の施文→隆帯貼り付け→沈線の描線という大木８ｂ式の技法を受け継いでいる。一部には充塡縄文と考えられる器種も共伴するが、大勢を成してはいないため、第３群土器群の範疇に入れた。

第４群土器群（大木９式古段階並行期）

渦巻き文が退化し、文様が個々の区画文により閉じられる構成となり、隆帯の断面が四角形から山形状のものになるものを第４群とした。頚部無文帯は消失し体部の文様が口縁部までせりあがるのが特徴である。北区の遺物包含層及びＳＸ21遺物包含層中から比較的まとまって出土した。

第５群土器群（大木９式中段階並行期）

磨り消し技法が確立し、∩字文が縦に展開する土器群を第４群土器群とした。ＳＫ36Ｆ１層から一括で出土をみた。文様を省略した波状口縁の小形土器が幾つか共伴して伴う点が注目される。

第６群土器群（大木10式中段階並行期）

文様の描線が沈線から隆帯の稜線へと変化する土器群を第５群土器群とした。ＳＴ４覆土中から出土をみた。ＳＸ21遺物包含層中からも若干の出土をみるが、遺構との関わりは明確にできなかった。

第７群土器群（大木10式新段階並行期）

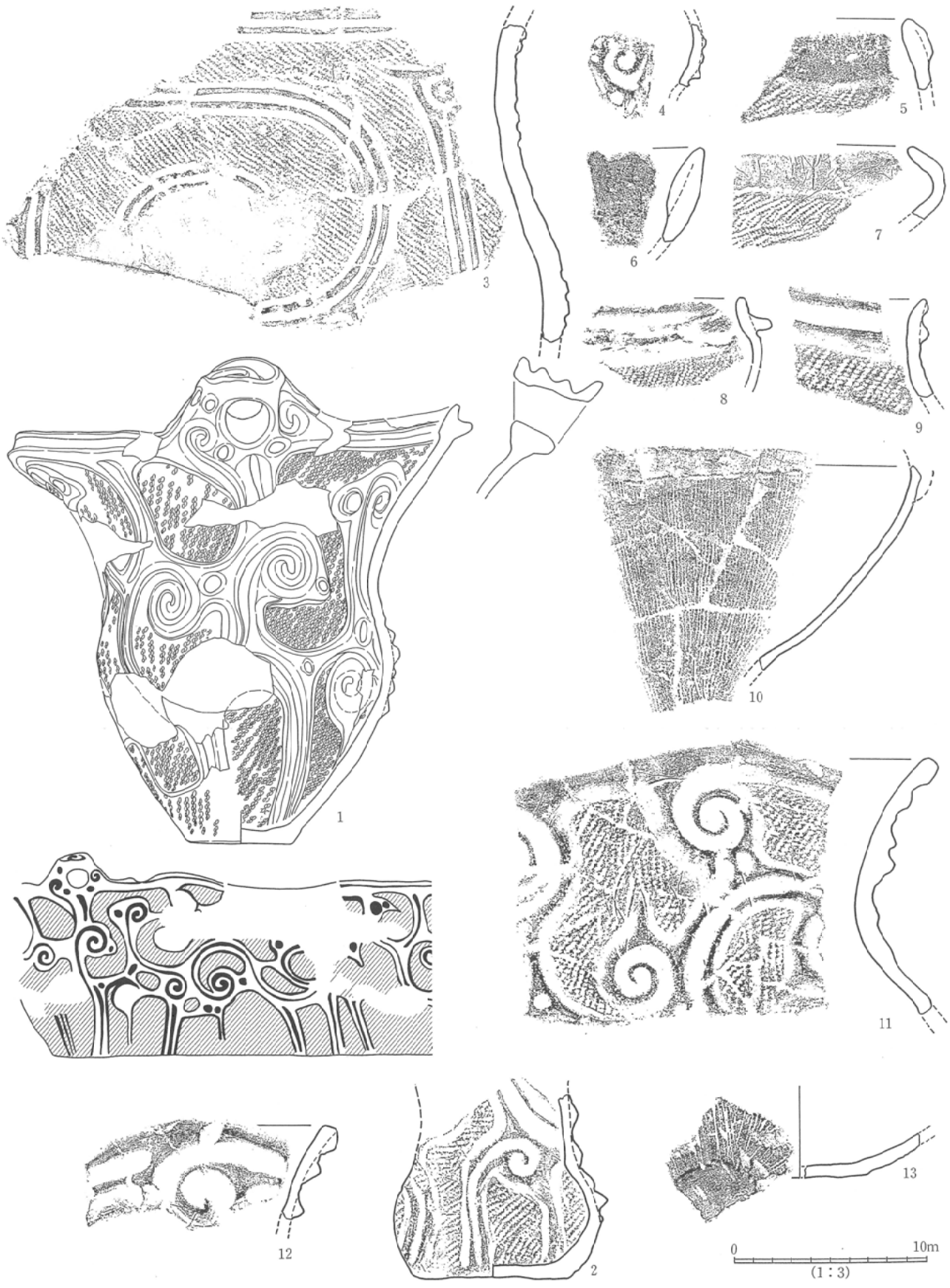
無文部分が文様展開の主体となって横方向に展開し、文様帯が上に凝縮していく土器群を第６群土器群とした。ＳＴ６・７の複式炉埋設土器が該当すると考えられるが体部下半が欠損し文様の全体構成はつかめない。

２　土偶（図版23－３）

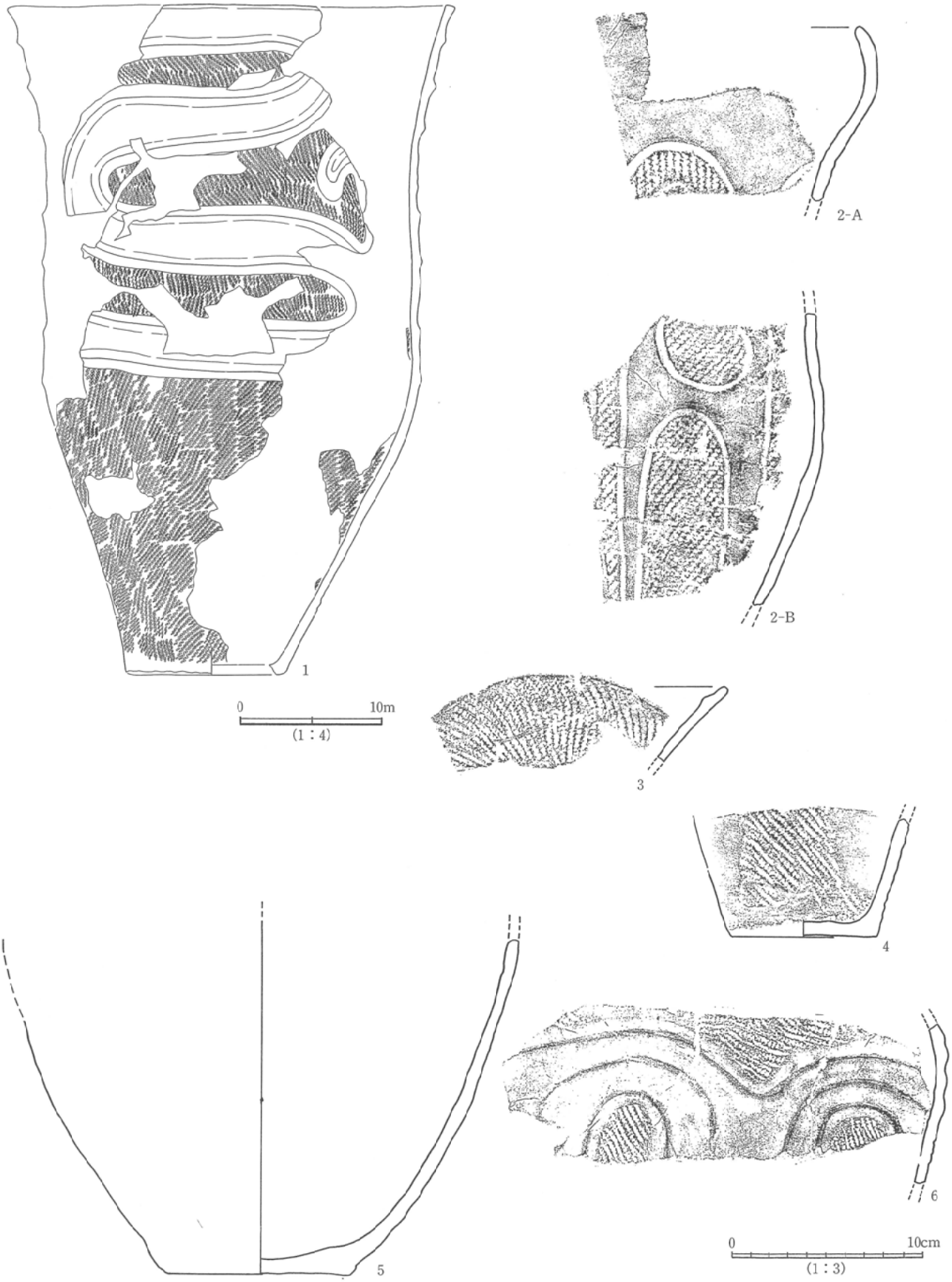
土偶と認められるものは、１点のみの出土である。脚部と思われるが、欠損が著しいため確認できない。渦巻沈線文のモチーフが施される。図版のみ掲載した。

３　円盤状土製品（挿図40－10、図版23－４）

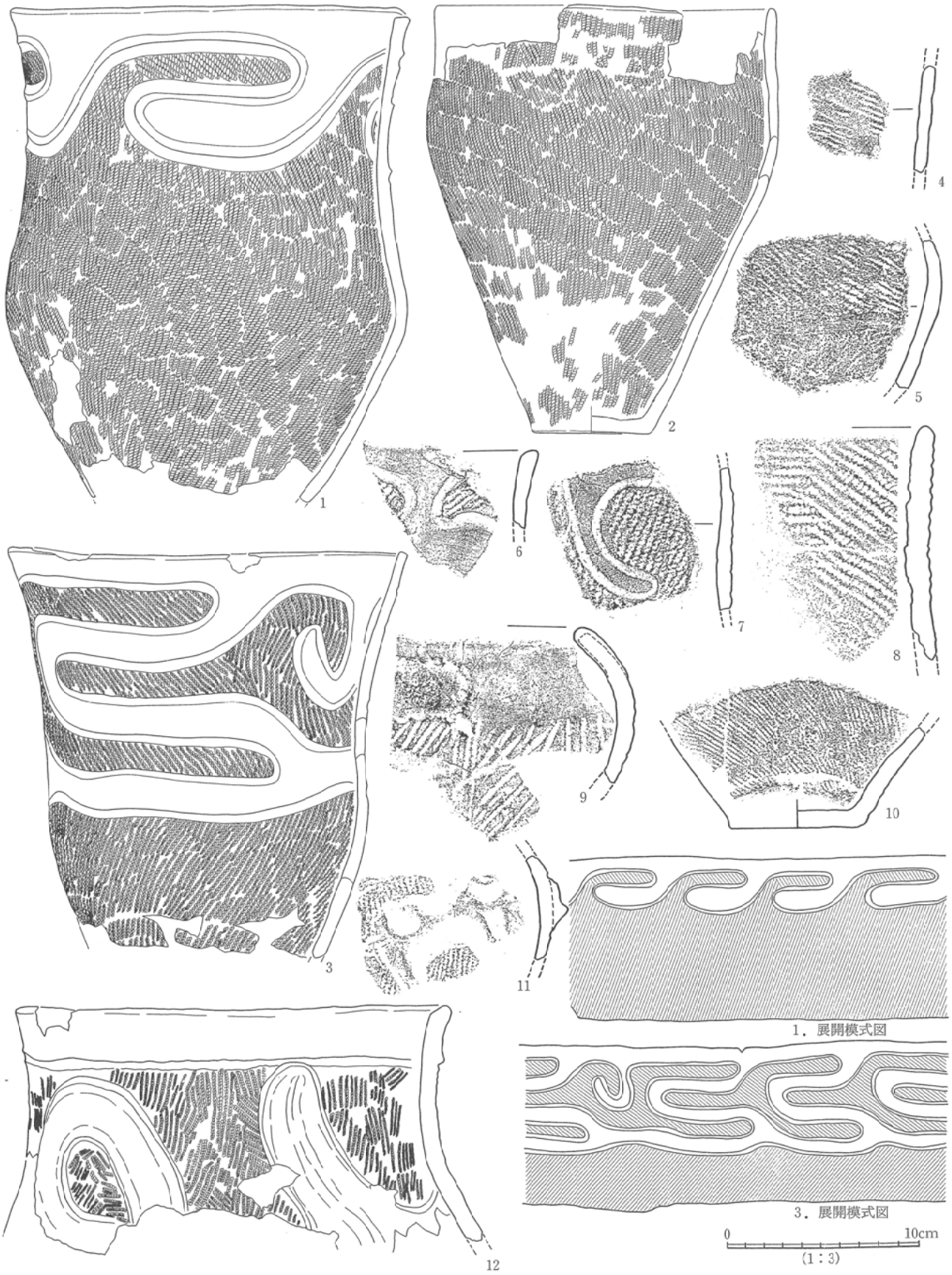
１点のみの出土である。土器片２枚を貼り合わせて円形に整形している。接合材は不明であるが表面に漆を塗布していることが観察された。なお、形状については欠損・磨耗のため原形はうかがえないでいることから完形での正確な形状は把握できない。



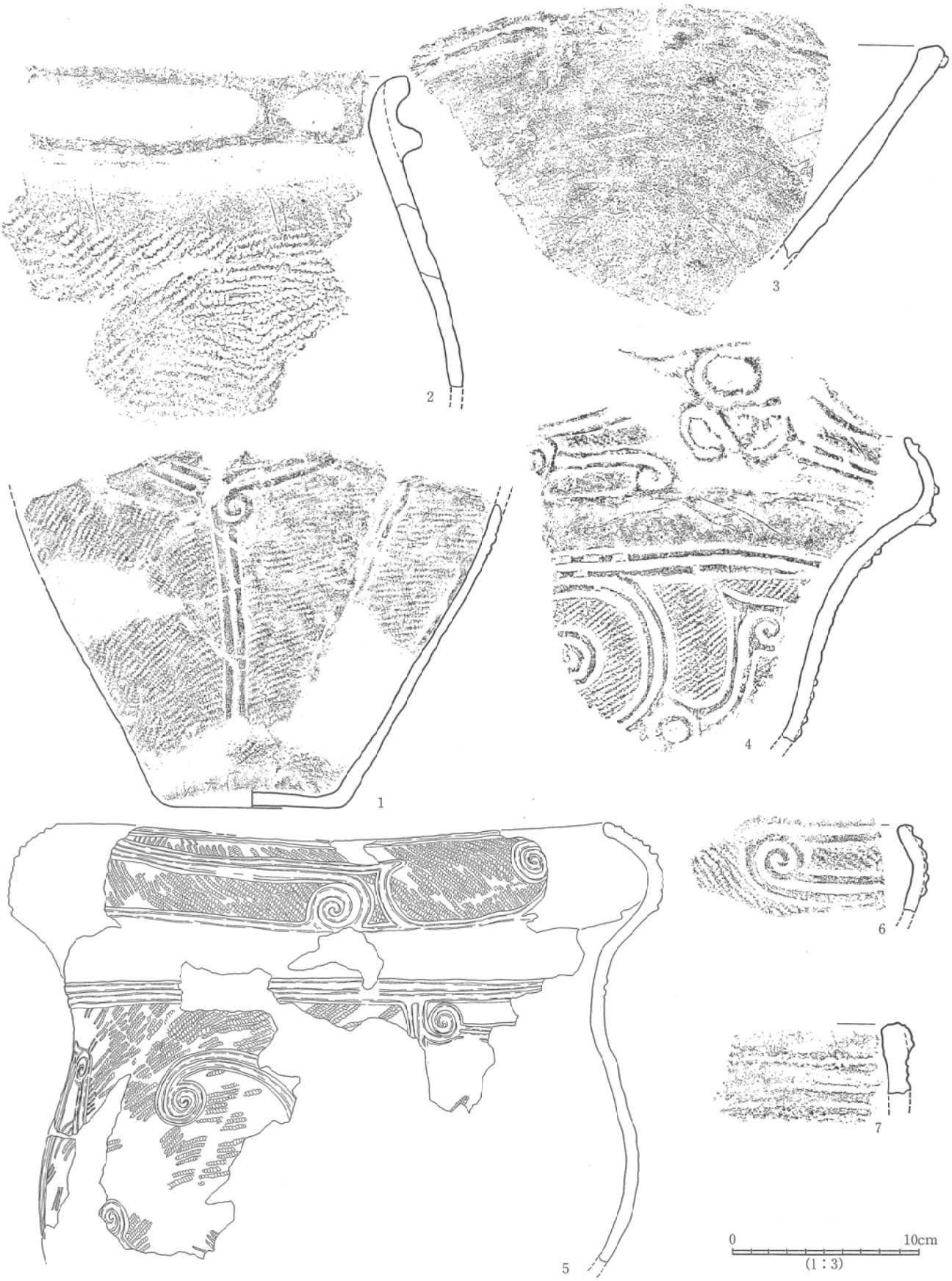
第19図　ST 1・2・3 出土土器



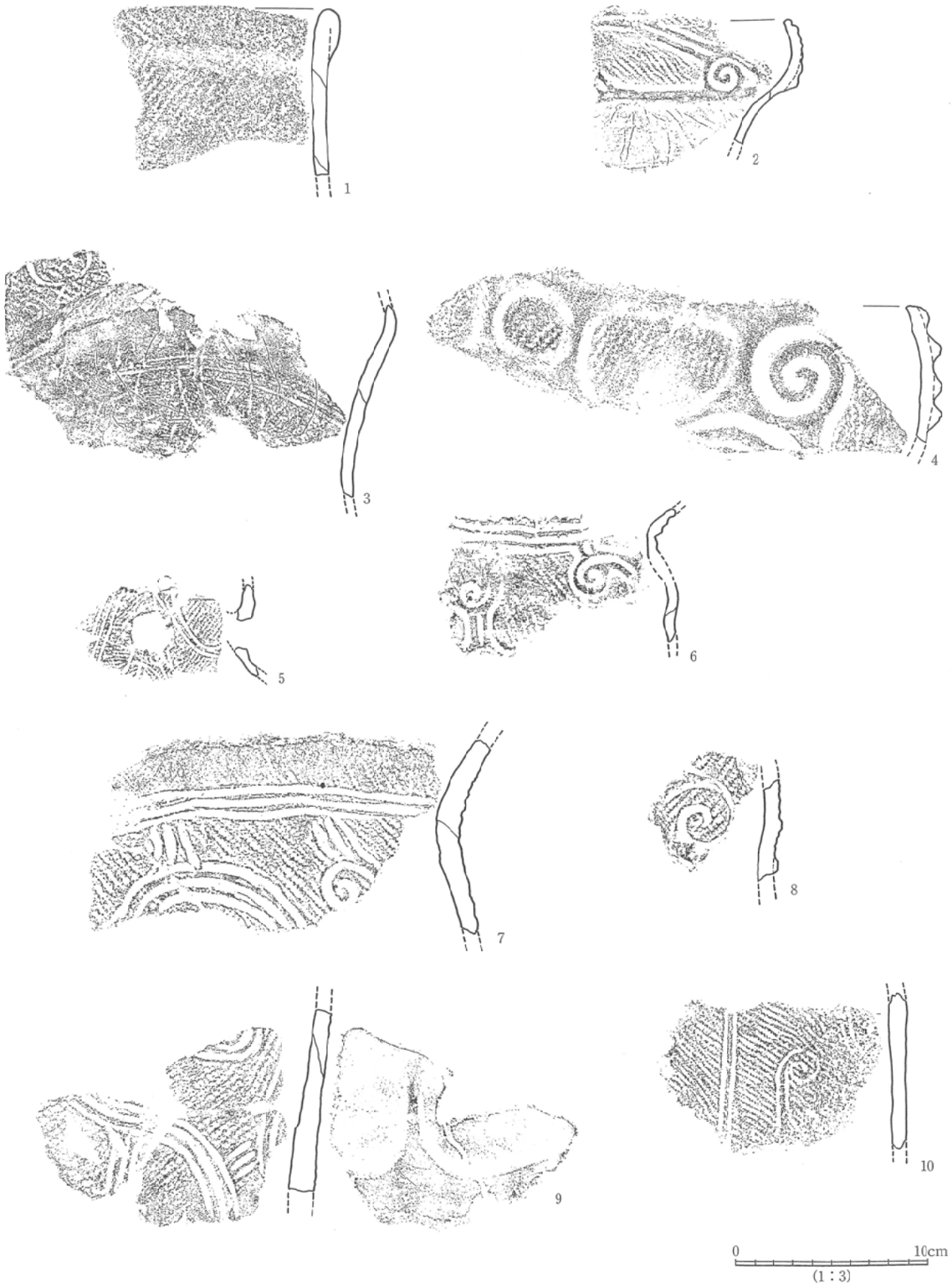
第20図　ST４竪穴住居跡出土土器(2)



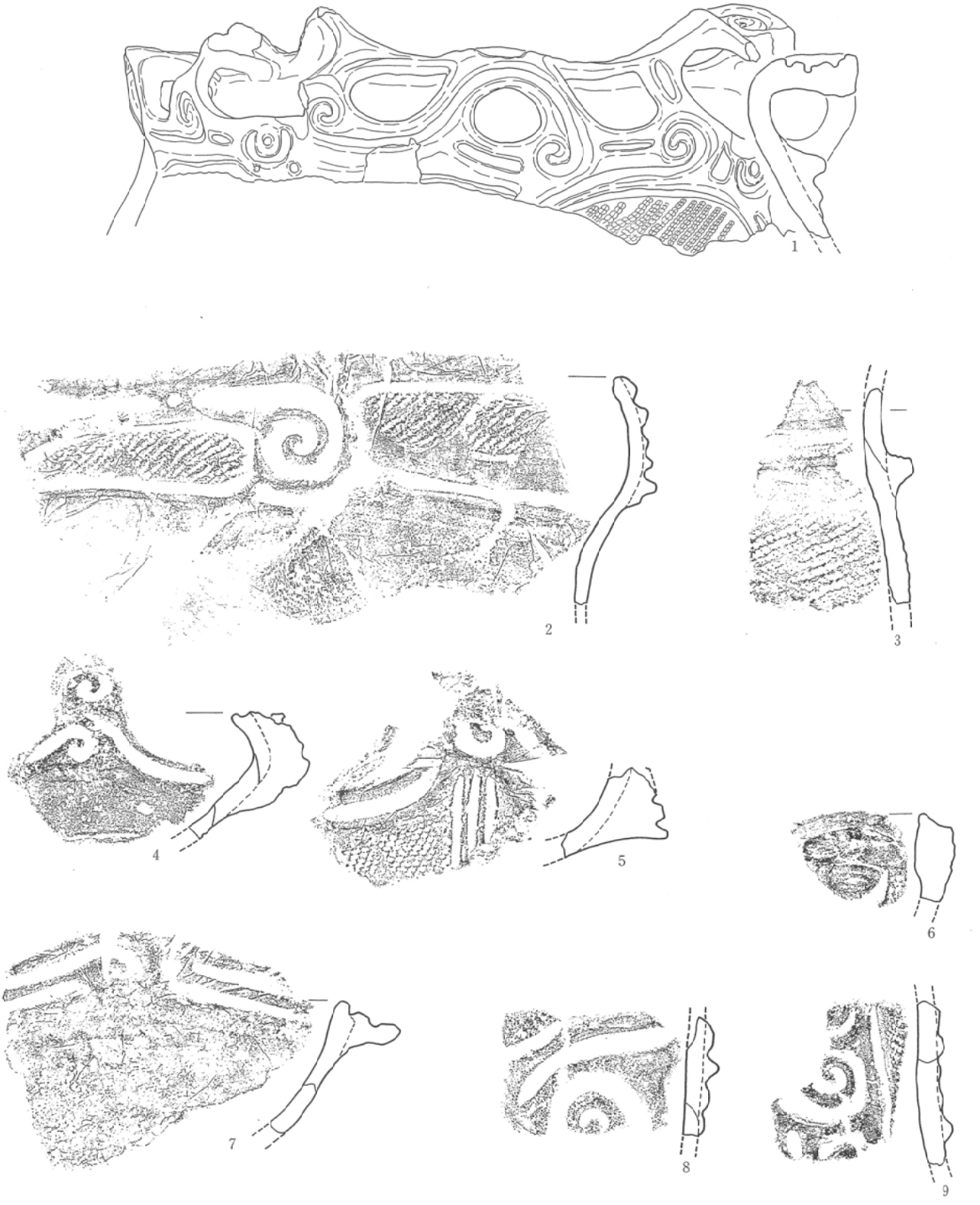
第21図　ST 5 ・ 6 竪穴住居跡出土土器(3)



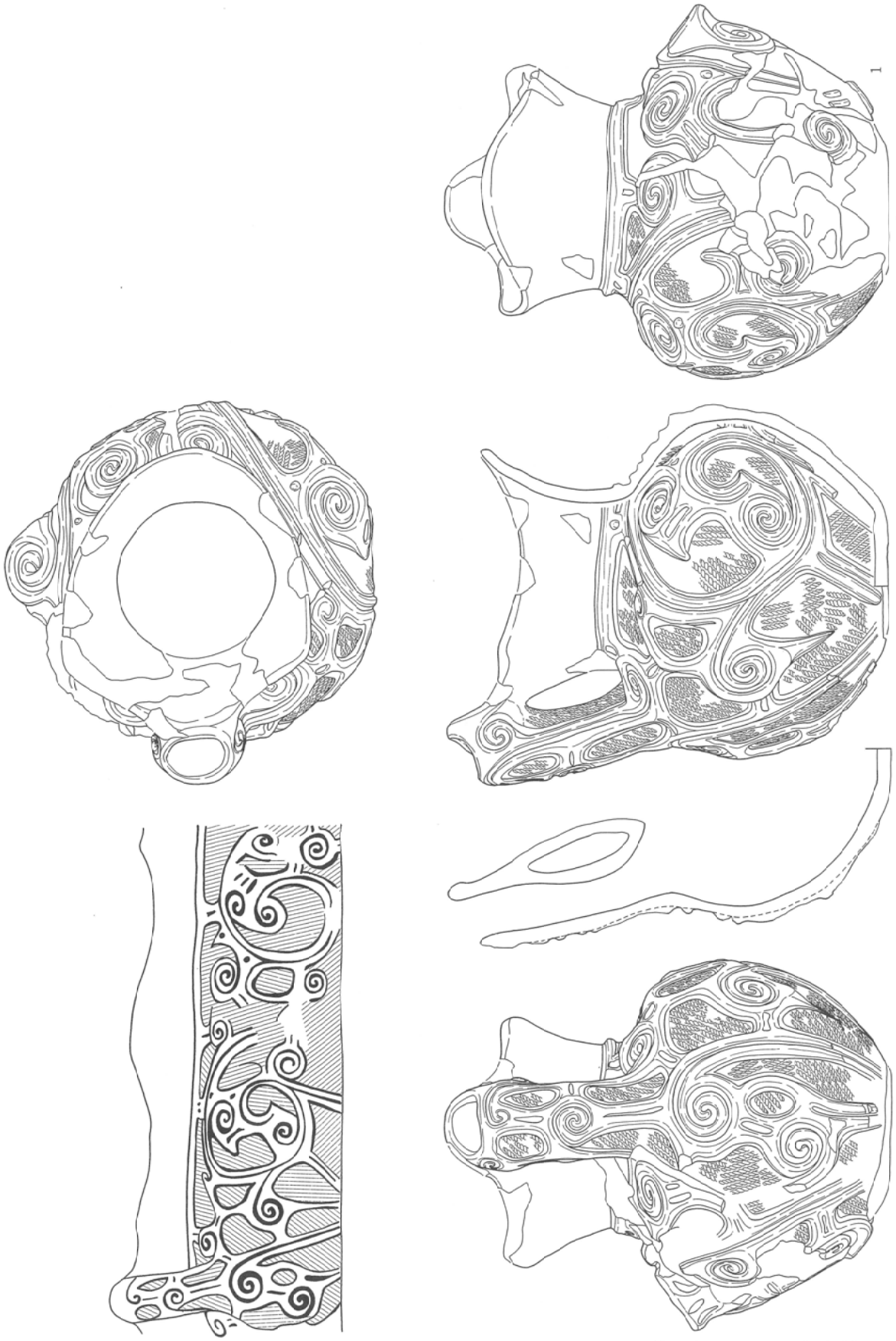
第22図　SK30出土土器



第23図　SK27・28出土土器



第24図　SK32・34出土土器

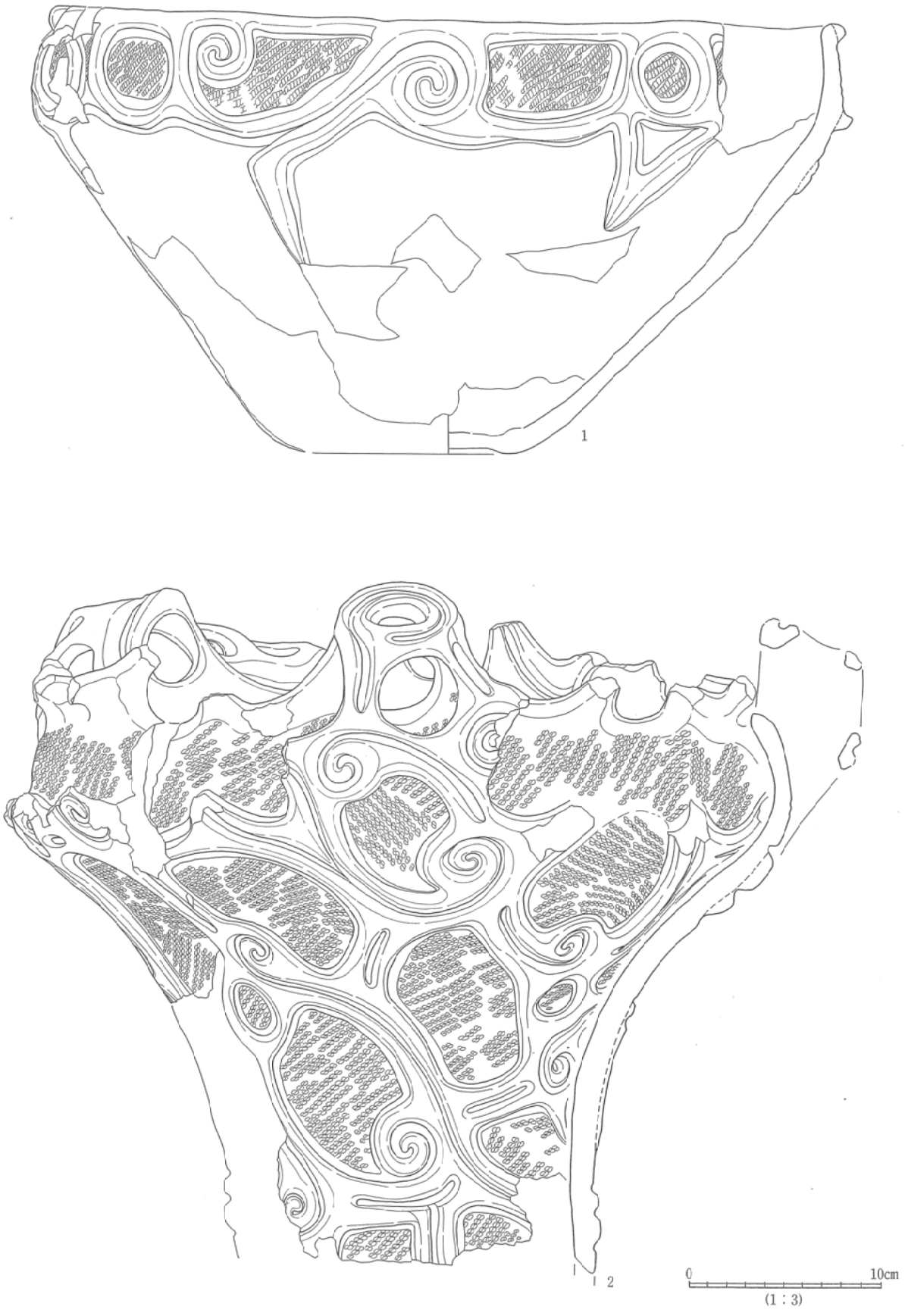


第25図　SK35出土注口土器深鉢

第26図　SK35出土土器(1)

第27図　SK35出土土器(2)

第28図　SK101出土土器



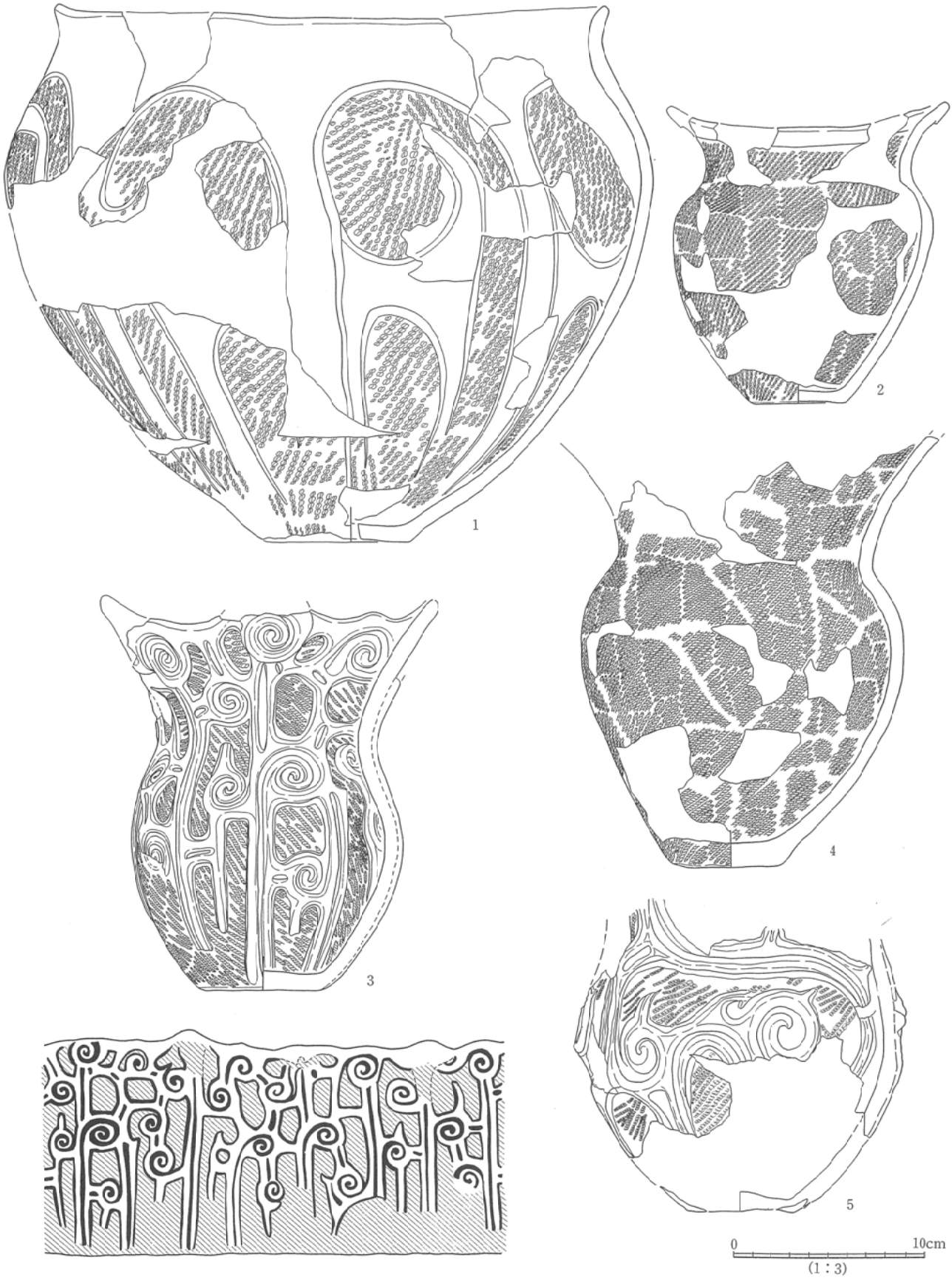
第29図　SK31出土土器（1）

第30図　SK31出土土器（2）

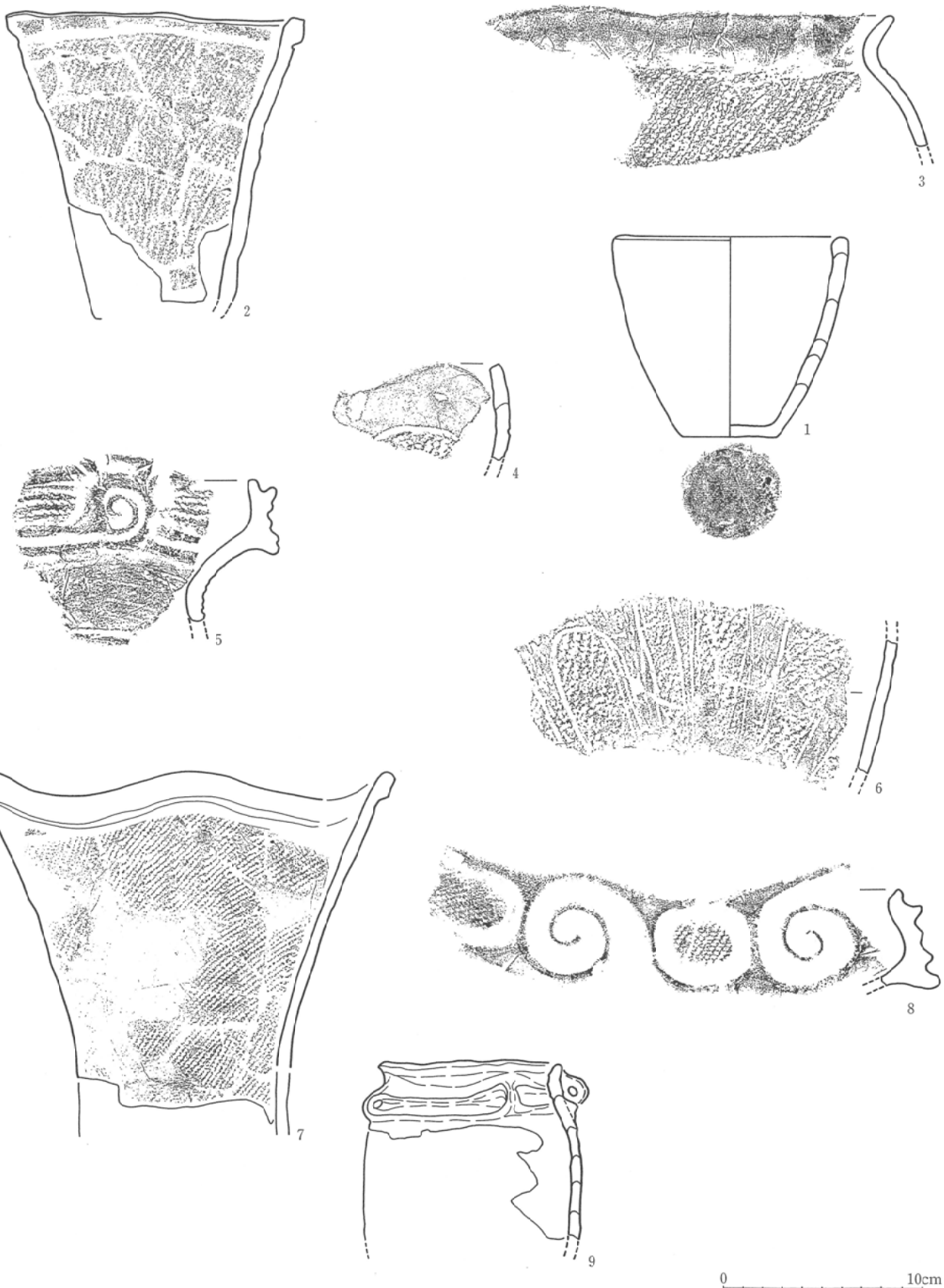
0 10cm
(1：3)

第31図　SK36出土土器(1)

第32図　SK36出土土器(2)

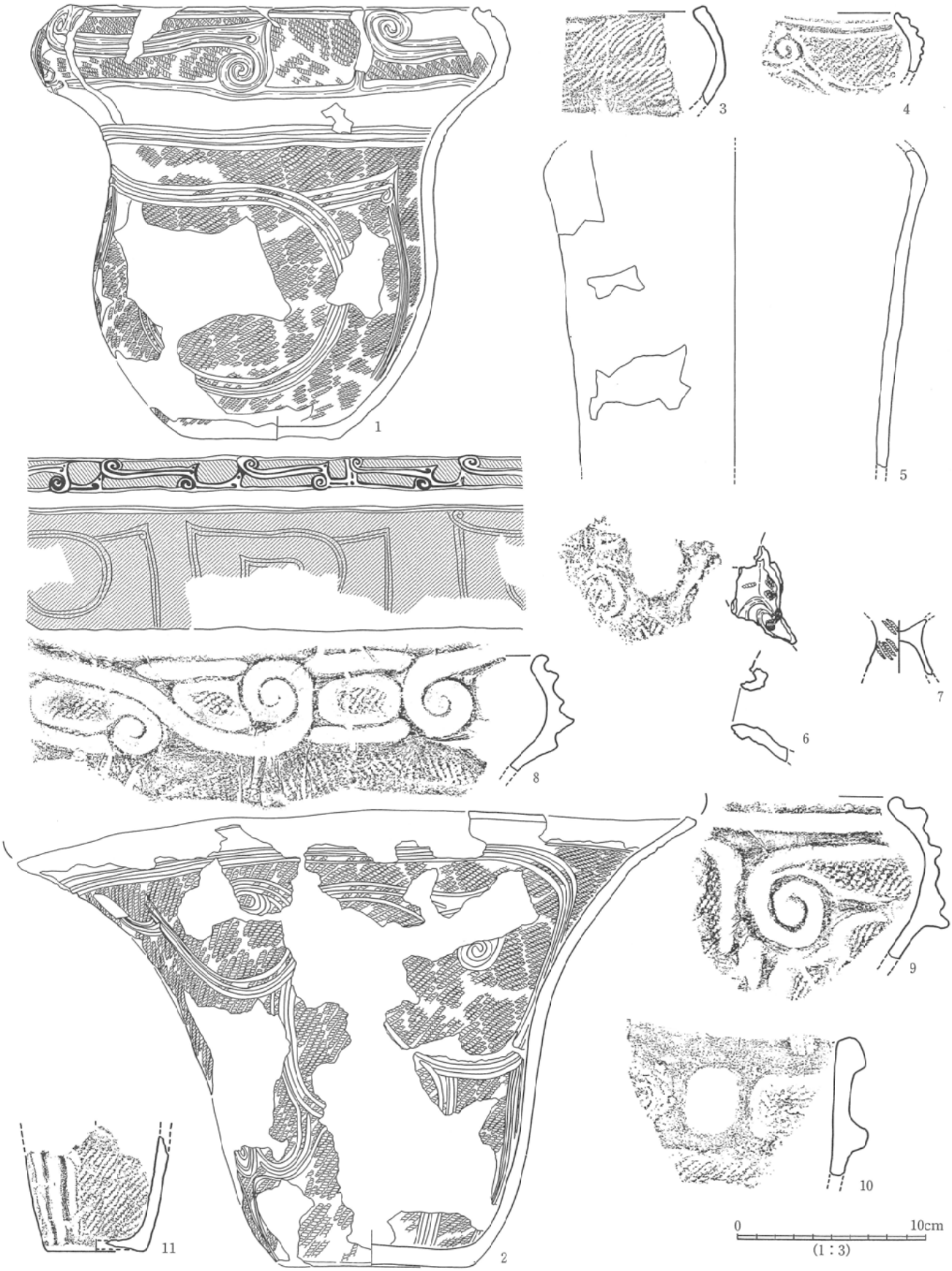


第33図　SK37出土土器(1)

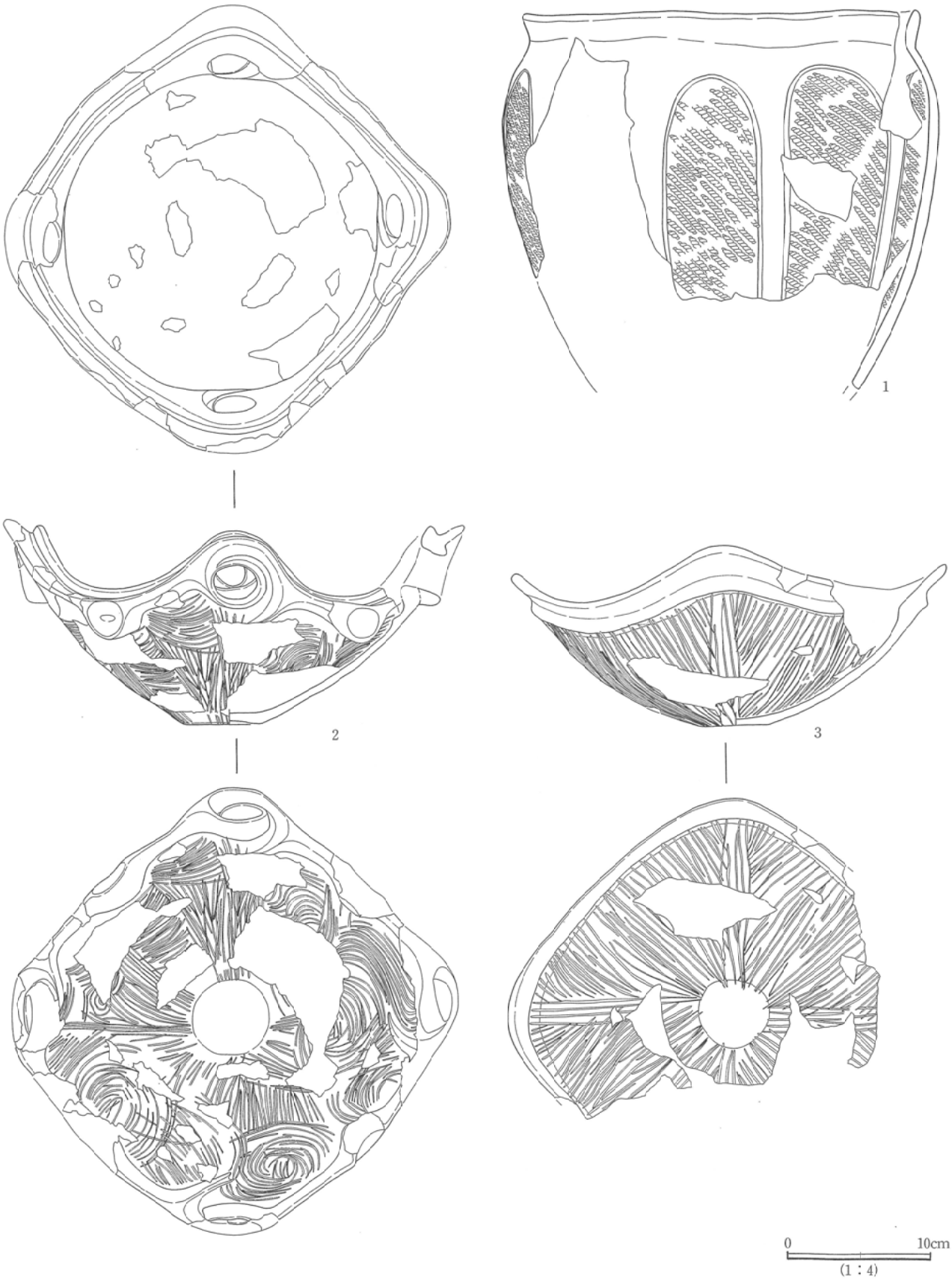


第34図　SK37出土土器(2)

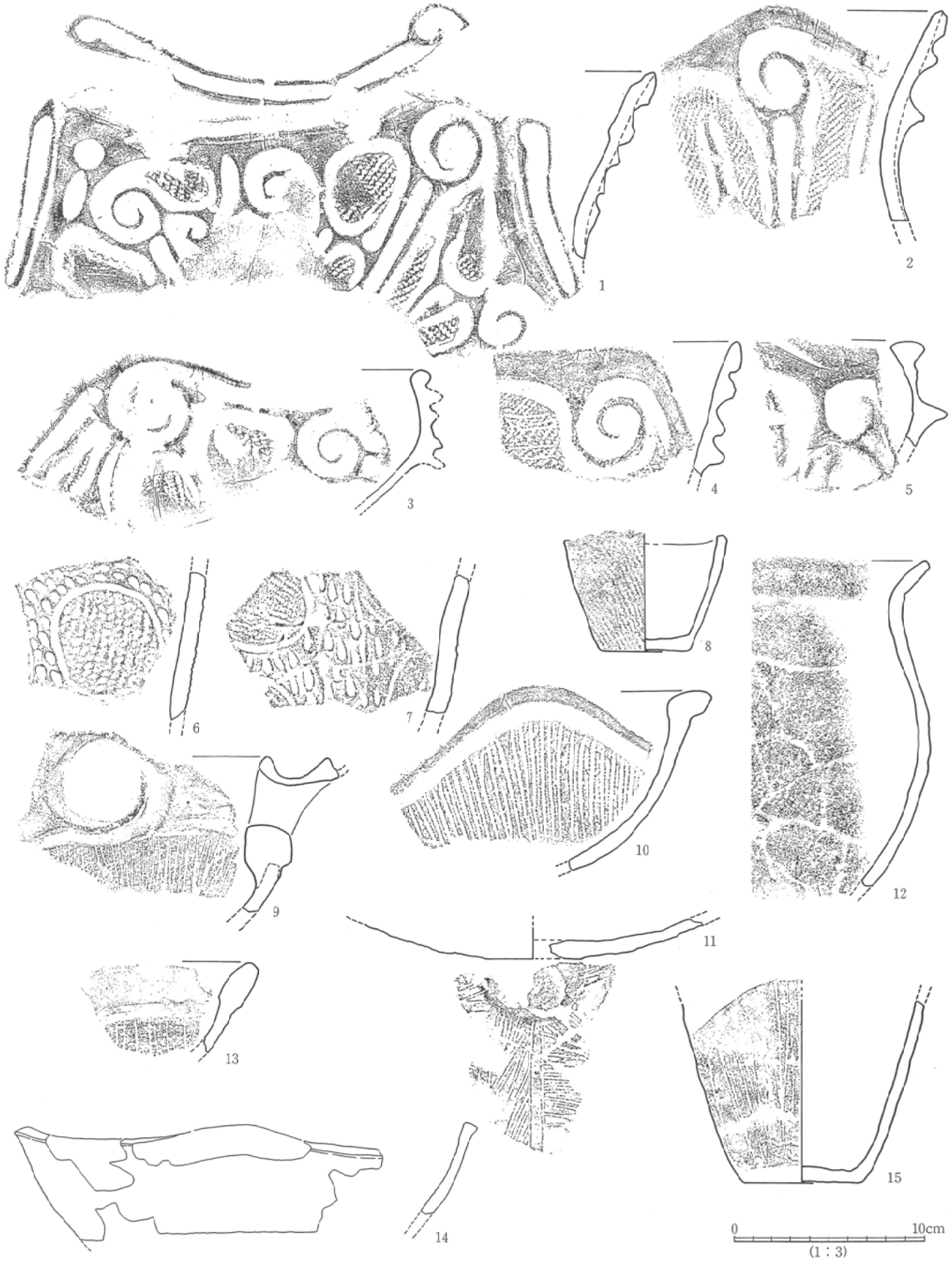
第35図　SK37出土土器(3)



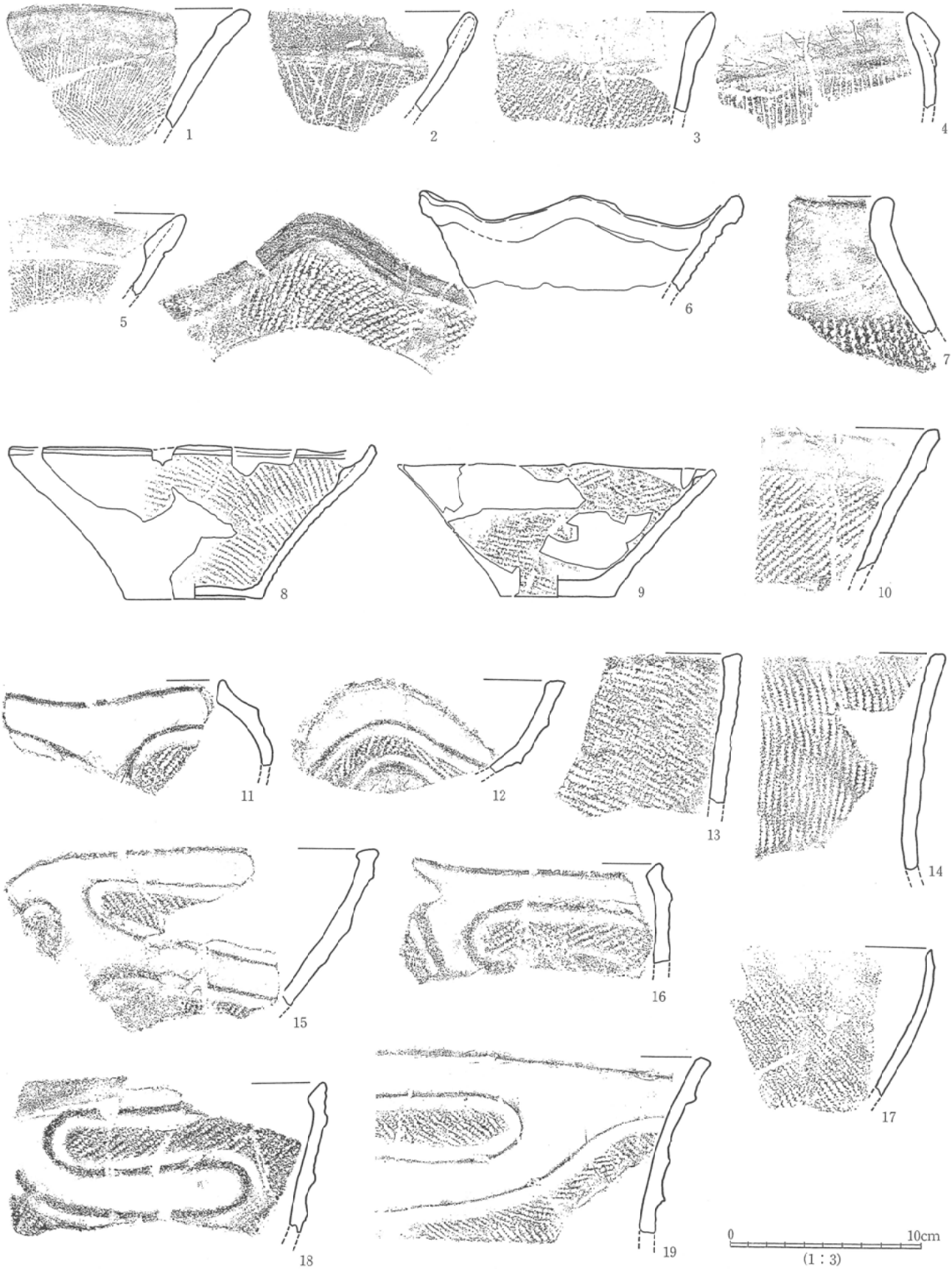
第36図　SX21包含層出土土器(1)



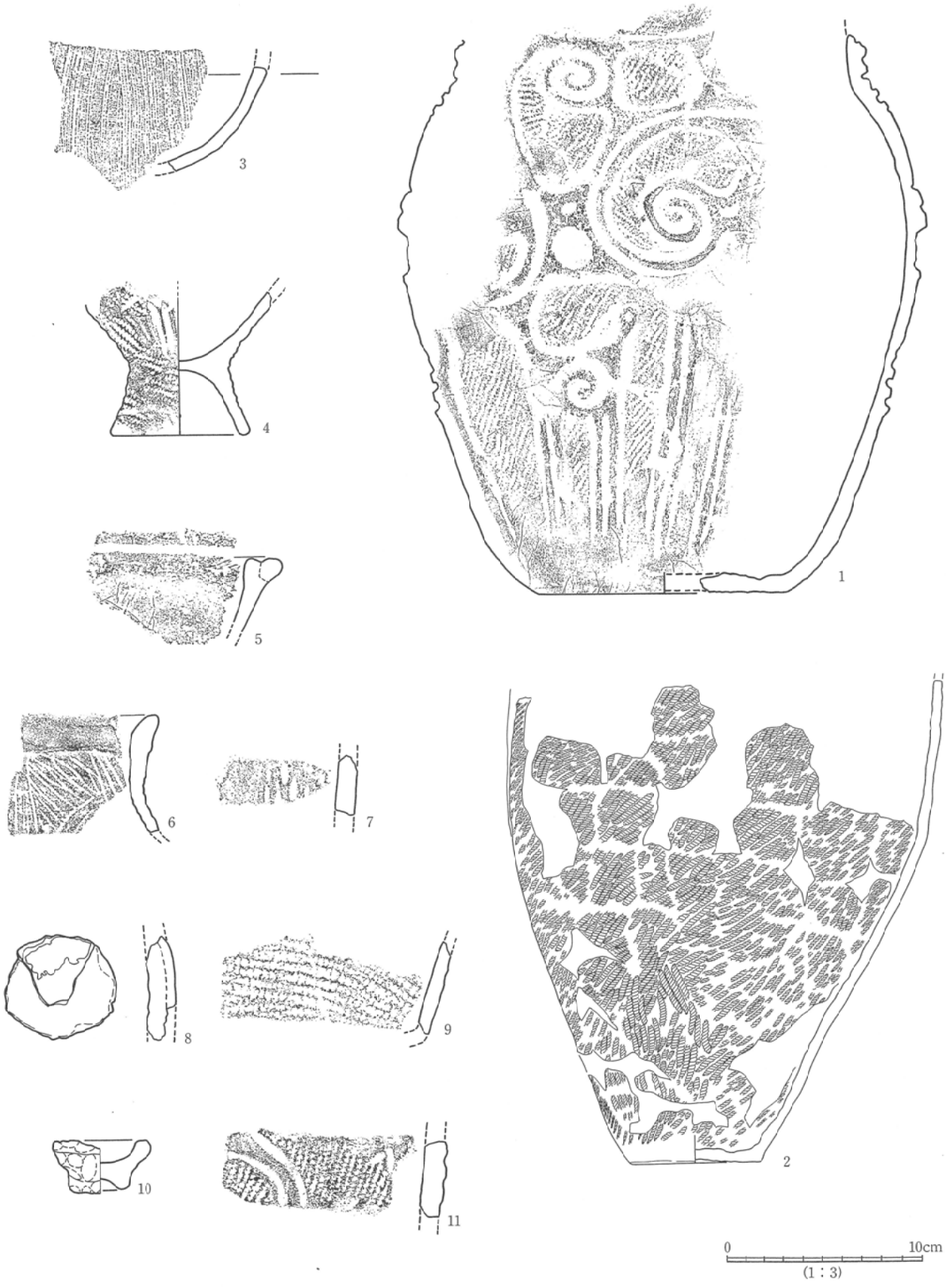
第37図　SX21包含層出土土器(2)



第38図　SX21包含層出土土器(3)



第39図　SX21包含層出土土器(4)



第40図　その他の遺構出土土器(グリッド含む)

4　石器

今回の調査で出土した石器は、総数269点である。その内訳は、定型石器43点、石核９点、磨製石器２点、二次加工のある剥片が70点である。礫石器は145点である。

本遺跡では定型と考えられる石器は非常に少なく、素材となる剥片に二次調整加工を施してある石器の割合が大きい。遺跡全体の傾向として、ツールとして作り込まずに剥片を使用していた状況が考えられる。また、遺物包含層・廃棄土坑中から、大量の剥片とそれにともなう石核や母岩が出土しており、当地において石器製作が行われたことを如実に表している。

以下、各器種毎に概要を述べる。

石鏃（第41図）

出土数は９点である。石材はほとんどが頁岩であるが、一部鉄石英を石材として使用しているものも見受けられる。着柄部にアスファルト等の付着は観察されていない。

以下のように分類できる。

Ⅰ類：基部に抉り込みの入るもの

Ⅱ類：基部が茎を持つもの

Ⅲ類：基部側が直線状となるもの

Ⅳ類：未製品と考えられるもの

石錐（第41図）

素材となった剥片の縁辺に調整加工を施して、その一端あるいは相対する両端に尖った先端部を作出した石器を石錐とした。出土数は14点である。全部、素材となる剥片の一端を尖らせて短い尖頭部を作り出したものであり、定型と考えられるものはなかった。石材は全て頁岩が用いられている。大きさと形態の特徴により以下のように分類し、Ⅰ－Ａのように表記した。

第一分類

Ⅰ類：長さ70㎜～80㎜前後の大きさのもの

Ⅱ類：長さ40㎜～50㎜前後の大きさのもの

第二分類

Ａ類：基部との境界が明瞭で、尖頭部がしだいに細くなるもの

Ｂ類：基部と尖頭部の境界が不明瞭なもの

Ｃ類：Ａ・Ｂ類に該当しない特殊な形態となるもの

石匙（第43図）

相対する二つのノッチを入れることによって作出されたつまみを持つ石器を石匙とした。本遺跡では８点の出土である。石材は全て頁岩が用いられている。これらはつまみと刃部との位置関係によって以下のように分類し、属性表中にⅠ－Ａのように表記した。

第一分類

Ⅰ類：つまみを上方に置いたときに側縁が刃部となる縦形のもの。
Ⅱ類：つまみを上方に置いたときにその下端の縁辺が刃部となる横形のもの
Ⅲ類：つまみを上方に置いたときに側縁が刃部となる斜形のもの。
第二分類
A類：左右が対称形となり、先端部に直線状の刃部を作出するもの
B類：左右が非対称のもので、先端部が尖ったもの
C類：左右が非対称のもので、先端部が丸みを帯びたもの
D類：A～C類のいずれにも属さないもの

石篦（第42図）
素材となった剝片の、背面と主要剝離面の両面に加工され、その長軸の末端が刃部になると考えられる一群。また背面側だけの片面加工であっても、刃部と考えられる末端の刃角が小さく、掻器とはなり得ないものもここで扱った。形態と刃部の作出形態により、以下のように分類し、属性表中にⅠ－Aのように表記した。
第一分類
Ⅰ類：形状が撥形となるもの。
Ⅱ類：形状が短冊形となるもの。
Ⅲ類：上記のいずれにも属さないもの。
第二分類
A類：刃部が片刃状となるもの
B類：刃部が両刃状となるもの

二次加工のある剝片（第44・45図）
定型を成さない剝片の中で、母岩からの剝離後、二次的な加工を施したものをこの範疇に入れた。長軸上の端部に急斜度調整で刃部を設けた石器や剝片の側縁に連続的な調整によって刃部を作り出した石器も本稿ではこの範疇に入れて分類した。全部で70点確認されたが、図化したのはその一部で19点である。以下剝片の形・大きさ・調整の差異を基に二段階分類を行いそれぞれⅠ－Aの形で表中に記した。
第一分類
Ⅰ類：縦長剝片で１～５cm程度の大きさのもの
Ⅱ類：縦長剝片で５～10cm程度の大きさのもの
Ⅲ類：縦長剝片で10～15cm程度の大きさのもの
Ⅳ類：横長剝片で１～５cm程度の大きさのもの
Ⅴ類：横長剝片で５～10cm程度の大きさのもの
Ⅵ類：横長剝片で10～15cm程度の大きさのもの
第二分類

A類：剥片の側縁に連続した押圧剥離による刃部を作り出しているもの
B類：剥片の側縁に連続した押圧剥離による刃部を複数作り出しているもの
C類：刃部の作り出しが確認できないが使用痕と思われる剥落痕が認められるもの

石　核（第46・47図）

剥片石器の製作において、母岩からの剥離行程の最終段階で放棄された残骸である。全部で9点の出土で、内1点は接合資料である。全て頁岩製であるが、その剥離面からはどれも良好な状態の剥片を作出しているとは言い難い。製作時に石材は良好な状態を保っていなかったと考えられ、ツールは作出できず、幾度かの剥離工程を経ただけで、廃棄したものと考えられる。7点図化し掲載している。

接合資料（第48-3図・図版27-2）

SK37のF4層から土器破片とともに出土した。剥片剥離の作業後、目的の剥片を抜き取った後に、所期の機能を失った土坑内に土器片とともに廃棄されたものと思われる。素材は頁岩であるが、母岩の状態までは復元するに至っていない。同一母岩からの剥離と考えられる剥片は18点確認でき、最終的には3つの接合片と4点の剥片となった。接合片の大きさで最大のものは長軸長25cm、短軸長15cm、最大幅10cmを測り、これのみ図化掲載した。剥離行程のは次のようになるが、残存部が少ないゆえ、ここでは相対剥離順による番号でのみ明示し、図中にその番号のみを付したことを了承願いたい。

母岩の選択→初期の剥離（2～3回）→1の剥離→2aの剥離→3aの剥離
→2bの剥離→3bの剥離→→石核廃棄

磨製石斧（第43-1，2図・図版26-15,16）

出土数は2点で、全て定角式磨製石斧である。

43-1は完形品で、ST3の床面からの出土した。刃部断面は両凸刃部で、平面形は緩い弧状を呈し、使用痕が観察できる。基部基端は平縁である。石材は蛇紋岩である。

43-2は基本層III層のR－8グリッドから出土した。43-1より一回り大きいが、刃部から基部中央にかけて欠損する。基部基端は丸みを帯びる。石材は蛇紋岩である。

磨　石（第56図）

礫面の前面または一部に磨痕がある川原石を磨石とした。本遺跡からは大小合わせて67点が出土した。磨面を持つものの中で、敲打による凹痕があるものは凹石として扱っている。以下、次のように分類できる。

I類：平面形が楕円形の扁平な礫の片面を磨り面として使用した可能性のあるもの
II類：平面形が楕円形または円形、断面形楕円形となる扁平な礫の表裏面を磨り面として使用した可能性のあるもの

III類：球形となる礫の前面を磨り面として使用した可能性のあるもの
IV類：上記のいずれにも属さないが、磨り面と思われる礫面を有するもの

凹　石（第54図）

川原石の表面に敲打によると考えられる凹痕をもつもので、そのほとんどが磨り痕を併せ持つ。出土数は15点である。その内の6点を図化した。凹痕の位置により以下のように分類できる。

第一分類
Ⅰ類：1面に凹痕をもつもの
II類：2面に凹痕をもつもの

第二分類
A類：大形で、最大径で12cm以上の大きさのもの
B類：中形で、最大径で70cm以上の大きさのもの
C類：小形で、最大径で70cm以下の大きさのもの

石　皿（第49・50・51図）

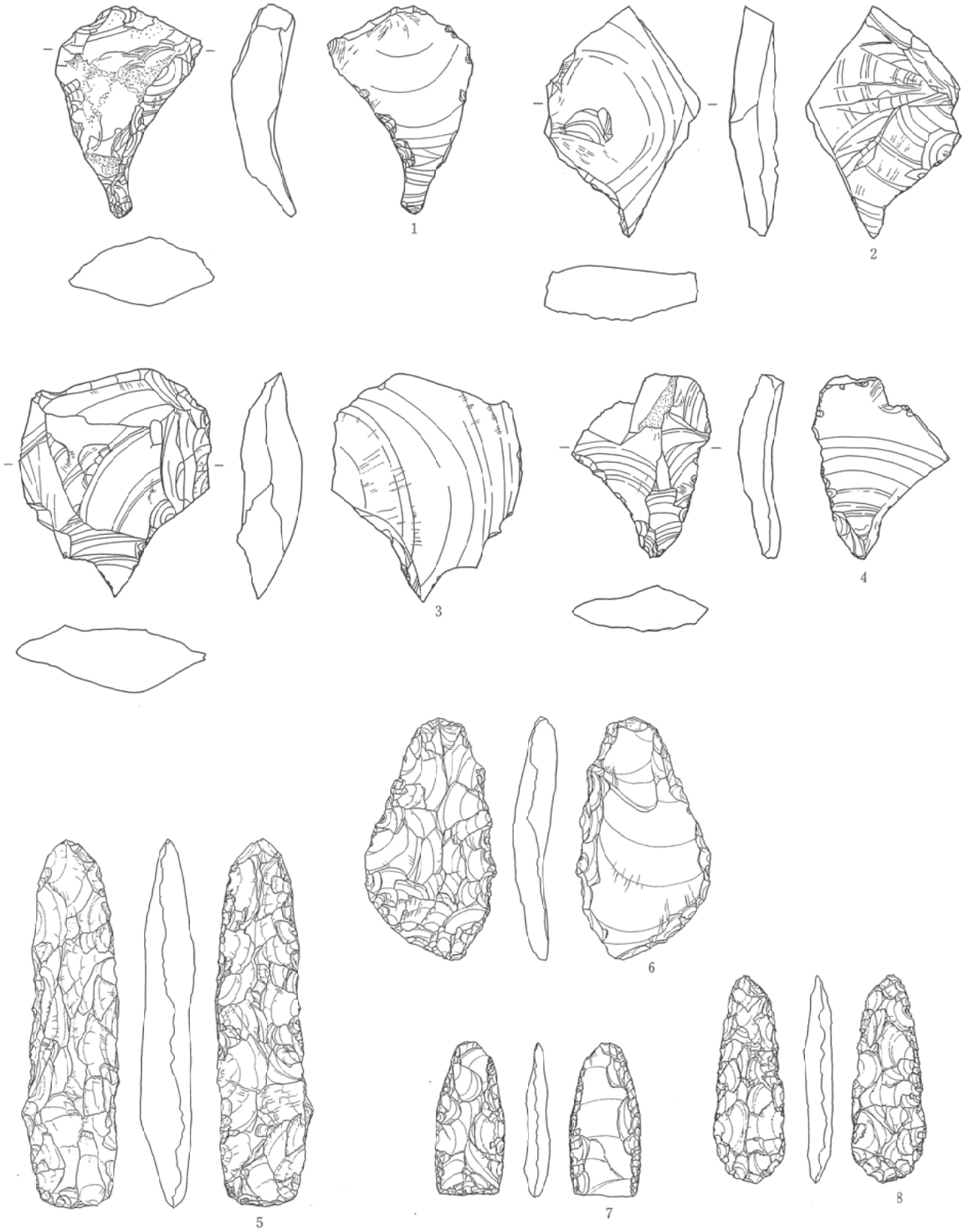
大形の川原石で一面もしくは二面に扁平な磨面をもつ石器を石皿とした。出土数は9点でその内の6点を図化した。以下の通り分類できる。
Ⅰ類：大形で不整円形状のもの
II類：小形で不整円形状のもの
III類：大形で長方形状のもの
IV類：小形で長方形状のもの

敲打痕のある礫器（第55図）

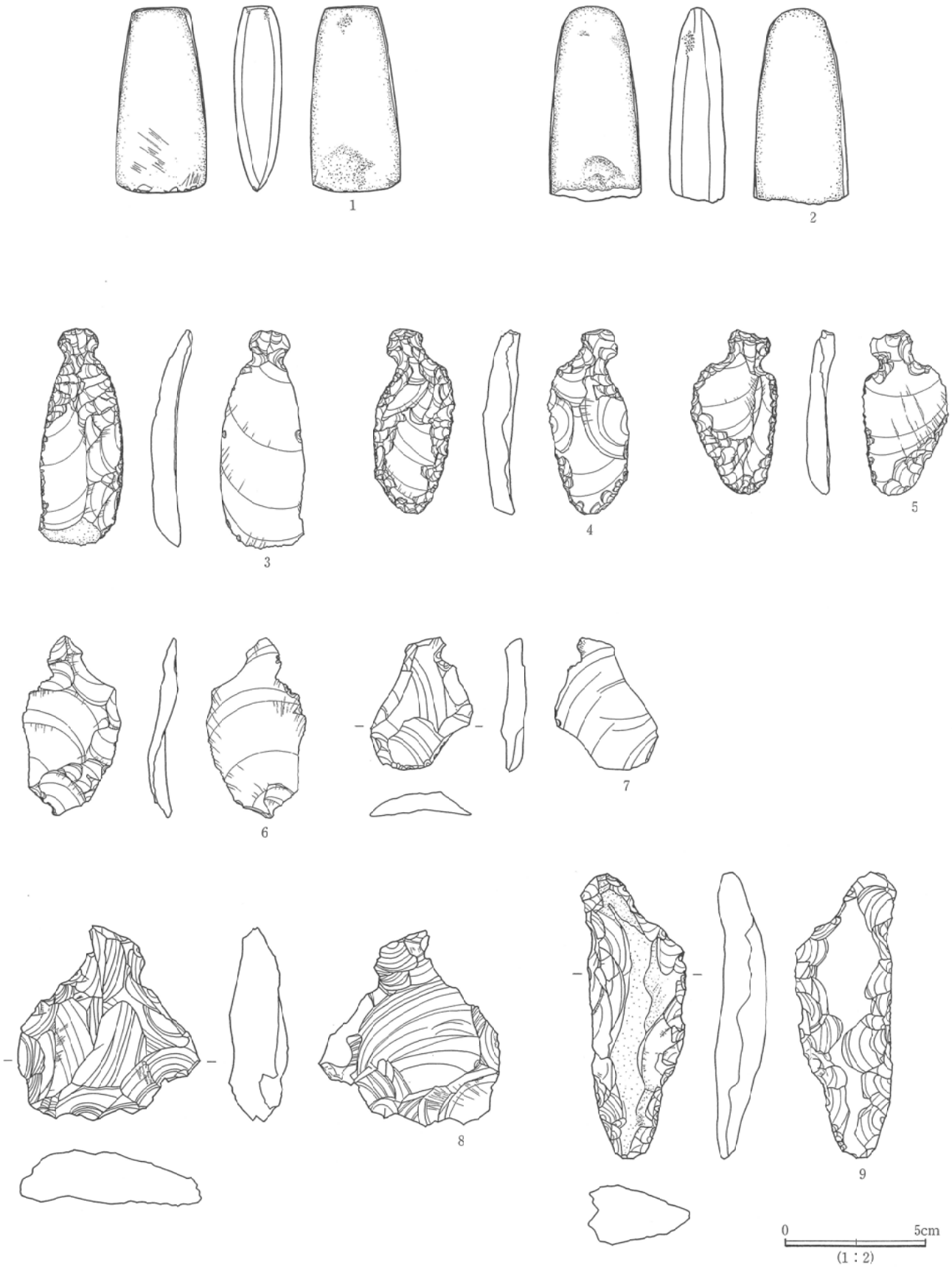
礫に、敲打による剝離・磨耗痕があるものを、敲打痕のある礫器としてここでまとめた。29点が出土し、内8点を図化掲載した。ハンマーとして使用されたものと考えられる。棒状のものは刃部を作出する際に使用された可能性があるが、詳細は不明である。川原石などが主流を占め、頁岩等の剝片を作出するのに良好な石材は使用されていない。表面に磨り痕も見られるものもあり、他の製品からの転用と考えられるものもある。

形態・大きさから以下のように分類できる。
Ⅰ類：大型で球形の礫面に敲打の痕跡を残すもの
II類：小型で球形の礫面に敲打の痕跡を残すもの
III類：大型で楕円形の端部に敲打の痕跡を残すもの
IV類：小型で球形の礫面に敲打の痕跡を残すもの
Ⅴ類：大型で棒状の端部に敲打の痕跡を残すもの
VI類：小型で球形の礫面に敲打の痕跡を残すもの

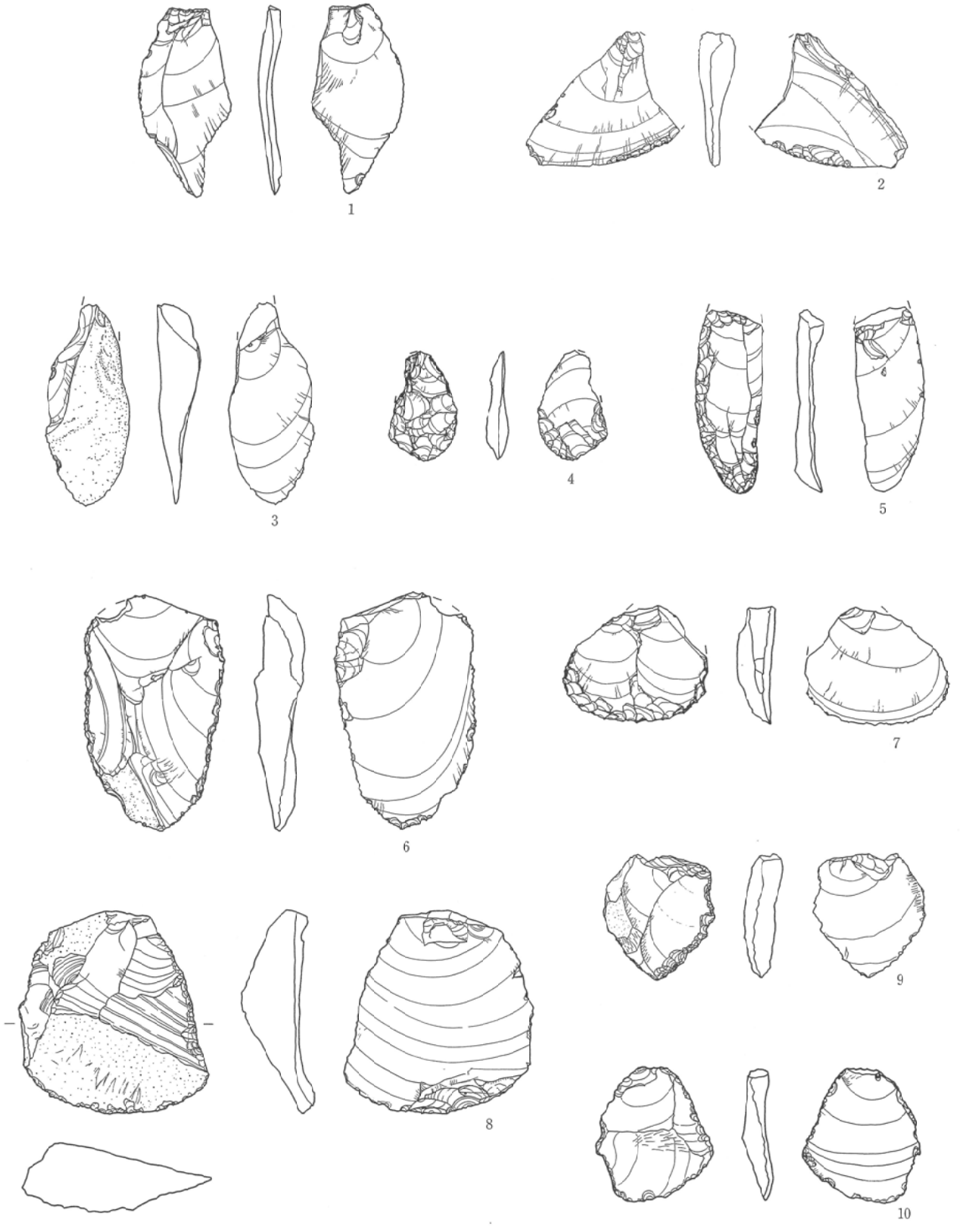
第41図　出土石製品(1)



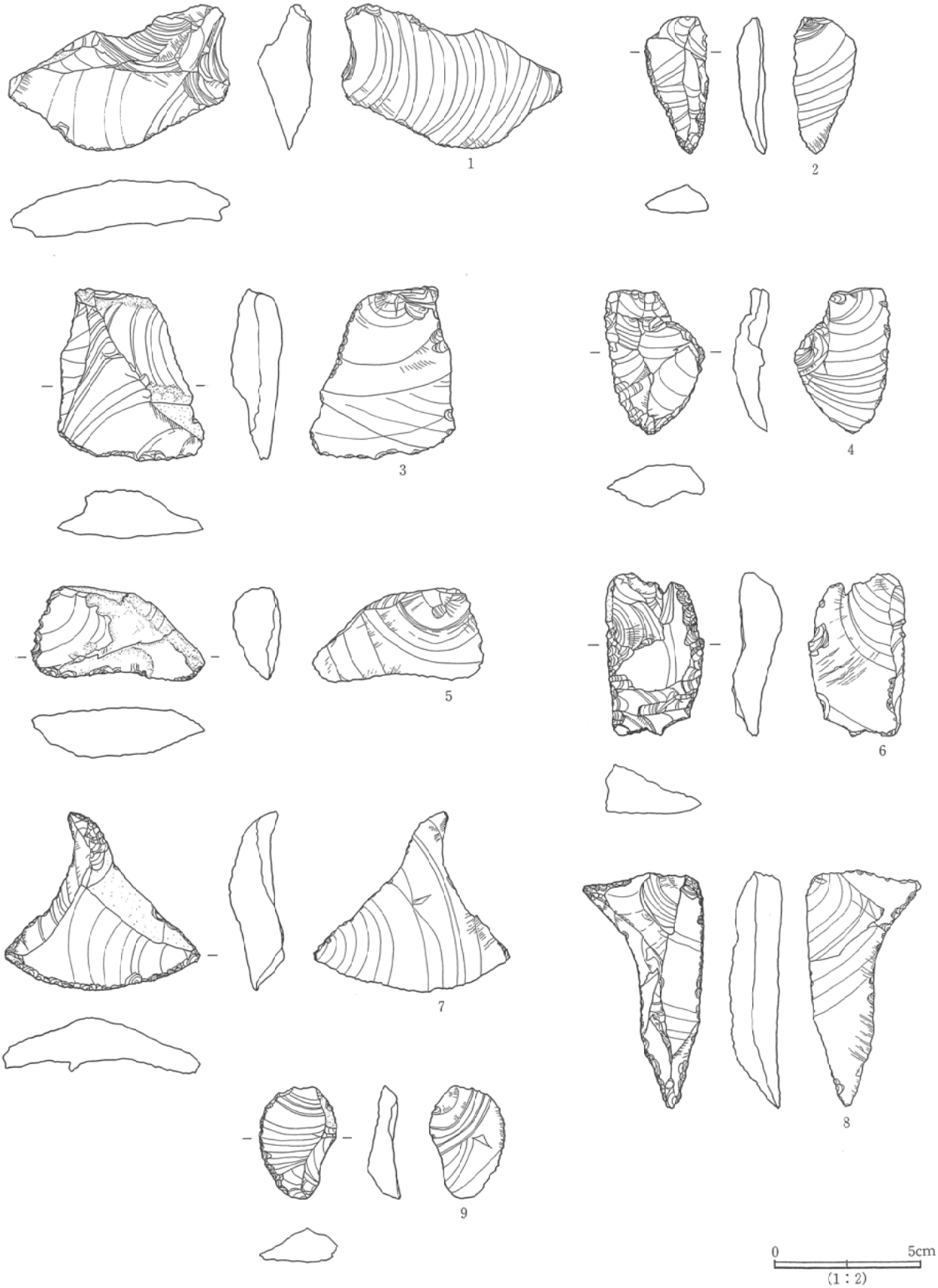
第42図　出土石製品(2)



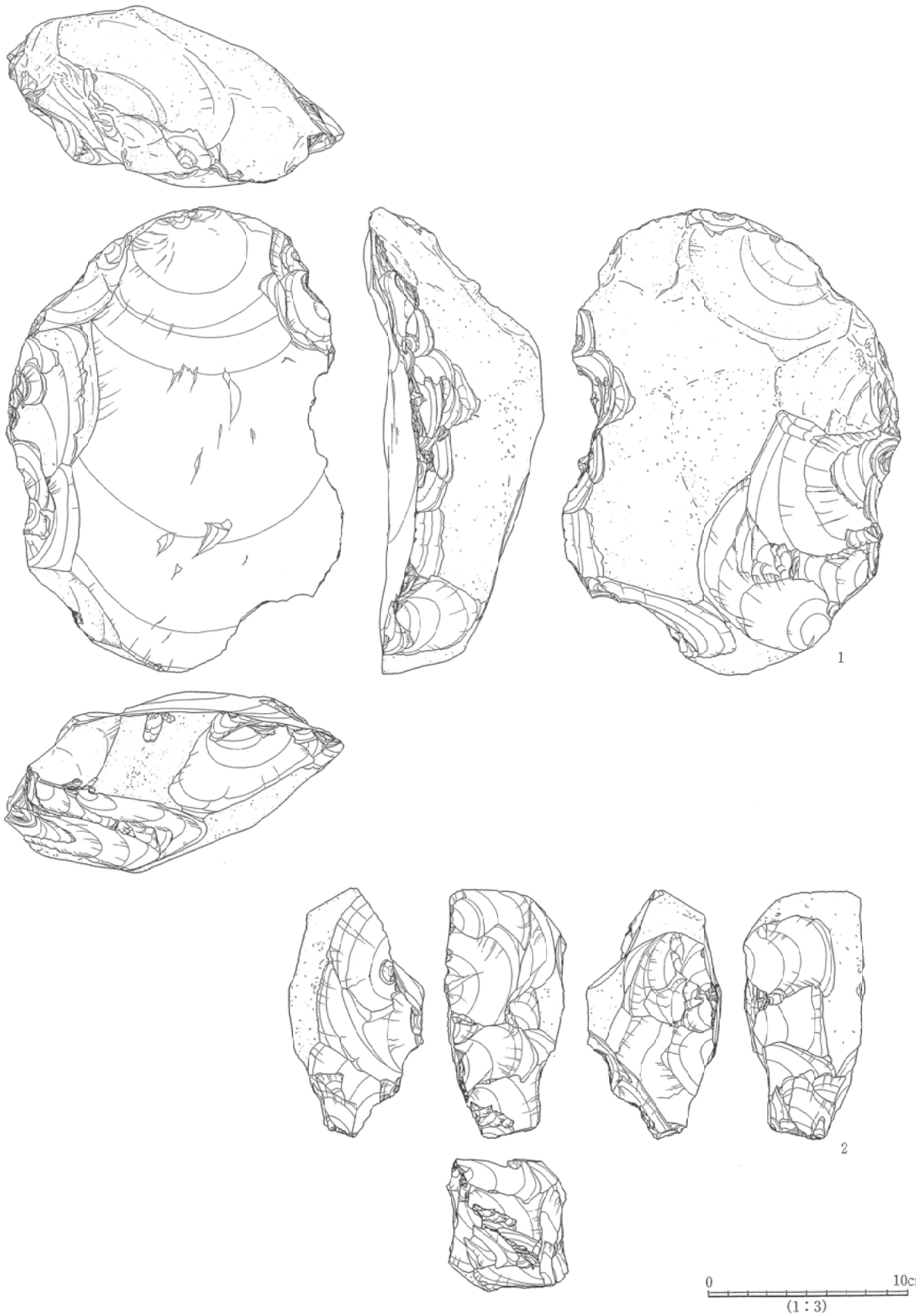
第43図　出土石製品(3)



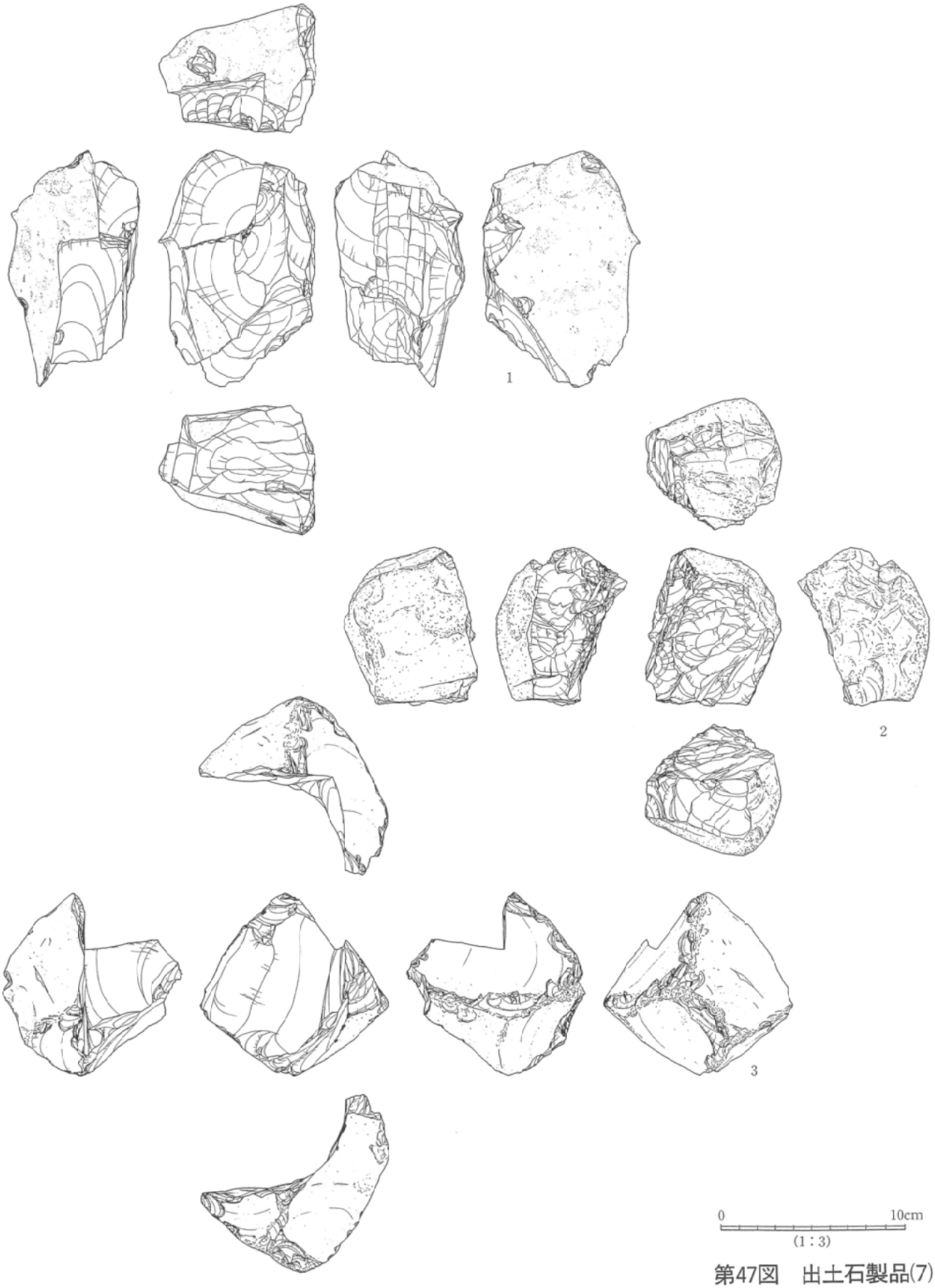
第44図　出土石製品(4)



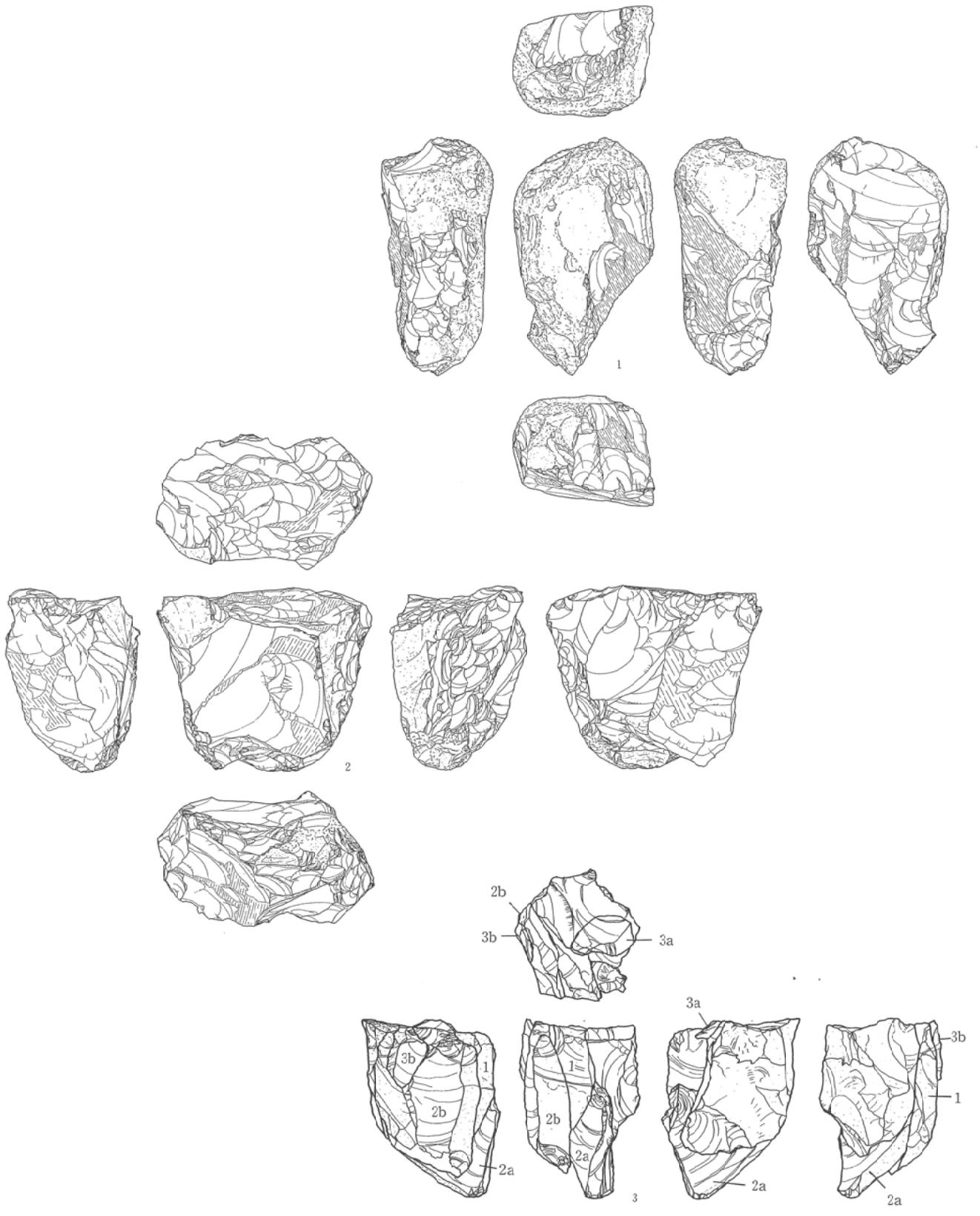
第45図　出土石製品(5)



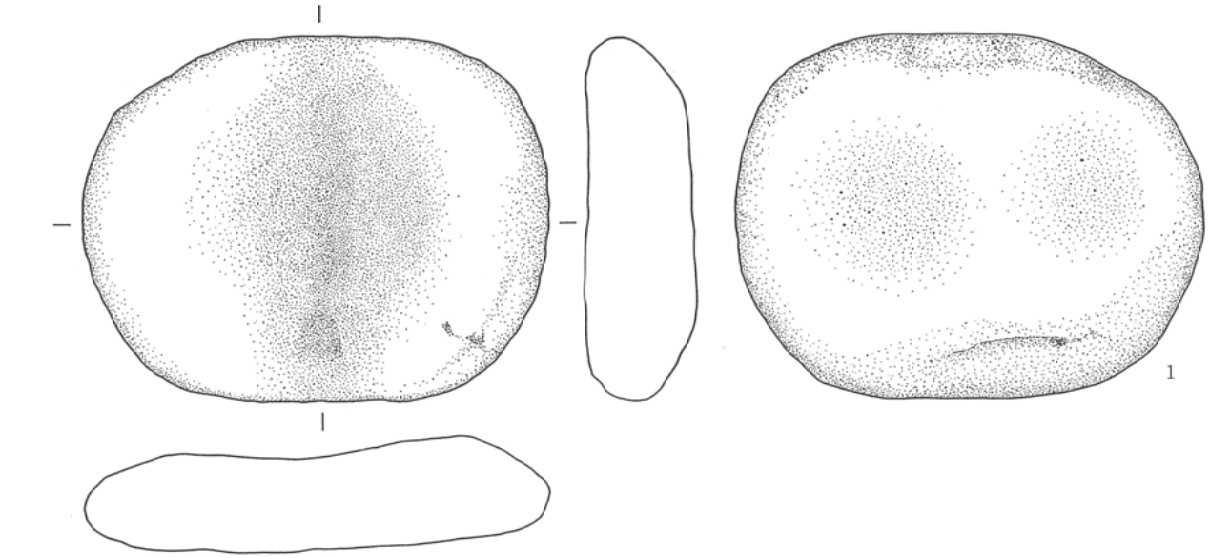
第46図　出土石製品(6)



第47図　出土石製品(7)



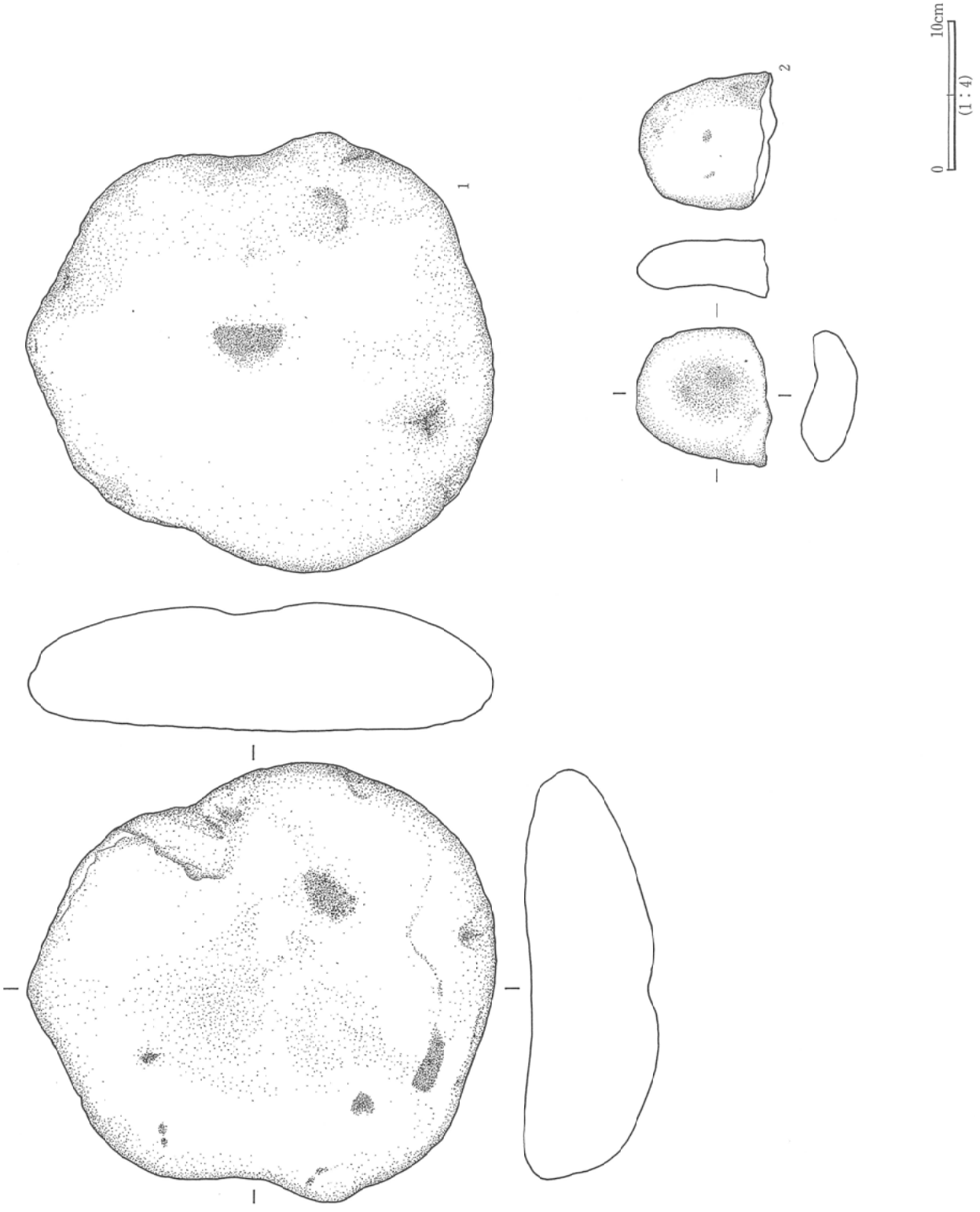
第48図　出土石製品（８）



0 10cm
(1：4)

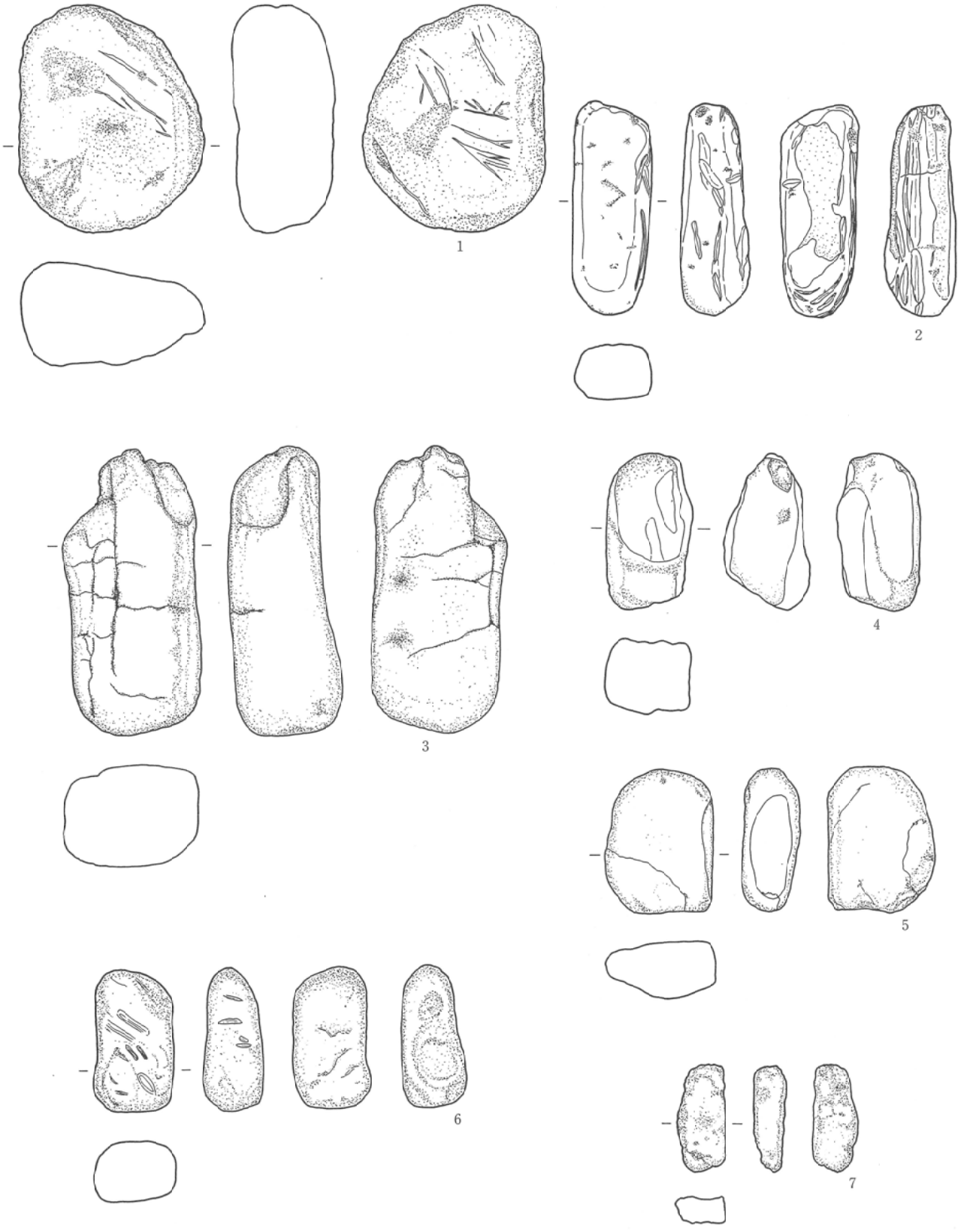
第49図　出土石製品(9)

第50図　出土石製品(10)

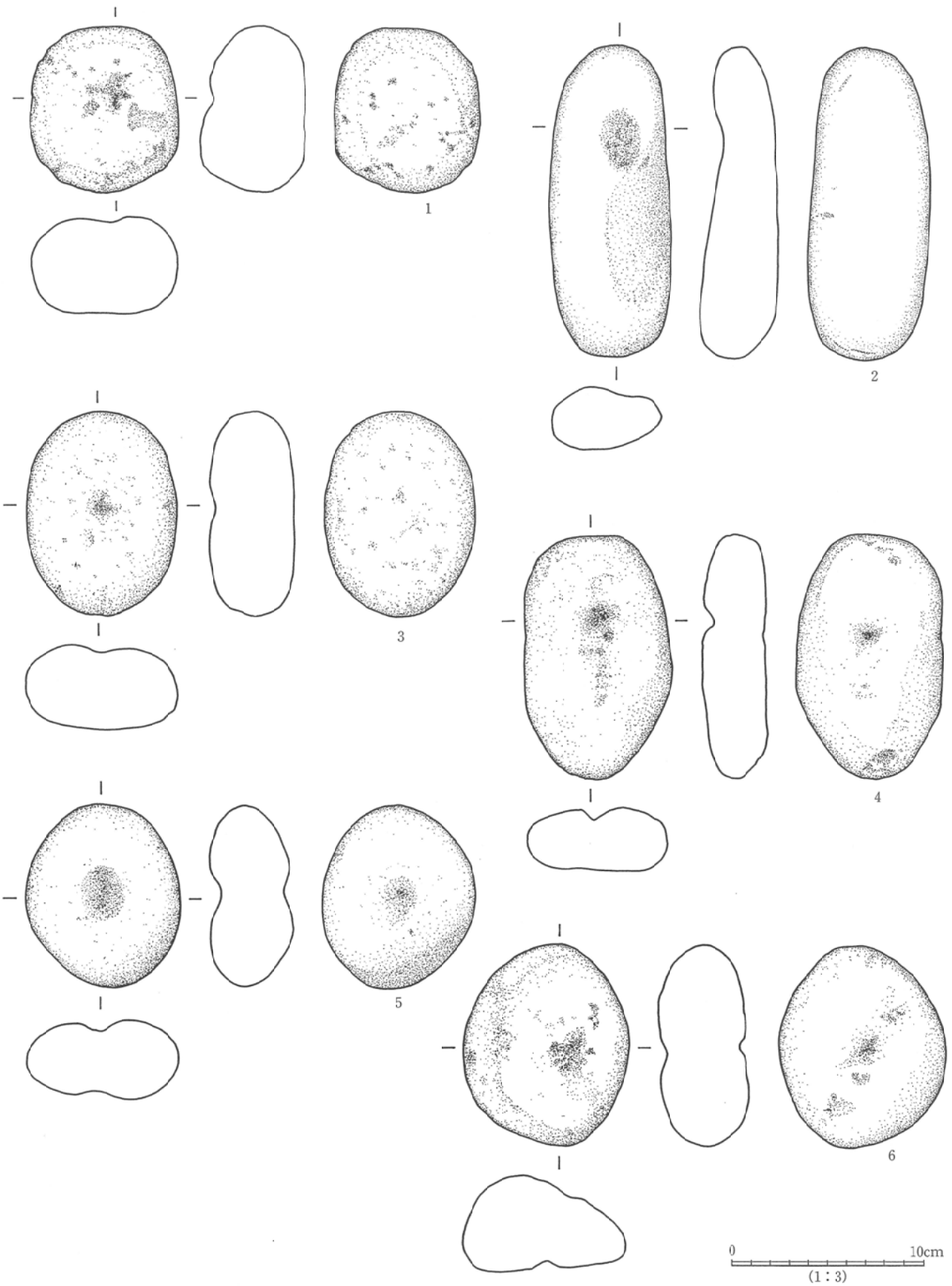


第51図　出土石製品(11)

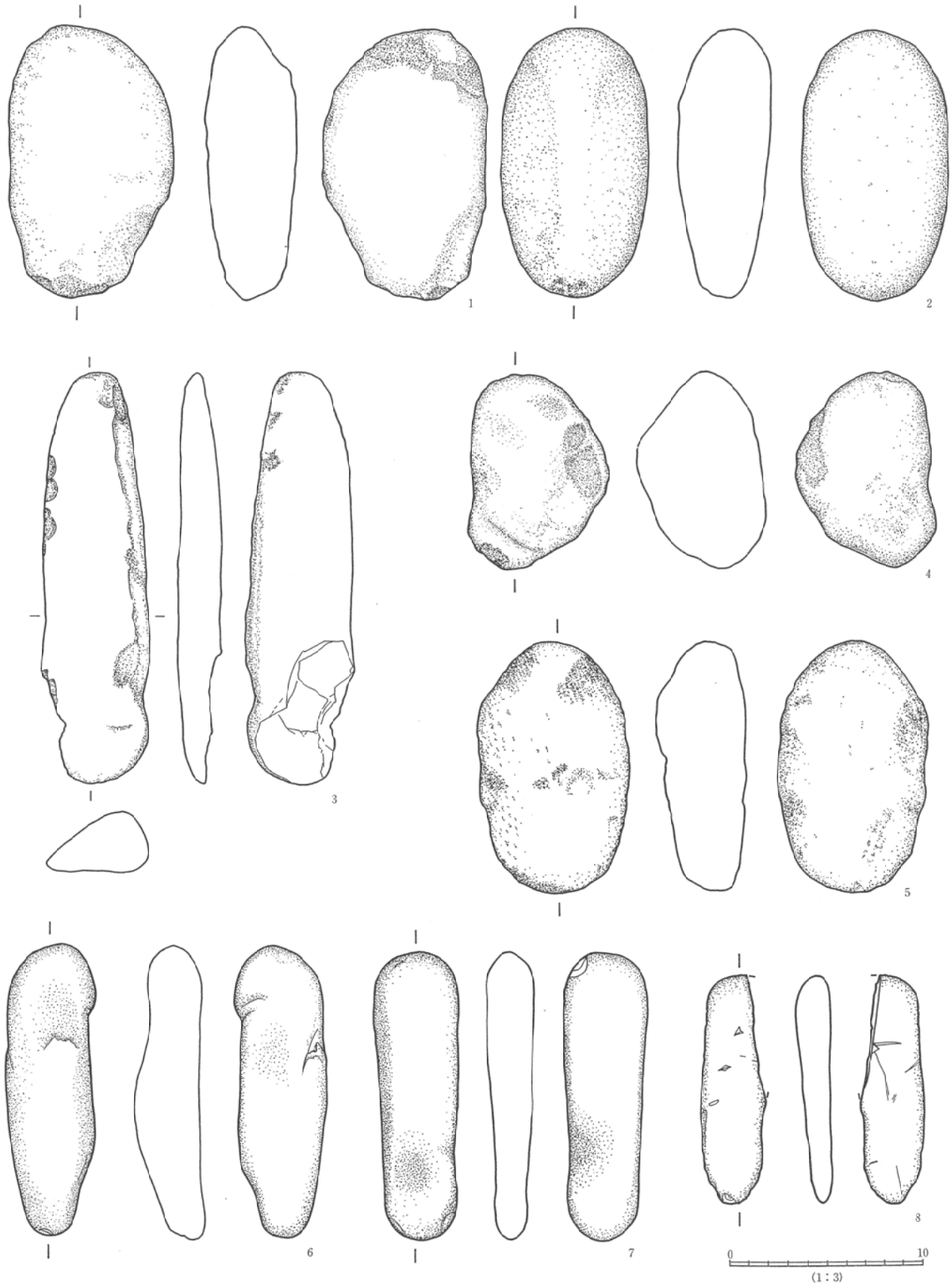
第52図　出土石製品(12)



第53図　出土石製品(13)



第54図　出土石製品(14)



第55図　出土石製品(15)

第56図　出土石製品(16)

表4　出土土器観察表(1)

No.	出土遺構	RP番号	器種	部位	計測値(mm)				分類	文様	地文	備考	挿図	図版
					器高	口径	底径	器厚						
1	ST3 Y	47	深鉢	完形	249	236	54	9	3-B	連結曲流横位渦巻楕円文	RLR縦(充填縄文)	入れ子の外側	19-1	11-1
2	ST3 Y	73	深鉢	胴部・底部	(98)	—	82	8	3-B	連結曲流縦位渦巻文	LR縦	入れ子の内側	19-2	11-3
3	ST1		深鉢	胴部上半	—	—	—	10	2-A	曲流横位渦巻文	LR縦		19-3	—
4	ST2 F		深鉢	口縁部	—	—	—	6	2	連結曲流横位渦巻文＋刺突文	不明	器形不明	19-4	—
5	ST2		深鉢	口縁部	—	—	—	10	C	なし	RL縦		19-5	—
6	ST2 F1		浅鉢	口縁部	—	—	—	7	b	不明	不明		19-6	—
7	ST3 F		深鉢	口縁部	(38)	—	—	8	A	なし	LR横		19-7	—
8	ST3 F		深鉢	口縁部	—	—	—	5	C	口縁部－隆線文	RL斜め		19-8	—
9	ST3 F1		深鉢	口縁部	—	—	—	8	C	口縁部－沈線文	RL縦		19-9	—
10	ST3 F3		浅鉢	胴部	(145)	—	—	6	3-a	櫛目状沈線文	－		19-10	—
11	ST3 F		深鉢	口縁部	(135)	(314)	—	7	3-B	連結曲流横位渦巻隆沈文	RL縦	波状口縁(4)	19-11	112
12	ST3 F1	38	深鉢	口縁部	(56)	—	—	6	3-B	連結曲流横位渦巻隆沈文	不明	隆帯断面山形	19-12	24-4
13	ST3 F		浅鉢	底部	(24)		(70)	7	3-b	条線文	－		19-13	—
14	ST4	51	浅鉢	ほぼ完形	480	(335)	(87)	8	6-B	雁又文	RL縦(胴部下半)		20-1	11-5
15	ST4	76、71	深鉢	口縁部・胴部	(92)	—	—	5	5-A	字文	RL縦(磨消し)		20-2	24-9
16	ST4	51	深鉢	口縁部	(51)	(140)	—	5	D	なし	RL横	口縁内面に稜	20-3	—
17	ST4 F		深鉢	胴部・底部	(61)	—	78	6	D	なし	LR縦		20-4	11-4
18	SX4	71	深鉢	胴部・底部	(194)	(27)	97	9	E	なし	なし	EL	20-5	—
19	ST4 F	51	深鉢	胴部	(85)	—	—	7	6-C	遺存部からの判読不可	LR斜め	稜状微隆起線	20-6	24-13
20	ST5	70	深鉢	口縁部・胴部	(349)	286		8	6-B	波濤文	RL胴部上－横・下－縦		21-1	12-1
21	ST5	37	深鉢	完形	308	(244)	85	8	6-C	なし	RL縦		21-2	11-6
22	ST7	65	深鉢	口縁部・胴部	(293)	286	—	7	6-D	雁又文	RLR胴部上－横・下－縦	稜状微隆起線	21-3	12-2
23	ST6		深鉢	胴部	(54)	—	—	8	D	なし	LR縦		21-4	—
24	ST5		深鉢	胴部	(80)	—	—	7	C	なし	LR胴部上－縦　下－横		21-5	—
25	ST6		深鉢	口縁部	(57)	—	—	8	6-D	雁又文？	RL縦(充填縄文)		21-6	—
26	ST7	71	深鉢	胴部	(79)	—	—	8	6-D	波濤文	RL縦(充填縄文)		21-7	24-15
27	ST6		深鉢	口縁部	(125)	—	—	12	D	なし	LR縦		21-8	—
28	ST6		深鉢	口縁部	(89)	(320)	—	9	6-C	縦位沈線文	なし		21-9	—
29	ST5	77	深鉢	底部	(49)	—	70	8	D	なし	RL横	炭化物付着	21-10	—
30	ST5 F		深鉢	胴部	(60)	—	—	7	3-A	隆沈文	RL縦		21-11	—
31	ST6 EL12	63	深鉢	口縁部・胴部	(133)	223	—	9	7-B	ヒレ状隆帯　玉抱き文	RLR縦・横(充填縄文)	EL12埋設土器	21-12	12-5
32	SK30	67	深鉢	底部・胴部	(220)	(343)	132	8	2	連結横位渦巻文	RL縦	器形不明	22-1	18-3
33	SK30		深鉢	口縁部・胴部	—	—	—	10	2-C	楕円文	RL縦		22-2	—
34	SK32		浅鉢	口縁部・胴部	—	—	—	11	a	口縁部－隆線文	なし		22-3	—
35	SK30	67	深鉢	口縁部・胴部	(175)	(290)	—	10	2-A	曲流横位渦巻隆沈文	RL縦	中空突起付	22-4	23-6
36	SK30	67	深鉢	口縁部・胴部	(310)	(324)	—	10	2-A	横位渦巻文	口縁－RL横　胴部－LR横		22-5	18-1
37	SK30	41	深鉢	口縁部	—	—	—	10	2-A	横位渦巻隆沈文	RL縦		22-6	—
38	SK30	67	深鉢	口縁部	—	—	—	9	C	口縁部－横位押圧縄文	不明		22-7	—
39	SK28 F		深鉢	口縁部	—	240	—	8	C	なし	RLR縦		23-1	—
40	SK27 F		深鉢	口縁部	—	—	—	5	2-A	横位渦巻隆沈文	口縁－RL横	小形土器	23-2	—
41	SK28		深鉢	胴部・底部	—	—	—	7	2-A	曲流横位渦巻沈線文	口縁－RL横　胴部－RL縦		23-3	—
42	SK27		深鉢	胴部	—	—	—	7	2-A	横位渦巻楕円隆沈文	RL縦	遺構間接合	23-4	—
43	SK27		深鉢	注口(胴部)	—	—	—	6	2-A	渦巻沈線文？	RL縦	小形土器	23-5	—
44	SK28		深鉢	胴部	—	—	—	7	2-A	曲流渦巻隆沈文	LRL縦	小形土器	23-6	—
45	SK28 F		深鉢	口縁部	—	—	—	11	2-A	曲流横位渦巻沈線文	LR縦		23-7	—
46	SK28		深鉢	胴部	—	—	—	9	2-A	渦巻隆沈文	RL縦		23-8	—
47	SK28		深鉢	胴部	—	—	—	8	2-A	区画内展開沈線文	RLR縦	内面に隆帯	23-9	—
48	SK27 F		深鉢	胴部	—	—	—	8	2-A	渦巻沈線文	LR縦		23-10	—
49	SK101 F3	36	深鉢	口縁部	124	265	—	10	2-C	横位渦巻楕円隆沈文	RLR縦	中空突起付	24-1	19-1
50	SK32	30、36	深鉢	口縁部	—	—	—	8	2-A	横位渦巻隆沈文	LR横		24-2	—
51	SK33 F		深鉢	口縁部	(108)	—	—	9	C	口縁部－隆線文	RLR縦		24-3	—
52	SK32 F1	36	深鉢	口縁部	(76)	—	—	8	2-A	横位渦巻隆沈文	不明	突起付	24-4	—
53	SK32 F1	36	深鉢	口縁部	(58)	—	—	15	2-B	横位渦巻隆沈文	RLR縦		24-5	—
54	SK34 F		深鉢	口縁部	(42)	—	—	10	3-b	渦巻隆沈文？	なし	焼成硬い	24-6	—
55	SK32 F		浅鉢	口縁部	(82)	—	—	10	b	口唇部－渦巻沈線文	なし		24-7	—
56	SK34		深鉢	胴部	(64)	—	—	10	2-B	横位渦巻楕円文	RL横		24-8	—
57	SK34 F1		深鉢	胴部	(63)	—	—	10	3-B	縦位連結渦巻楕円文	LR縦		24-9	—
58	SK35	28	深鉢	完形	230	146	(53)	7	2-A	連結曲流横位渦巻楕円文	RL縦	注口土器	25-1	13-1
59	SK35 F4	69	深鉢	ほぼ完形	176	(159)	56	6	2-A	連結縦位渦巻沈線文	口縁－RLR横　胴－RLR縦	小形土器	26-1	13-3

表5　出土土器観察表(2)

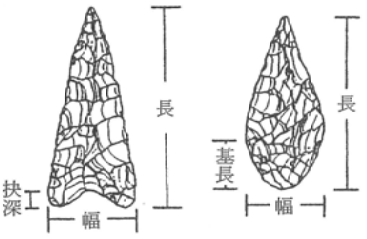
No.	出土遺構	RP番号	器種	部位	計測値(mm)				分類	文様	地文	備考	挿図	図版
					器高	口径	底径	器厚						
60	SK35　F4・10	70	深鉢	胴部・底部	227	(213)	78	6	2-A	連結縦位渦巻沈線文	RLR縦		26-2	—
61	SK35　F10	72	深鉢	完形	234	216	74	7	3-B	連結縦位渦巻隆沈文	LR縦	波状口縁(6)	26-3	13-2
62	SK35　F4	69	深鉢	完形	196	(130)	65	8	3-B	連結縦位渦巻沈線文	RLR縦		26-4	13-5
63	SK35		深鉢	胴部	—	—	—	9	3-A	曲流連結横位渦巻楕円隆沈文	LR縦		27-1	23-10
64	SK35　F		深鉢	口縁部	—	—	—	8	2-A	楕円隆沈文	口縁－RL横		27-2	—
65	SK35	54	深鉢	口縁部	(118)	(240)	—	8	A	なし	口縁－LR横　胴部－LR縦		27-3	24-5
66	SK35		深鉢	胴部	—	—	—	8	2-A	曲流横位渦巻楕円沈線文	RLR縦	摩滅激しい	27-4	—
67	SK35　F		深鉢	底部	—	—	110	9	2	隆沈文	LR横	器形不明	27-5	13-4
68	SK35　F		深鉢	口縁部	—	—	—	8	3-A	縦位連結渦巻楕円隆沈文	RL縦		27-6	24-3
69	SK35　F1		深鉢	胴部	—	—	—	8	2-A	縦位渦巻沈線文	RL横		27-7	—
70	SK101	61	浅鉢	口縁部・胴部	280	(486)	—	10	2-a	横位渦巻楕円文＋沈線文	なし		28-1	—
71	SK101	45	深鉢	口縁部・胴部	160	203	—	7	2-A	横位渦巻文	口縁—LR横　胴部—LR縦		28-2	19-3
72	SK101　F1		深鉢	口縁部	—	580	—	10	2-A	横位渦巻隆線文＋充塡刺突文	RL縦		28-3	—
73	SK101　F1		深鉢	口縁部	—	—	—	14	2-A	横位渦巻隆線文＋充塡刺突文	不明		28-4	23-8
74	SK101		深鉢	口縁部	—	—	—	10	2-C	横位付加渦巻隆線文＋楕円文	なし		28-5	19-2
75	SK101		深鉢	口縁部	—	—	—	7	2-A	横位渦巻隆沈文＋渦巻沈線文	RLR縦		28-6	23-7
76	SK101　F1		深鉢	口縁部	—	—	—	15	2-A	楕円文＋充塡刺突文	不明		28-7	—
77	SK31	27	浅鉢	口縁部・胴部	235	410	(120)	12	3-a	口縁－遮結渦巻楕円区画文	LR横		29-1	14-3
78	SK31	50	深鉢	口縁部・胴部	(357)	363	—	11	3-A	横位渦巻文	RLR縦	突起付	29-2	14-2
79	SK31	40	深鉢	口縁部	—	—	—	9	C	口縁－横位隆線	LR縦		30-1	24-6
80	SK31		深鉢	口縁部	—	—	—	9	2-A	口縁－横位渦巻文	LRL縦		30-2	—
81	SK31		深鉢	胴部	—	—	—	8	B	連結縦位渦巻楕円文	RL縦	波状口縁	30-3	—
82	SK31　F2		深鉢	口縁部	—	—	—	6	2-A	横位渦巻隆線文	RL縦		30-4	—
83	SK31		深鉢	口縁部	(32)	—	—	9	2-B	連結渦巻楕円文	LR横		30-5	—
84	SK31		深鉢	口縁部	—	—	—	5	2-A	口縁－横位渦巻楕円文	RLR横	赤彩	30-6	—
85	SK31		深鉢	口縁部	—	—	—	8	3-A	連結横位渦巻文	摩滅激しく不明	波状口縁(4)	30-7	24-1
86	SK31	26	深鉢	口縁部	—	—	—	7	2-A	口縁－横位渦巻楕円文	口縁－LR横		30-8	—
87	SK31		浅鉢	口縁部	—	—	—	10	B	口唇部－沈線文	なし	焼き締まる	30-9	—
88	SK31		深鉢	胴部	—	—	—	9	2-A	連結横位渦巻文	LRL横		30-10	—
89	SK31	27	器台	胴部	—	—	—	11	—	なし	なし	胴部を穿孔	30-11	14-1
90	SK31　F2		深鉢	胴部	(84)	—	—	11	1	X状隆帯貼り付け・沈線なし	RLR縦	第1群土器	30-12	23-5
91	SK36	44	深鉢	完形	345	286	122	8	3-B	連結縦位渦巻楕円文	RL縦	突起付	31-1	155
92	SK36　F3		深鉢	口縁部			—	8	E	楕円文＋横位押圧縄文	RL縦		32-1	—
93	SK36　F1		深鉢	口縁部	(101)	(294)	—	10	3-B	縦位刺突文	なし	平口縁	32-2	15-1
94	SK36　F1		深鉢	頸部	—	—	—	9	2-A	横位渦巻楕円文	RLR縦		32-3	15-3
95	SK36　F4		深鉢	口縁部	—	—	—	7	2-D	連結横位渦巻文	摩滅が激しく不明	波状口縁	32-4	23-9
96	SK36		深鉢	胴部	—	—	—	6	2	渦巻沈線文	LR縦		32-5	24-2
97	SK36　F3	53	深鉢	口縁部	—	—	—	6	3-B	連結縦位渦巻文	LR縦		32-6	—
98	SK36　F1		浅鉢	口縁部	(60)	—	—	6	b	なし	条線文		32-7	—
99	SK36		深鉢	胴部・底部	—	—	—	8	D	なし	RL縦		32-8	15-4
100	SK36　F1		深鉢	胴部	—	—	—	8	2	隆沈文	RL縦	炭化物付着	32-9	—
101	SK36　F3	53	深鉢	完形	69	86	91	8	E	なし	なし(ナデ調整)	手捏ね土器	32-10	15-2
102	SK36　F		浅鉢	口縁部	—	—	—	8	2-a	横位渦巻楕円文＋充塡沈線文	なし		32-11	24-7
103	SK37	34	深鉢	ほぼ完形	285	(294)	75	7	5-B	字文	RLR縦(充塡縄文)		33-1	16-1
104	SK37	34	深鉢	完形	160	(150)	51	6	5-B	地文のみ	RLR縦	波状口縁(4)	33-2	16-4
105	SK37	60	深鉢	完形	210	176	64	9	3-B	—	LR縦	波状口縁(6)	33-3	17-4
106	SK37	34	深鉢	ほぼ完形	(231)	176	56	7	5-B	地文のみ	RL縦	波状口縁(2)	33-4	16-7
107	SK37	34	深鉢	胴部	(149)	(141)	59	6	3-B	横位渦巻楕円文	RLR縦(充塡縄文)	隆帯断面山形	33-5	16-3
108	SK37		深鉢	完形	14	12	8	7	D	無文　ヘラ削り・ナデ	なし	輪積み痕	34-1	17-3
109	SK37	42	深鉢	口縁部・胴部	(149)	(552)	—	6	D	なし	RLR縦	平口縁	34-2	17-6
110	SK37		深鉢	口縁部・胴部	—	—	—	7	B	なし	RLR縦	平口縁	34-3	17-2
111	SK37		深鉢	口縁部	—	—	—	7	5-C	沈線区画文	RL縦(磨り消し)	波状口縁	34-4	—
112	SK37		深鉢	口縁部	—	—	—	8	2-A	渦巻楕円文＋横位押圧縄文	不明		34-5	—
113	SK37		深鉢	体部	—	—	—	6	5	刺突文＋沈線区画文	RLR縦(磨消し)		34-6	—
114	SK37	34	深鉢	口縁部・胴部	(186)	(202)	—	6	D	なし	RLR縦	波状口縁(4)	34-7	16-6
115	SK37		深鉢	口縁部	—	—	—	8	3-A	連結横位渦巻楕円文	RL縦	隆帯断面山形	34-8	16-5
116	SK37	34	深鉢	口縁部・胴部	(93)	(90)	—	5	3-E	—	—	有孔鍔付土器	34-9	16-2
117	SK27	64	深鉢	完形	357	216	96	7	C	地文のみ	LR縦	口縁部横帯付	35-1	19-4
118	SK37	34	深鉢	ほぼ完形	440	196	120	9	C	なし	なし	粗製土器	35-2	17-5

表6　出土土器観察表(3)

No.	出土遺構	RP番号	器種	部位	計測値(mm)				分類	文様	地文	備考	挿図	図版
					器高	口径	底径	器厚						
119	SK37	34	深鉢	ほぼ完形	370	313	98	6	C	なし	LR縦	粗製土器	35-3	17-1
120	SX21	7	深鉢	完形	234	220	84	6	2-A	横位渦巻文	口縁－RL横、胴部－RL縦	遺構間接合	36-1	20-1
121	SX21	3	深鉢	胴部・底部	245	(342)	105	5	2-A	横位渦巻沈線文	RL縦・数種の原体使用		36-2	20-5
122	SX21		深鉢	口縁部	(50)	—	—	6	A	なし	口縁－LR横　胴部－不明		36-3	—
123	SX21　F2		深鉢	口縁部	(35)	—	—	5	2-A	横位渦巻文	RL縦	赤彩	36-4	—
124	SX21	2	深鉢	胴部	(306)	(189)	—	10	A	なし	なし	粗製土器	36-5	22-9
125	SX21　F16		深鉢	注口(胴部)	(49)	—	—	7	2-A	渦巻文	RL横	小形土器	36-6	—
126	SX21　F1		台付鉢	底部	(30)	—	23	3	E	不明	LR縦	小形土器	36-7	—
127	SX21	18	深鉢	口縁部	(62)	(218)	—	6	3-A	連結横位渦巻楕円文	RL縦・横(充填縄文)	隆帯断面山形	36-8	20-3
128	SX21		深鉢	口縁部	(85)	—	—	7	3-A	連結横位渦巻文	口縁－RL横	隆帯断面山形	36-9	—
129	SX21　F2		浅鉢	口縁部	(79)	—	—	8	2-a	楕円文＋横位押圧縄文	RL縦	小形土器	36-10	—
130	SX21		深鉢	胴部	(75)	—	52	7	2	隆沈文	RL縦	小形土器	36-11	20-6
131	SX21	4	深鉢	底部欠損	(207)	220	—	6	5-C	磨り消し	LR縦(充填縄文)		37-1	21-5
132	SX21	9	浅鉢	ほぼ完形	139	266	52	4	4-b	渦巻文(退化)＋胴部条線文	—		37-2	21-8
133	SX21		浅鉢	口縁部欠損	126	(257)	46	5	4-b	胴部に条線文	—		37-3	21-6
134	SX21		深鉢	口縁部	104	—	—	7	4-D	連結縦位渦巻楕円文	LRL縦(充填縄文)	波状口縁(4)	38-1	21-2
135	SX21		深鉢	口縁部	—	—	—	9	4-D	連結縦位渦巻文(退化)	RL縦(充填縄文)	波状口縁(4)	38-2	21-1
136	SX21	12	深鉢	口縁部	—	—	—	4	3-A	連結横位渦巻楕円文	RL斜め(充填縄文)	波状口縁(4)	38-3	—
137	SX21　F1		深鉢	口縁部	(72)	—	—	7	3-D	渦巻文＋渦巻沈線文	LR横	隆帯断面山形	38-4	—
138	SX21		浅鉢	口縁部	(56)	—	—	7	4-a	連結渦巻文(退化)	—		38-5	—
139	SX21		深鉢	胴部	—	—	—	9	5-C	楕円区画沈線文＋刺突文	RL縦(充填縄文)		38-6	24-14
140	SX21　F		深鉢	胴部	—	—	—	10	5-C	楕円区画沈線文＋刺突文	LR縦(磨り消し)		38-7	—
141	SX21　F1	16	深鉢	完形	64	88	47	4	4-D	なし	LR縦	小形土器	38-8	21-7
142	SX21		浅鉢	口縁部	(93)	—	—	7	4-a	口縁部楕円文＋条線文	なし	波状口縁	38-9	—
143	SX21		浅鉢	口縁部	(119)	—	—	7	5-a	櫛目状沈線文	なし	波状口縁(4)	38-10	24-11
144	SX21　F1		浅鉢	底部	(24)	—	48	7	4-B	木葉状条線文	なし		38-11	—
145	SX21	14	深鉢	口縁部	(170)	(220)	—	7	5-B	なし	RLR縦	粗製土器	38-12	—
146	SX21		浅鉢	口縁部	(52)	—	—	7	4-B	条線文	なし	波状口縁	38-13	—
147	SX21	17	深鉢	口縁部	(112)	—	—	9	4-D	なし　ヘラ削り痕あり	なし	波状口縁	38-14	22-4
148	SX21　F1		深鉢	口縁部		—	(62)	6	4-D	条線文	なし	小形土器	38-15	22-8
149	SX21		浅鉢	口縁部	(74)	—	—	8	b	条線文	なし	胴部　赤彩	39-1	—
150	SX21		浅鉢	口縁部	(62)	(326)	—	7	5-b	条線文	なし		39-2	—
151	SX21　F1		深鉢	口縁部	(59)		—	7	6-C	なし	RLR縦		39-3	—
152	SX21	12	深鉢	口縁部	(52)	(166)	—	7	C	条線文	なし		39-4	—
153	SX21		深鉢	口縁部	(50)	(175)	—	6	b	条線文	なし		39-5	—
154	SX21　F1		深鉢	口縁部	—	168	—	7	5-D	なし	RL縦	波状口縁(4)	39-6	—
155	SX21		深鉢	口縁部	(82)	—	—	11	5-C	不明	RLR横		39-7	—
156	SX21		浅鉢	ほぼ完形	81	(187)	(72)	4	a	なし	LR縦		39-8	21-4
157	SX21		浅鉢	ほぼ完形	71	(176)	60	5	a	なし	LR縦・横		39-9	21-3
158	SX21		深鉢	口縁部	(86)	(234)	—	8	D	なし	RLR縦		3910	22-3
159	SX21　F		深鉢	口縁部	(51)	—	—	11	6-C	(充填　RL縦)	磨り消し		39-11	24-16
160	SX21　F		深鉢	口縁部	(60)	—	—	8	6-A	アルファベット文？(RL縦)	磨り消し		39-12	24-12
161	SX21		深鉢	口縁部	(84)	—	—	8	D	なし	RL横		39-13	—
162	SX21		深鉢	口縁部	(117)	—	—	8	D	なし	RL斜め	平口縁	39-14	—
163	SX21　F		浅鉢	口縁部	(99)	—	—	9	6-C	雁又文？(充填　RL横)	磨り消し	波状口縁	39-15	24-17
164	SX21　F		深鉢	口縁部	(62)	—	—	6	6-D	雁又文？(充填　RL斜め)	磨り消し		39-16	—
165	SX21　F1		深鉢	口縁部・底部	(51)	—	(144)	7	D	なし	RL横	底部　網代痕	39-17	—
166	SX21		深鉢	口縁部	(80)	—	—	6	6-D	波濤文(充填　LR横)	磨り消し		39-18	—
167	SX21　F1		深鉢	口縁部	—	(340)	—	8	6-D	波濤文(充填　RL横)	磨り消し		39-19	22-2
168	U－5	58	深鉢	口縁部・体部	291	(201)	(130)	10	2-A	横位渦巻楕円文＋刺突文	RL縦		40-1	—
169	EU8	8	深鉢	口縁部欠損	(335)	(234)	90	7	C	なし	RL縦	粗製土器	40-2	23-1
170	SP239		浅鉢	胴部	(72)	—	—	8	a	櫛目状沈線文	なし		40-3	—
171	SP218　Y		台付鉢	底部	(74)	—	—	6	E	隆沈文	LR縦		40-4	—
172	SP220　F		浅鉢	口縁部	(42)	—	—	7	B	口唇部に沈線文	なし	波状口縁(4)	40-5	—
173	SP234		深鉢	口縁部	(61)	—	—	7	B	条線文	なし	平口縁	40-6	—
174	SP234		深鉢	胴部	(28)	—	—	11	C	縦位刺突文	不明		40-7	—
175	ST2		土製品	胴部	(53)	—	—	14	—	不明	不明	漆付着	40-8	23-4
176	SP234		深鉢	胴部	(50)	—	—	8	D	不明	LR斜め		40-9	—
177	J－4		—	完形	(28)	50	30	8	E	胴部器面に圧痕	なし	台付手捏土器	40-10	23-2

表７　出土土器観察表(4)

No	出土遺構	RP番号	器種	部位	計測値(mm)				分類	文様	地文	備考	挿図	図版
					器高	口径	底径	器厚						
178	SP221　F		深鉢	胴部	(40)	—	—	12	2-D	横位渦巻沈線文	RL縦		40-11	—
179	SK22　F1		深鉢	口縁部	(34)	—	—	9	C	なし	RLR縦		—	—
180	SK22　F1		深鉢	胴部	(76)	—	—	8	C	格子状条線文	なし		—	—
181	SK23　F		深鉢	胴部	(42)	—	—	6	2-B	渦巻隆沈文	RL縦	隆帯面に施文	—	—
182	SK23　F		深鉢	胴部	(45)	—	—	8	3-B	横位渦巻楕円文	不明		—	—
183	SK23　F		深鉢	口縁部	(37)	—	—	9	A	横位渦巻隆沈文	RL縦		—	—
184	SK25　F		深鉢	口縁部	(29)	—	—	6	A	口唇部－沈線文	RL横		—	—
185	SK87		深鉢	口縁部	(77)	—	—	8	5-C	沈線区画文	LR横(磨消し)		—	—
186	SK87		深鉢	胴部	(71)	—	—	7	5-C	沈線区画文＋刺突文	RLR(磨消し)		—	—
187	SK103　F1		深鉢	胴部	(52)	—	—	11	3-A	横位渦巻文(退化)	RL縦	隆帯断面山形	—	—
188	SK103　F		深鉢	底部	(47)	—	114	14	D	なし	なし	粗製土器	—	22-7
189	SK105		深鉢	胴部	(60)	—	—	9	2-A	縦位沈線文	LR縦		—	—
190	SK105		深鉢	胴部	(37)	—	—	7	2-A	縦位沈線文	RL縦		—	—
191	SK105		深鉢	胴部	(42)	—	—	7	2-A	縦位沈線文	RL斜め		—	—
192	SK116		深鉢	胴部	(61)	—	—	10	2-A	横位渦巻楕円文＋刺突文	RL縦		—	—
193	SK116　F		深鉢	胴部	(87)	—	—	9	2-A	曲折渦巻沈線文	LR横		—	—
194	SK116		深鉢	口縁部	(87)	—	—	14	C	口縁－隆線文＋横位押圧縄文	RL縦		—	—
195	SK116　F		浅鉢	口縁部	(33)	—	—	6	b	口縁－横位渦巻沈線文	なし		—	—
196	SK117		深鉢	口縁部	(81)	—	—	7	5-C	字文	RL縦(磨消し)		—	—
197	SK117		深鉢	胴部	(114)	—	—	8	D	なし	LR斜め		—	—
198	SK117　F1		深鉢	口縁部	(38)	—	—	10	D	楕円文	RL横(充填縄文)		—	—
199	SK117　F		深鉢	胴部	(72)	—	—	10	5-C	楕円区画文＋充填刺突文	RLR縦(磨消し)		—	—
200	ST3　F1	38	浅鉢	胴部・底部	(83)	—	(59)	8	b	櫛目状沈線文	なし		—	—
201	ST7　EL13	66	深鉢	口縁部・胴部	(230)	(272)	—	6	6-D	なし	RL縦	EL13埋設土器	—	12-4
202	ST6　EL12	32	深鉢	胴部	(214)	(223)	—	8	B	不明(充填縄文)	RL縦	EL12埋設土器	—	12-3
203	ST7　EL13	33	深鉢	口縁部・胴部	(172)	(284)	—	6	6-D	なし	Rl横	EL13埋設土器	—	12-6
204	SX21	22	深鉢	口縁部・頚部	(74)	(160)	—	4	2-A	横位渦巻沈線文	RL縦	小形土器	—	20-4
205	SK25	57	深鉢	胴部・底部	(149)	—	140	11	2-A	渦巻隆沈文	LR縦＋RLR縦		—	18-2
206	SX21		深鉢	胴部	(116)	—	—	7	6-D	雁又文	RL横(充填縄文)		—	—
207	Q－17		深鉢	口縁部・胴部	(123)	—	—	10	2-B	曲流渦巻隆沈文	LR縦	波状口縁	—	—
208	SX21		深鉢	底部	(43)	—	(74)	6	D	なし	LR縦		—	—
209	SX21		浅鉢	口縁部	(62)	—	—	9	4-b	口縁－横位渦巻沈線文	なし		—	—
210	L－19		浅鉢	底部	(33)	—	53	12	4-b	木葉状条線文	なし		—	—
211	SX21		深鉢	口縁部	(57)	(326)	—	7	3-A	横位渦巻楕円文	LR横(充填縄文)	隆帯断面山形	—	—
212	SX21		深鉢	口縁部	(96)	—	—	7	3-A	横位渦巻文	不明	隆帯断面山形	—	—
213	Q－17		深鉢	口縁部	(71)	—	—	6	4-A	渦巻楕円文(退化)	不明		—	—
214	SX21　F1		深鉢	口縁部	(38)	—	—	7	2-A	連結横位渦巻隆沈文	口縁－LR横		—	—
215	L－19		浅鉢	口縁部	(42)	—	—	11	4-b	横位渦巻沈線文(退化)	不明		—	—
216	ST4		浅鉢	口縁部	(145)	(272)	—	9	C	条線文＋櫛目状沈線文	なし		—	22-1
217	U－2～V－2		深鉢	口縁部	(70)	—	—	8	3-B	渦巻楕円文	LR縦	隆帯断面山形	—	—
218	R－39		深鉢	胴部	(122)	—	—	7	4-B	縦位渦巻楕円文(退化)	RL縦(充填縄文)		—	—
219	U－3		深鉢	口縁部	(59)	—	—	6	6-C	波濤文	LR縦	稜状微隆起線	—	—
220	R－18		深鉢	底部	(39)	—	60	10	D	なし	LR縦		—	22-6
221	U－3			底部	(26)	—	47	6	D	なし	RL縦		—	—
222	S－17		浅鉢	口縁部	(39)	—	—	9	b	条線文	なし	平口縁	—	—
223	SX21	20	深鉢	口縁部	(51)	—	—	5	2-A	渦巻楕円隆沈文	RL横		—	—
224	第2トレンチ北		深鉢	口縁部	(82)	—	—	8	C	口縁－横位隆線文	RL縦		—	—
225	第1トレンチ北		浅鉢	底部	(28)	—	46	6	b	条線文	なし		—	—
226	第1トレンチ北		浅鉢	胴部・底部	(29)	—	(42)	6	b	条線文	なし		—	—
227	S－4		浅鉢	口縁部	(52)	—	—	5	4-b	横位渦巻楕円文(退化)	条線文		—	—
228	第3トレンチ北		深鉢	口縁部	(82)	—	—	9	C	口縁－横位隆線文	LRL横		—	—
229	第3トレンチ北		浅鉢	口縁部	(63)	—	—	7	b	横位渦巻沈線文	不明		—	—
230	第3トレンチ北		深鉢	口縁部	(99)	—	—	13	2-B	連結横位渦巻隆沈文	不明		—	—
231	第3トレンチ北		浅鉢	口縁部	(55)	—	—	7	4-b	楕円文	条線文		—	—
232	第3トレンチ北		浅鉢	胴部	(33)	—	—	8	b	櫛目状沈線文	なし		—	—
233	第3トレンチ北		深鉢	口縁部	(76)	—	—	9	7-C	玉抱き文	LR横(充填縄文)	稜状微隆起線	—	—
234	第3トレンチ北		浅鉢	口縁部	(46)	—	—	6	b	条線文	なし		—	—
235	O－19		深鉢	胴部	(99)	—	—	9	2	渦巻沈線文	RL縦	器形不明	—	—
236	H－17		深鉢	胴部	(78)	—	—	9	2	渦巻楕円沈線文	RL縦	器形不明	—	—

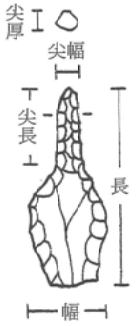


第57図　石鏃模式図

属性表注
1　大きさ　　長、幅は第36図に示したように、その全長、ならびに最大幅である。厚さは最大厚を測定した。折損品については（　）を付し残存値を示した。単位は㎜である。
2　抉深・基長　　第36図に示したように、抉深は無茎の石鏃の抉りの深さ、基長は最大幅の位置より下位の長さを測定した。前者には一、後者には十を付して示した。単位は㎜である。
3　最大値　　最大幅の位置をつぎのように示した。尖頭部にあるものをA、基部、脚部にあるものをB、また、下端にある場合は'を付した。
4　側縁　　側縁の形態を直線状のａ。凸弧のｂ、凹弧のｃ、「く」の字状に曲るｄに分けて示した。
5　折損部位　　尖頭部先端をａ、左の脚部（図左の）をｂ、右をｃ、円基部分をｄとして示した。

表８　石鏃属性表

No.	出　土　区	石材	計測値(㎜)			重量(g)	抉深(基長)	最大幅の位置	側縁		残存部位	分類	挿図	図版
			長さ	幅	厚さ				左	右				
1	F−6	頁岩	30	16	3	1.48	-4	B'	b	b	−	II	41-2	29-2
2	SK35	頁岩	23	14	2	0.8	-2	B	b	b	−	II	41-3	29-3
3	SP215　F	頁岩	25	13	3	0.8	-6	B	d	d	−	II	41-4	29-4
4	SP215	頁岩	22	17	2	0.7	-6	B	a	a	−	II	41-5	29-5
5	Q−5	鉄石英	25	13.5	6	1.38	6	B	d	d	−	II	41-6	29-6
6	EL15	頁岩	30	15	3	2.2	14	A	b	b	d	III	41-7	29-7
7	SX21	頁岩	31	17	4	1.9	10	B	c	b	d	IV	41-8	29-8
8	R−4	頁岩	28	16	5	2.2	3	B	a	b	−	III	41-1	29-1
9	SX21　F2	頁岩	22	16	4	1.3	8	B	b	b	d	IV	41-9	29-9

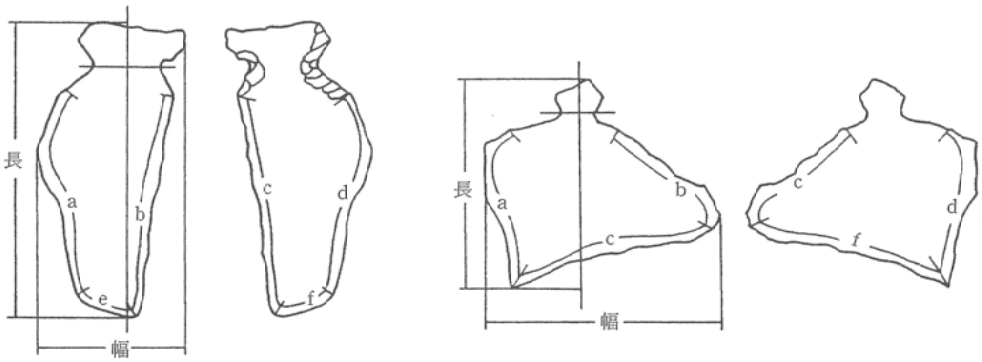


第58図　石錐模式図

属性表注
1　大きさ　　長、幅、厚は全長、最大幅、最大厚を記し、折損品には（　）を付して残存値を示した。
2　尖頭部　　長は尖頭部の長さ、幅は尖頭部の中間位置における幅、厚は先端部から５㎜の位置で計測した。また断面形もこの位置で観察し、折損するものは折れ口で観察した。II類の尖頭部の長さは先端に向かって収束する変曲の点位置から先端までを計測した。同じくIII類についても、I類、II類に準じたが、なお、不明瞭なものについては裏面の調整加工のある部分から先端までを計算した。
3　尖頭部加工　　先端部を下方に向け、素材の背面側を上に置いた時の右側をａ、左側をｂ、裏面の右側をｃ、左側をｄとした。従ってａとｄ、ｂとｃで縁辺を形成することになる。○印のあるものが加工のあるものである。

表９　石錐属性表

No.	出　土　区	石材	計測値(㎜)			重量(g)	尖　頭　部				尖頭部加工				折損	分類	挿図	図版
			長さ	幅	厚さ		長さ	幅	厚さ	断面形	a	b	c	d				
1	ST1	頁岩	87	49	21	62.61	39	23	11	三角形	○	○	○	○	先端	I-B	41-10	−
2	SK36　F1	頁岩	66	48	14	30.43	24	27	6	凸レンズ形	○	○	○	○		I-B	41-11	−
3	SK35	頁岩	41	26	6	4.46	19	6	3	台形	○	○				II-A	41-12	−
4	SX21	頁岩	43	20	9	6.56	8	4	5	三角形	○	○				II-B	41-13	−
5	ST1　F1	頁岩	77	37	10	20.19	14	8	5	三角形	○	○	○			I-B	41-14	25-10
6	SK101　F1～2	頁岩	47	29	10	11.35	18	11	6	三角形	○	○			先端	II-A	41-15	25-11
7	SK35	頁岩	41	21	6	4.69	12	7	3	三角形	○	○		○	先端	II-A	41-16	−
8	第3トレンチ北	頁岩	53	22	9	9.55	17	10	5	凸レンズ形	○	○	○	○	先端	II-A	41-17	25-12
9	第2トレンチ北	頁岩	49	30	8	8.32	17	11	7	ひし形	○		○		基部	II-B	41-18	25-13
10	SK36　F1	頁岩	55	34	7	11.4	18	12	4	凸レンズ形	○	○	○	○		II-B	41-19	25-14
11	第3トレンチ北	頁岩	75	42	18	50.5	26	11	9	三角形	○	○			先端	I-A	42-1	25-15
12	第3トレンチ北	頁岩	81	53.5	11	60	10	7	9	ひし形	○		○			I-A	42-2	−
13	ST3	頁岩	76	71	21	95	14	9	7	三角形	○	○	○			I-A	42-3	−
14	第2トレンチ北	頁岩	47.5	62	12	30	15	14	8	三角形	○	○		○	先端	II-B	42-4	−



第59図　石匙模式図

属性表注

1　大きさ　　第59図に示したように、長は左右のノッチの最奥部を結んだ線に垂線を引き、上端、下端の最も突出する位置から、この垂線に直交する線を引きその距離を計測した。幅はこの垂線を軸として、左、右の最も突出する位置から、垂線に平行な線を引き、その距離を計測した。したがって、長、幅ともみかけの大きさとなる。厚は最大厚をとった。

2　加工部位と種類　　第59図のように素材の背面を上にして、つまみ部を上方に置いた場合、表面の左側をａ、右側をｂ、裏面の左側をｃ、右側をｄ、また、表面の下縁をｅ、その背面をｆとし、それぞれの部位の加工状況を示した。先端の尖るものは、ｅ、ｆ欄に×を入れ、加工のないものは一とした。加工の種類は１：通常剝離　２：フルーティング様剝離　３：奥行２㎜前後の微細な剝離、の三種類に分け、縁辺の全長にわたるものについてはＡ、縁辺を三等分した場合、その1/3以上が加工されているものをＢ、1/3未満のものをＣとして、その組み合わせで表記した。また一縁辺が異なる種類の剝離で加工されているものは、上部から順に、３・１・Ａのように記した。なお、加工が素材の中央部に達する面的な加工が施されているものは、数字を○で囲み、縁辺全体が加工されているが、折損しているものは'を付した。

3　縁辺の状況と平均刃角　　縁辺が直線状になるものをＡ、凸弧を描くものをＢ、凹弧を描くものをＣとし、たとえば第38図のａ・ｂのように凸弧を二つもつものについては、Ｂ・Ｂというように上部から順に表記した。また刃角についてはａ・ｄ、ｂ・ｃ、ｅ・ｆによって構成される各縁辺について、加工の有無を問わずに２㎝に１ヶ所ずつ、５度ごとにキザミを入れたボール紙を使って計測しその平均値を記した。

表10　石匙属性表

No.	出土区	石材	計測値(㎜)			重量(g)	加工部位と種類						縁辺状況と平均刃角						折損	分類	挿図	図版
			長さ	幅	厚さ		a	b	c	d	e	f	a・d	刃角	b・c	刃角	e・f	刃角				
1	第3トレンチ北	頁岩	77	30	9	20.6	①A	①A	—	—	1A	—	A・B	33.8	B	40.5	A	45		Ⅰ-A	43-3	26-1
2	SX21　F1	頁岩	65	27	10	22.2	1・3A	1・2A	1・3B	1C	×	×	B	78.8	A	77.5	×	70		Ⅲ-B	43-4	26-2
3	SK101	頁岩	58	30	7	13.1	①A	1・3A	1B	1B	×	×	B・A	50	A	47.5	×	60		Ⅰ-B	43-5	26-3
4	第1トレンチ北	頁岩	64	35	5	9	3C	3C	—	1C	×	×	B・B	27.5	B	33.8	×	45		Ⅰ-B	43-6	—
5	SX21　F1	頁岩	70	65	20	65.2	3C	3C	—	—	1・3B	—	A・B	68.8	B	80.8	B	82.5	末端	Ⅱ-C	43-8	—
6	SK31	頁岩	102	34	16	53.1	1A	1B	—	1C	1・3A	1B	B・C	77.5	A	77.5	A	65	末端	Ⅱ-D	43-9	—
7	ST1　F	頁岩	48	38	5	7.5	1A	1A	①3A	①3A	×	×	A	45	C・C	51.3	×	70	側縁右	Ⅲ-B	43-7	26-4
8	SX21　F	頁岩	-48	24	8.5	7.4	3・1B	3B	3B	3C	×	×	A	37.5	A	31.3	×	41.7	つまみ	Ⅰ-B	—	—

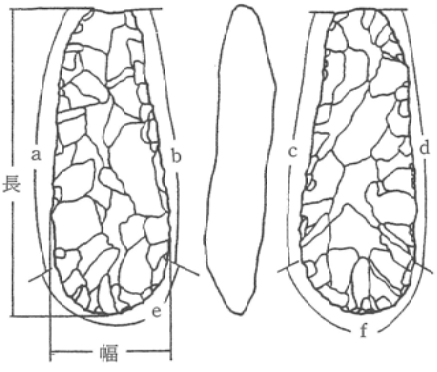
属性表注

1　大きさ　　第60図に示したように、石器の軸線を基準として、その全長を長さ、みかけの幅を幅、最大厚を厚の欄に記した。

2　加工部位と種類　　原則として素材の主要剝離面側を下に、基部側を上位に置いた時の左側縁をａ、右側縁をｂ、末端をｅ、この状態から正位で裏返しした時の左側縁をｃ、右側縁をｄ、末端をｆと区分した。加工の種類は石匙と同じである。なお、完全に両面加工となっていて、素材の背面、主要剝離面の違いがわからないものについては、末端にフルーティングなど入念な加工が施されている方を表面とした。末端の形状でもなお、表・裏の区別のつかないものは、任意に表面側を決定した。

3　縁辺の状況と平均刃角　　縁辺の状況については石匙と同様であるが、平均刃角は調整加工のある部分を石匙に準じて記した。

4　残存部位　　完形品は空欄、上部が残存しているものはＡ、中央部分資料はＢ、末端部資料はＣと記した。



第60図　石錐模式図

表11　石篦属性表

No.	出土区	石材	計測値(mm)			重量(g)	加工部位と種類						縁辺状況と平均刃角						残存部位	分類	挿図	図版
			長さ	幅	厚さ		a	b	c	d	e	f	a・d	刃角	b・c	刃角	e・f	刃角				
1	SK45	頁岩	191	50	37	285	1B	1B	1・3A	1A	1A	1A	A	75	A	76.8	B	72.3		II-B	42-5	26-3
2	SX21	頁岩	127	68	18	116	1・3A	1・3B	1C	1・3A	1・3	1B	B	66.3	B	63.8	A	82.5		III-B	42-6	26-4
3	EL14	頁岩	108	37	14	62	1A	1・3A	1・3A	2・3A	1A	—	B	62.5	B	57.5	A	55		II-A	42-7	26-5
4	SX21	頁岩	80	36	12	41	①3A	①3A	①A	①3A	1A	1・3A	A	55	A	56.3	B	65	A	I-B	42-8	26-9
5	SX21　F1	頁岩	60	34	16	30.7	3・1A	1A	1C	1C			A	51.3	A	57.5	—	80		I-C	—	—
6	SX21　F1	頁岩	82	46	18.5	72.8	1C	①3A	1・2A	2・1B	3C'	3C'	A	71.3	C	81.3	A	109		I-A	—	—
7	V−3	頁岩	67	57	17	59.9	1・3B	1・3B	—	—	3C	3C	A	57.5	A	67.5	A	35	AB	III-A	—	—
8	SK36　F1	頁岩	26	21	6	3・4	②3A	②A	1・3A	1・2A			A	62.5	A	61.3	—	75		I-C	—	—
9	SX21　F	頁岩	27	43	13	13.4	3C	3C	1C	1B			B	56.3	A	46.3	—	73	A	II-C	—	—
10	SX21　F1	頁岩	47	35	14	21.9	1C	1C	3B	3B			A	48.8	A	46.3	—	83.3	AB	II-C	—	—
11	SK32　F	頁岩	53.5	36	10	20	3C	1・3A	1A	—			A	42.5	A	46.3	—	70	A	II-C	—	—
12	ST4　F	頁岩	42	35.5	8	12.1	3B	3C	1C	—			A	37.5	A	37.5	—	110	A	II-C	—	—

表12　二次加工のある剝片属性表(1)

No.	出土区	石材	計測値(mm)			重量(g)	加工部位と種類						縁辺状況と平均刃角						残存部位	分類	挿図	図版
			長さ	幅	厚さ		a	b	c	d	e	f	a・d	刃角	b・c	刃角	e・f	刃角				
1	第1トレンチ北	頁岩	42	80.5	15	44	3C	3・1B	2C	3C	×	×	B・A	60	B	50	×	36.3		II-A	45-1	—
2	SX21　F2	頁岩	47	2	9	8	2・3B	2・3A	—	—	×	×	A	42.5	A	53.8	×	42.5		I-B	45-2	26-10
3	第1トレンチ北	頁岩	70	48	16	40.5	3C	—	3B'	1・3C	3A	3B	B	62.5	A	52.5	B	38.8		II-A	45-3	—
4	U−3	頁岩	52	33	9	13.5	②3A	1・2B	1C	1B	×	×	B	42.5	B	53.8	×	42.5		I-B	45-4	26-11
5	SK36　F3	頁岩	32	60	15	29.7	1A	—	—	—	1・3B	—	A	47.5	A	85.5	C	55		IV-B	45-5	—
6	第2トレンチ	頁岩	57	32	11	23	1B	1・3A	1C	1C	3C	3C	A	85.5	B	50	C・C	32.5		II-A	45-6	26-9
7	第3トレンチ北	頁岩	63	68	16	33.3	1・3A	1・3A	3A	3C	1・2A	—	C	58.6	C	52.5	B	58.8		V-B	45-7	26-13
8	SX21	頁岩	83	40	18	32.65	2・3C	1・3B	3C	3C	1・3B	1・3C	A	66.3	A	56.3	C	81.5		V-B	45-8	26-14
9	SK116　F	頁岩	39	27	9	8	2・3A	3C	1C	—	×	×	B	50	B・C	67.5	×	61.7		I-A	45-9	—
10	SP234	頁岩	65	32	5	8.95	1・3B	3C	—	1C	×	×	B	47.5	A・C	42.5	×	65		II-C	44-1	—
11	SX104	頁岩	61	70	16	48.4	1B	—	—	—	1・3B	1B	A	68.8	B	55	C・C	65		V-B	44-2	—
12	SK61	頁岩	69	28	13	23.7	1C	—	—	3C	×	×	B	51.3	B	67	×	30		II-C	44-3	—
13	第1トレンチ北	頁岩	37	22	7	5.8	①A	①A	1C	②3C	3C	—	B	69.5	A・C	57.5	B	65		I-B	44-4	—
14	Q−17	頁岩	58	23	5	12.3	1・3A	3C	—	—	1・3A	—	B	65	A	52.5	B	55		II-B	44-5	—
15	SK36　F	頁岩	81	49	13	51.6	3A	1・3A	3C	1・3C	3B	3B	C・A	65	A	62.5	B	60		II-B	44-6	26-5
16	SX21	頁岩	40	50	12	22.5	1・3B	—	—	—	2・3A	—	A	38.8	A・A	73.8	B	50		IV-A	44-7	26-7
17	EL15	頁岩	69.7	69	18	77	3C	2・3A	—	—	1A	3・1B	B	75	A	46.3	B	56.7		II-B	44-8	26-6
18	R−3	頁岩	42	38	10	15.8	3C	2・3A	—	—	×	×	A	58.8	A	42.5	×	60		I-B	44-9	26-12
19	SX21	頁岩	45	41	8	13.7	1・3A	1・3A	3B	—	1・3A	1・3B	B	52.5	A	53.8	B	55		I-B	44-10	26-8
20	SK45	頁岩	68.5	58.5	15	40.9	3C	1・3A	—	—	×	×	B	45	A	33.8	×	68.3		V-A	—	—
21	第3トレンチ北	頁岩	62.5	37	18.5	35.6	3B	1C	1A	1・3B	×	×	A	73.8	B	57.5	×	85.5		II-C	—	—
22	EL15　F	頁岩	42	70	22.5	47.8	3B	3B	1B	1・3B	×	×	A	64.3	C・A	55	×	53.3		V-A	—	—
23	SK27	頁岩	53	49	24	57.7	1A	1・3A	3B	1B	1B	1・3B	A	65	B	67.5	A・A	60		V-B	—	—
24	第3トレンチ北	頁岩	64	47	17	40.5	3C	—	1C	1・3B	—	1・3B	A	57.8	A	69.3	B	70		V-B	—	—
25	SK32　F	頁岩	70	116	22	126.9	1・3B	—	—	3B	3B	3B	C・C	75	B・A	78.6	A	48.8		VI-B	—	—
26	SX21　F1	頁岩	56	48.5	9	19.8	1C	—	1C	3B	3C	3C	A	83.3	B	45	C	16.3		II-A	—	—
27	SX21　F	頁岩	70	36	12.5	23.6	2・3B	—	3C'	—	1A'	—	B	41.3	A	41.3	A	50		II-C	—	—
28	S−30	頁岩	52.5	52	7.5	17.9	1・3A	3B	3C	3B	3A	3B	C	82.6	C・A	36.3	B	25		V-B	—	—
29	SX21　F2	頁岩	70.5	25	16	28.9	1・3B	—	—	1B	—	—	A	71.3	A	58.8	B	81.7		II-A	—	—
30	SX21　F1	頁岩	93	64.5	12.5	73.7	1・3B	3C	—	3C	×	×	B	46.3	B	42.5	×	71.3		VI-A	—	—
31	ST4　F	頁岩	76	42	13	46.5	—	2・3B	3B	—	×	×	A	45	B	68.8	×	80		II-A	—	—
32	SK36　F2	頁岩	72	50	10	26.8	3・2C	1・3A	1C	—	1B	3C	A	28.8	B・C	18.8	A	42.3		II-A	—	—
33	SX21　F	頁岩	77.5	33	9.5	16.5	3C	—	3C	—	×	×	B	50	A	41.3	×	57.5		II-A	—	—
34	X−0	頁岩	72	40	9.5	27.3	1・3C	1・3B	—	—	×	×	B	45	C・A	36.3	×	61.5		II-C	—	—
35	第3トレンチ北	頁岩	47.5	45	9	1	—	—	—	3A	1・3A	1・3A	A	63.8	A	60	B	23.3		I-A	—	—
36	第3トレンチ北	頁岩	67.5	40	9	18.9	3C	3B	3C	—	3B	—	A	31.3	A	31.3	A	8.3		II-A	—	—
37	S−16	頁岩	45.5	44	15	27.9	3B	1・3B	—	3C	1・3A	—	B	56.3	B	60	C	60		I-B	—	—
38	第3トレンチ北	頁岩	64	53	6	23.4	1A	1B	1・3B	1B	1A	—	B	37.5	B・A	35	B	47.5		II-B	—	—
39	第3トレンチ北	頁岩	83	38	9	25.2	3B	—	—	3C	—	1C	B	30	A	51.3	B	37.5		II-C	—	—
40	SK45	頁岩	59	56	9	29.7	1・3B	—	1C	—	—	—	A	28.8	A	65	C・C	30		II-C	—	—
41	第3トレンチ北	頁岩	80	42	15	47.7	1C	—	—	1・2C	×	×	B	58.8	C	53.8	×	77.5		II-A	—	—
42	第3トレンチ北	頁岩	55.5	47	9.5	22.9	3B	—	2・3A	3B	3A'	3B	B	35	B	32.5	C	75		II-C	—	—
43	X−0	頁岩	76	37	9	24	3C	3C	3C	—	3C	—	A	45	B・C	35	A	75		II-C	—	—
44	ST1　F1	頁岩	60.5	41	8.5	31.1	—	—	—	—	3A	—	A	63	A	27.5	B	63.3		V-A	—	—
45	EL15	頁岩	55	67	19.5	55.1	—	1B	—	—	3B	3C	A	54.3	A	60	B	48.8		V-A	—	—
46	SX21　F1	頁岩	44	25.5	9.5	8.5	1・3A	1・2A	①B	3B	×	×	B	57.5	A	45	×	55		I-A	—	—
47	U−3	頁岩	61	30.5	8.5	14.7	3A	—	—	3B	—	—	C・B	60	A	41.3	—	66.7	A.B	II-A	—	—
48	SX21　F1	頁岩	32	27	3・5	4.5	3C	3C	3C	—	×	×	B	75	A・C	62.5	×	60		I-B	—	—
49	SK27　F	頁岩	40	23.5	10	7.1	3C	—	1B	A3	①3A	3C	A	58.8	A・C	47.5	B	77.5		I-C	—	—
50	SX21　F1	頁岩	32.5	40.5	9	10.7	3B	②3A	—	1・3A	—	—	B	35	A	48.8	B	82.5		IV-B	—	—

表13　二次加工のある剝片属性表(2)

No.	出土区	石材	計測値(mm)			重量(g)	加工部位と種類						縁辺状況と平均刃角						残存部位	分類	挿図	図版
			長さ	幅	厚さ		a	b	c	d	e	f	a・d	刃角	b・c	刃角	e・f	刃角				
51	第3トレンチ北	頁岩	52	50	8	19.9	3C	1C	—	3C	3C	—	B	32.5	C	47.5	B	25		V-C	—	—
52	第3トレンチ北	頁岩	42	33	10.5	13.3	—	3B	1・2B	—	—	—	B・B	53.8	B	46.3	—	85		I-C	—	—
53	第3トレンチ北	頁岩	58	37	7.5	11.8	1・3A	1C	1C	1C	3A	—	A	37.5	C・C	33.8	B	37.5		II-A	—	—
54	C−27	頁岩	49	65.5	10	31.8	1・3B	3C	1C	1C	—	—	A	48.8	C・A	26.3	—	86.7	A	IV-C	—	—
55	EL15	頁岩	82	44	15	37	1・3A	1・3B	1C	1C	1・3A	3B	C・A	45	A	57.5	A	57.5		II-B	—	—
56	SX21　F1	頁岩	38	44.5	8.5	13.9	—	2・3B	3C	—	2・3C	—	C	71.3	B	51.3	B	42.5		IV-A	—	—
57	573	頁岩	80	62	16.5	54.8	①3A	—	—	1C	×	×	A・A	38.8	A・B	53.8	×	45		II-A	—	—
58	SX21　F1	頁岩	64.5	55.5	12	38.6	1・3A	1・3B	①B	1B	1・3A	1C	A	46.3	A・C	60	A	62.5		II-B	—	—
59	SX21	頁岩	85	59	18	76.3	1B	1・3A	3B	1C	—	—	A	62.5	C・A	47.5	—	30	A	VI-C	—	—
60	第3トレンチ北	頁岩	63	41	9	29.1	1・3C	2・3A	—	1・2C	—	—	A	71.3	A	37.5	—	30	A.B	II-A	—	—
61	ST4　F	頁岩	60	41	7	17.4	3A	—	—	3C	3C	—	A	41.3	A	38.8	C	57.5		II-A	—	—
62	SK36　F3	頁岩	81.5	40	10	23.6	3C	2B	—	—	×	×	B・C	31.3	A	36.3	×	24		II-A	—	—
63	B−24	頁岩	45	74.5	16	53.7	1・3B	—	—	—	3A	—	A	55	A	50	A	70		IV-B	—	—
64	J−8	頁岩	49.5	87.5	17	72.7	—	3B	—	—	1・3A	3B	B	33.3	B	46.7	B	41.7		V-C	—	—
65	SX104　F1	頁岩	37	15.5	6.5	3	3A	1・3B	1B	3B	—	—	A・B	63.3	B・B	43.3	A	85		I-B	—	—
66	第3トレンチ北	頁岩	49	51	9	26.9	—	1C	3C	1・3A	—	—	C・A	40	B	76.7	A	41.6		V-B	—	—
67	SX101　F1	頁岩	70	48	21	86.6	1C	1・3B	—	—	1・3A	—	A・A	83.3	A	73.8	B・A	63.3		II-C	—	—
68	SK31　F3	頁岩	50	56	21.5	72.4	—	—	—	3C	—	1・3A	B	67.5	A	80	A	78.3		V-C	—	—
69	SX104　F1	頁岩	83	59	8	32.4	1・2A	2・3A	3C	1C	—	—	B・B	33.8	A・B	35	A	100	A.B	II-B	—	—
70	SK101　F1	頁岩	74.5	40	11	31.3	1・3A	3B	—	1B	×	×	B	53.8	B	80	×	35		II-B	—	—

表14　石核計測表

No.	出土区	計測値(mm)			重量(g)	挿図	図版
		長さ	幅	厚さ			
1	SK36　F3	129	76	48	600	48-1	—
2	SK101　F1〜F2	95	119	64	790	48-2	—
3	SX21	238	172	84	3210	46-1	27-1
4	ST4　F	85	68	55	450	47-2	—
5	SK31　F15〜F16	71	83	63	570	48-3	27-2
6	SK31　F3	120	66	64	560	46-2	—
7	SX21	125	88	61	620	47-1	—
8	SX21　F2	108	87	45	410	47-3	—
9	第3トレンチ北	89	68.5	37	250	—	—

表15　石皿計測表

No.	出土区	計測値(mm)			重量(g)	分類	挿図	図版
		長さ	幅	厚さ				
1	ST1	208	293	49	5900	III	50-2	28-12
2	ST1	157	122	24	1200	II	50-1	—
3	ST6	148	182	91	3600	I	49-2	—
4	SX21　F1	143	185	46.5	2100	IV	49-1	—
5	S−16	67	69.5	27	153.5	IV	51-2	—
6	SX21　F1	313	296	86	10700	I	51-1	28-13
7	X−0	225	218	70	5100	I	—	—
8	SX21	165	90	51	1200	IV	—	—
9	SX21　(H-18)	173	121	35	1400	III	—	—
10	SX21	202	109	91	3300	I	—	—
11	SX21　(F-14)	221	178	76	4600	I	—	—

表16　砥石計測表

No.	出土区	計測値(mm)			重量(g)	分類	挿図	図版
		長さ	幅	厚さ				
1	SK101	196.5	115	57	852	I	52-5	28-1
2	SX21　F　(F-17)	82	58	54	142.7	I	52-1	—
3	SK33　F1	92	71	48	228	I	52-3	28-2
4	ST4　F　(R〜S-2)	57.2	58	30.5	130	I	52-4	—
5	SX21　(Q-16)	53	47	19	27.8	I	52-6	—
6	SX21　(Q-18)	68	96	26	125.8	I	52-2	—
7	SX21　(R-18)	100	99	44	276.1	I	52-7	—
8	SX21　F1　(L-20)	112	41	33	95.6	I	53-2	—
9	SX21　(K-19)	152	65	54	599	II	53-3	—
10	SX21　F1　(Q-19)	118.5	95	50	795	II	53-1	—
11	SX21	81	44	43	150	III	53-4	—
12	SX21　F　(K-13)	71	56	28	163	III	53-5	—
13	SX21　(L-13)	75	41	30	109	III	53-6	—
14	SX21	62	24	14	30	III	53-7	—
15	SX21　F1　(K-18)	97	64	56	469.9	II	—	—
16	1041	108	91	63	651	II	—	—
17	SX21　F1　(G-17)	102	82	69	608	II	—	—
18	SX21　(Q-18)	196	51.5	27	139.9	III	—	—
19	SX21　(G-18)	106	63	52	425.7	III	—	—
20	SX21　(R-18)	84	65	36	208.9	III	—	—
21	SX101　F3	55	67	10	20.7	III	—	—
22	T−2	103	43	24	50	III	—	—

表17　敲打痕のある礫器計測表

No.	出　土　区	計測値(mm)			重量(g)	分類	挿図	図版
		長さ	幅	厚さ				
1	SK32	140	86	46	826	III	55-1	—
2	ST1	141	77	50	868	III	55-2	—
3	SX21 (W-16)	153	47	36	385	VI	55-6	28-11
4	SX21 (H-19)	131	76	52	710	III	55-5	—
5	SX21 (H-17)	104	72	66	498	II	55-4	—
6	L−21	121	34	18	88	VI	55-8	28-9
7	第3トレンチ北	151	43	23	218	VI	55-7	28-10
8	SK35　F1	223	51	30	308.3	V	55-3	—
9	SX21 (F-16)	107	81.5	58	652	II	—	—
10	第3トレンチ北	132	40	18	134	VI	—	—
11	SX21 (L-19)	92	58	43	365	IV	—	—
12	SX21 (B-15)	91	71	48	454	II	—	—
13	SX21 (J-20)	73.5	63.5	48	366	II	—	—
14	SX21	66	55	53	248	II	—	—
15	SX21 (J-20)	75.5	62	49	280	II	—	—
16	SX21 (B-13)	105	68	57	526	IV	—	—
17	SX21 (O-16)	104	78	56	563	IV	—	—
18	SX21 (D-14)	69.5	63.5	32	169	II	—	—
19	SX21 (K-20)	52	45.5	29	84.3	II	—	—
20	SX21 (D-14)	85	84.5	42	472	II	—	—
21	SX21 (I-18)	138	120	86	189	I	—	—
22	SX21	134.5	38	26	138.1	VI	—	—
23	SX104	152.5	67.5	46	785	IV	—	—
24	SX104	89	72	44	373	II	—	—
25	SX104	99	74.5	58	728	II	—	—
26	SK101	99.5	78	54	816	II	—	—
27	SK32	123	68	55	863	IV	—	—
28	SX21　F1	165	52.5	37	440	V	—	—
29	D−35	(88.5)	45.5	12	70	VI	—	—

表18　凹石計測表

No.	出　土　区	計測値(mm)			重量(g)	分類	挿図	図版
		長さ	幅	厚さ				
1	SK31　F2	76	77	50	480	I-B	54-1	—
2	SX21　F1	109	79	45.3	615	I-B	54-3	—
3	U−4	165	63	39	478	I-B	54-2	28-3
4	SX21　F1 (Q-21)	97	80	42	410	I-B	54-5	—
5	SX21　F1 (F-16)	129	73	34.7	460	I-B	54-4	28-4
6	SX21　F1 (J-14)	108	87	52	530	I-B	54-6	28-5
7	SX21　F1 (H-19)	181	119	72	1610	II-A	—	—
8	SX21　F1 (Q-19)	153	76.5	47	1020	II-B	—	—
9	SK101	128	70	46	585	II-B	—	—
10	P−4	99	84	52	828	II-B	—	—
11	SX21 (P-18)	134	105	54	1123	II-A	—	—
12	SX21	114	86	63	798	II-B	—	—
13	SX21 (K-19)	103	63.5	37	298	II-B	—	—
14	SX21 (J-20)	73	60.5	33	156	II-C	—	—
15	SX21 (J-14)	99.5	102	52	891	II-B	—	—

表19　磨石計測表

No.	出　土　区	計測値(mm)			重量(g)	分類	挿図	図版
		長さ	幅	厚さ				
1	SK32	139	64.5	50	850	II	56-3	—
2	SK31	92	56	32	221	II	56-6	—
3	X−0	147	106	78	1450	I	56-1	—
4	SK31	41	31	21	22.9	III	56-7	—
5	SX104	102	81	46	710	I	56-2	28-8
6	ST4	69	62.5	39	536.7	I	56-4	28-7
7	SX21	62.5	25	22	43.7	III	56-8	—
8	SX21	63	24	22	194.1	I	56-5	28-6
9	SK31	72.5	59.5	4	182.8	III	—	—
10	SK31	70	64.5	34	187.3	II	—	—
11	SK31	71	61	47	247	II	—	—
12	SK31	100	57	29	255.1	II	—	—
13	SK31	53	55	34	136.1	III	—	—
14	SK31	66.5	52	36	176.1	III	—	—
15	SK31	65.5	52.5	23	120.1	III	—	—
16	SK31	59.5	44.5	37	115.1	III	—	—
17	SK31	43.5	39	26	50.3	III	—	—
18	SK31	156	116	71	1250	I	—	—
19	SK31	79	77	57	419.4	II	—	—
20	SK31	71	64.5	51	238.6	II	—	—
21	SK31	52	31	23	42.3	II	—	—
22	SK101	91	84.5	58	860	II	—	—
23	SK36	114	81	45	660	I	—	—
24	SK104	75	53	29	183	III	—	—
25	SX21 (E-14)	123.5	69	45	710	II	—	—
26	SX21 (A-18)	97	86	45	720	II	—	—
27	SX21	118	73.5	39	580	II	—	—
28	SX21	98	85	69	960	II	—	—
29	S−16	97	95	45	930	II	—	—
30	第1トレンチ北	99	86	51	680	II	—	—
31	第1トレンチ北	59	52	33	116.3	III	—	—
32	G−18	65	55	45	205.4	III	—	—
33	第1トレンチ北	64	56	37	155.9	III	—	—
34	第1トレンチ北	37	28	22	29	III	—	—
35	SX21	120	92	51	880	II	—	—
36	SX21	135	61	51	930	II	—	—
37	SX21 (H-17)	92	83	56	560	II	—	—
38	SX21 (M-16)	78	56	48	273.7	III	—	—
39	SX21 (F-16)	101	97	45	489.6	II	—	—
40	SX21 (I-18)	68	61	46	237.2	III	—	—
41	SX21 (I-18)	43	49.5	22	49.4	III	—	—
42	SX21 (I-18)	36	27	24	34.5	III	—	—
43	SX21 (I-18)	40	25.5	21	25.5	III	—	—
44	SX21 (I-16)	119	97.5	48	485	II	—	—
45	SX21 (K-18)	79	67	61	410.6	II	—	—
46	SX21	50.5	47	39.5	99	III	—	—
47	SX21 (F-15)	69.5	62.5	43	186.1	III	—	—
48	SX21 (K-20)	72	45.5	41	150.2	III	—	—
49	SX21	38.5	35	28	49.5	III	—	—
50	SX21 (F-17)	80	62	37.5	279.7	III	—	—
51	SX21 (K-21)	84	72	50	448.3	II	—	—
52	SX21	60	28.5	20	42.1	III	—	—
53	SX21 (K-20)	59	43	33	118.2	III	—	—
54	SX21 (K-20)	59	55	49	147.6	III	—	—
55	SX21 (L-17)	80	62	30	210.3	II	—	—
56	SX21 (E-14)	87	66	39	271.6	II	—	—
57	SX21 (G-14)	96.5	58	37	294.2	II	—	—
58	SX21 (K-21)	84	71	46	370	II	—	—
59	SX21 (N-17)	109	92	60	840	II	—	—
60	SX21 (L-16)	81	68	54	583	II	—	—
61	SX21 (J-20)	68	59	36	173	III	—	—
62	SX21 (P-15)	100	92	60	855	II	—	—
63	SX21 (O-16)	103	69	66	815	II	—	—
64	SX21 (I-18)	87	63	46	266.8	III	—	—
65	SX21 (I-18)	94	46	28	192.8	III	—	—
66	SX21 (P-15)	82	72.5	35	270.1	III	—	—
67	SX21 (Q-18)	86	51	31	150	III	—	—

Ⅵ　まとめと考察

1　調査のまとめ

今回の調査は、一般国道287号道路改良工事にかかる緊急発掘調査として平成９年７月28日から10月30日までの約３ヶ月間で行われた。調査成果を要約すると次のようになる。

1)　八ツ目久保遺跡は山形県西村山郡大字四ノ沢字八ツ目久保に所在し、最上川右岸河岸段丘上の、未発達低位段丘面に立地する。

2)　調査面積は3,000㎡で、竪穴住居跡７棟を含む縄文時代中期中葉～末葉の遺構が検出された。また、時期は不詳ながら陥穴がまとまって検出され、当時の生業を理解する上で貴重な資料が得られた。

3)　出土遺物はコンテナにして88箱の土器・石器類が出土し、縄文中期としては、県内で２例目となる注口土器深鉢が出土した。

2　遺構の変遷と性格

住居域について

本遺跡は大木８ｂ式期～大木10式中段階までの遺物が出土し、それぞれの時期に竪穴住居が存在していたことが確認されている。特徴として、各時期の住居同士の切り合いがほとんどなく、継続的な集落形成の過程が見えない点である。推論ではあるが、遺跡全体が周囲から隔絶した狭い範囲に立地していること、各時期の住居跡の密度が薄いことから、各土器型式の時期に断続的に営まれた小規模集落であったと考えるのが妥当と思われる。出土土器からは、大別すると住居域として４つの時期が存在することがわかった。但し、分布に関してはそれぞれの時期にあたる住居跡の検出数が少ないこと、調査が遺跡の全域には及んでいないこと等から、住居跡の各変遷を確定することは現段階では困難である。

以下、各土器型式に基づいた住居跡の変遷を示す。

１期……大木８ｂ式新段階期（ＳＴ１及び２）

２期……大木８ｂ式末～大木９古段階期（ＳＴ３）

３期……大木９式中段階期（ＳＴ４）

４期……大木10式中段階期（ＳＴ５）

土坑について

本遺跡の土坑のあり方として特徴的なのは、フラスコ状土坑が貯蔵穴としての所期の機能を失った後、その埋没過程の中で一時的に土器捨て場として使用されていたことが、種皮分析の裏付けによって確認された点にある。

今回の調査によって、土坑の機能転用による廃棄場としてのあり方が示されたといえ、そうした土坑がいくつも住居域に隣接して捨て場として利用されていたことは、本遺跡の生業を理解する上で今後大きな意味を持つのではないかと思われる。

また土坑の中には、出土土器が遺構間接合を果たした例が3例確認され、本遺跡における土器廃棄のあり方も今後検討すべき課題として浮き上がってきた。

3　第3群土器群（大木8b式末～大木9式移行期の土器）について

本遺跡出土の縄文土器は、縄文時代中期中葉～末葉の大木8b式～大木10式期の範疇に含まれる土器群である。調査範囲が限られ、遺跡の全域には調査が及んでいないため、セット関係や組成等が明らかにはならない状態ではあるが、大木8b式から大木9式への移行期といえる資料がまとまって得られた。

山形県内の中期後葉の土器については佐藤庄一・菅原哲文が集成を行っており（佐藤・菅原1997）、山形考古学会第48回研究大会上においてその要旨が公表されている。本稿では、その成果を踏まえ、本遺跡の第2群土器群～第4群土器群との間にみられる若干の差異を明らかにし、大木8b式末～大木9式移行期の土器編年の資料として提示したい。（註3）

第2群土器は8b式の古い要素といえる渦巻文の先端に剣先上の棘が残っているものがみられ、隆帯断面は四角形もしくは蒲鉾形で、8b式の伝統を堅持している。文様は胴部全体に2つないし3つの大単位によるモチーフを主体としてそれらを連結している。

第3群土器になると、胴部の大単位の文様構成も消滅し、各渦巻きが縦に展開され棘は一部に名残を留めるだけとなり、それぞれの連結が強くなり閉じられた区画が出現してくる。つまり渦巻き文よりも連結による区画を意識し始めている様相が窺える。しかしながら、技法的には依然として地文は斜行縄文に隆帯貼り付けを行う技法であり、大木8b式の伝統を残している。器形は深鉢Bが大勢を占め、深鉢Aのキャリパーはその割合が少なくなる。

SK37出土土器の33－3は、ほぼ完形で出土した第3群の土器であるが、この土器の直上で出土した一括土器の中には第4群の土器が含まれていた（33－1・2・4・5、34－4・6）。

ST3出土土器もこの第3群に当たる土器で注目できる。19－1と19－2は共伴関係になる床面出土の土器である。19－2が19－1に入れ子になって出土したものである。ST3は馬蹄形石組み炉の住居であることから、大木9式期の住居跡である可能性が高い。19－1は渦巻きの退化が始まり、渦巻き同士の連結によって中の区画が意識されている土器で、充填縄文による施文をとり、隆帯断面は山形となることから、第4群土器群に属する。これに対し、入れ子の19－2は大木8bの技法を残す土器で、渦巻き文は明瞭に巻ききっており、充填縄文でなく、地文を施した後、隆帯貼り付けを行っており、第3群土器群の特徴を有する。但し、残存部位が胴部下半以下のみのため頸部以上の状態は不明である。

以上の2例から考えうることとして、大木9式古段階といえる時期にも8bの技法を残す土器が混在し、両型式の技法がせめぎ合いながら次第に大木9式に収斂していく時期が存在していたことが考えられる。つまり第3群の土器は大木8b式の技法を用いながら、文様への意識は既に大木9式へと向かっているまとまりととらえられる。これが当遺跡周辺の地域的特質とするか一般的な土器群として位置付けるかは、今後、周辺遺跡の資料の蓄積及び層位的な遺跡の調査を待たねばならないが、8b～9式への移行を探る上での一助となれば幸いである。

八ツ目久保遺跡出土土器集成図(1)

第2群土器群

36図—1

26図—1

28図—4

22図—2

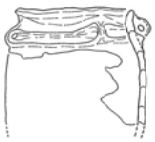
25図—1

22図—4

30図—1

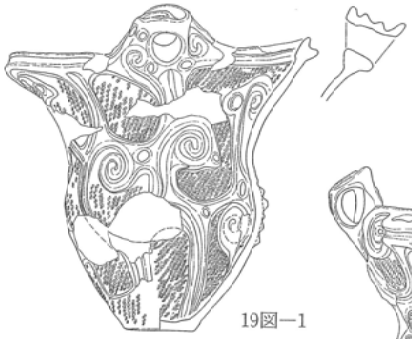
第3群土器群

26図—4


34図—9

26図—3

29図—2


19図—1

31図—1

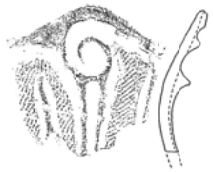
32図—2

33図—3

27図—1

八ツ目久保遺跡出土土器集成図(2)

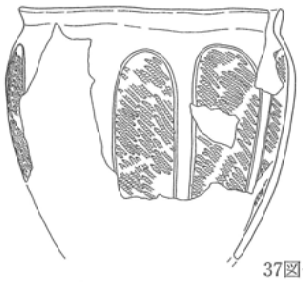
第4群土器群



38図—2

38図—1

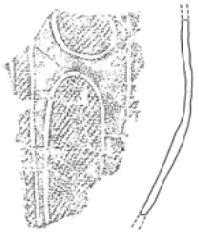
第5群土器群



37図—1

33図—1

20図—2A



20図—2B

33図—2

第6群土器群

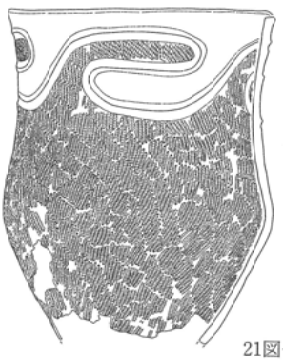
20図—6

21図—3

20図—1

第7群土器群

21図—12



21図—1

註釈

註１　山形大学教授阿子島功氏に現地調査時に遺跡立地の段丘形成についての知見を頂いた。その際に土砂崩落による土層堆積の可能性の示唆を与えてくださった。

註２　第２図中の遺跡東側の中間貯留槽上部で地すべり痕が等高線でも確認できる。

註３　出土土器の各群の分類にあたっては、平成８年に行われた山形県埋蔵文化財センターにおいておこなわれた２回の談話会「山形県内出土の縄文中期末葉の土器」の資料及び発表要旨をもとに分類を試みている。尚、本遺跡では、層位的なまとまりによる一括資料は得られないため、文様・施文手法のみによる分類となったことを御了承願いたい。

〈参考文献〉

菅井進・犬飼安太郎　他　　1988『朝日町の歴史』朝日町教育委員会
山形県教育委員会　　1996『分布調査報告書(23)』山形県埋蔵文化財調査報告書第197集
氏家信行・志田純子　　1998　「山居遺跡発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書』53
菊地政信　他　　1997　「台ノ上遺跡発掘調査報告書」『米沢市埋蔵文化財調査報告書』55
伊藤邦弘・黒坂広美　　1996　「野新田遺跡発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書』40
佐藤庄一・黒坂雅人　　1996　「富沢遺跡発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書』30
佐藤庄一・水戸弘美　　1993　「山形西高敷地内遺跡第５次発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財調査報告書』192
佐藤庄一・他　　1992　「山形西高敷地内遺跡第４次発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財調査報告書』173
佐藤庄一・他　　1985　「山形西高敷地内遺跡第３次発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財調査報告書』91
丹羽　茂　　1981　「大木式土器」『縄文文化の研究』４
八木光則　他　　1981　「大館遺跡－昭和55年度発掘調査略報－」
似内啓邦・神原雄一郎　他　　1995　「上平遺跡群　猪去館遺跡・上平II遺跡」盛岡市教育委員会
三浦陽一・黒須靖之　　1995『繋遺跡－平成５・６年度発掘調査概報－』盛岡市教育委員会
佐藤庄一・菅原哲文　　1996　「山形県内出土の縄文中期末葉の土器」『山形県埋蔵文化財センター談話会資料』
赤塚長一郎　　1961　「山形県白須賀遺跡第二次調査の報告」『山形史学研究』３
平吹利数　　1961　「白須賀の遺物整理を終えて」『山形考古』８
佐藤鎮雄・他　　1976　「小林遺跡発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財調査報告書』８
佐々木洋治・他　　1979　「熊ノ前遺跡発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財調査報告書』16
阿部明彦　　1982　「縄文中期中葉の土器」『村山市史別巻一　原始・古代編』
安部　実・他　　1988　「原の内Ａ遺跡第３次発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財調査報告書』132
佐藤善春・國井　修　　1997　「宮下遺跡発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書』47
丹羽　茂・他　　1982「菅生田遺跡」『宮城県文化財調査報告書』92
池谷信行　　1988　「東北地方における東北縄文中期末葉土器の変遷と後期土器の成立」『沼津市博物館紀要』12
丹羽　茂　　1989　「中期大木式土器様式」『縄文土器大観』１
相原淳一・他　　1990　「大梁川遺跡」『宮城県文化財調査報告書』126

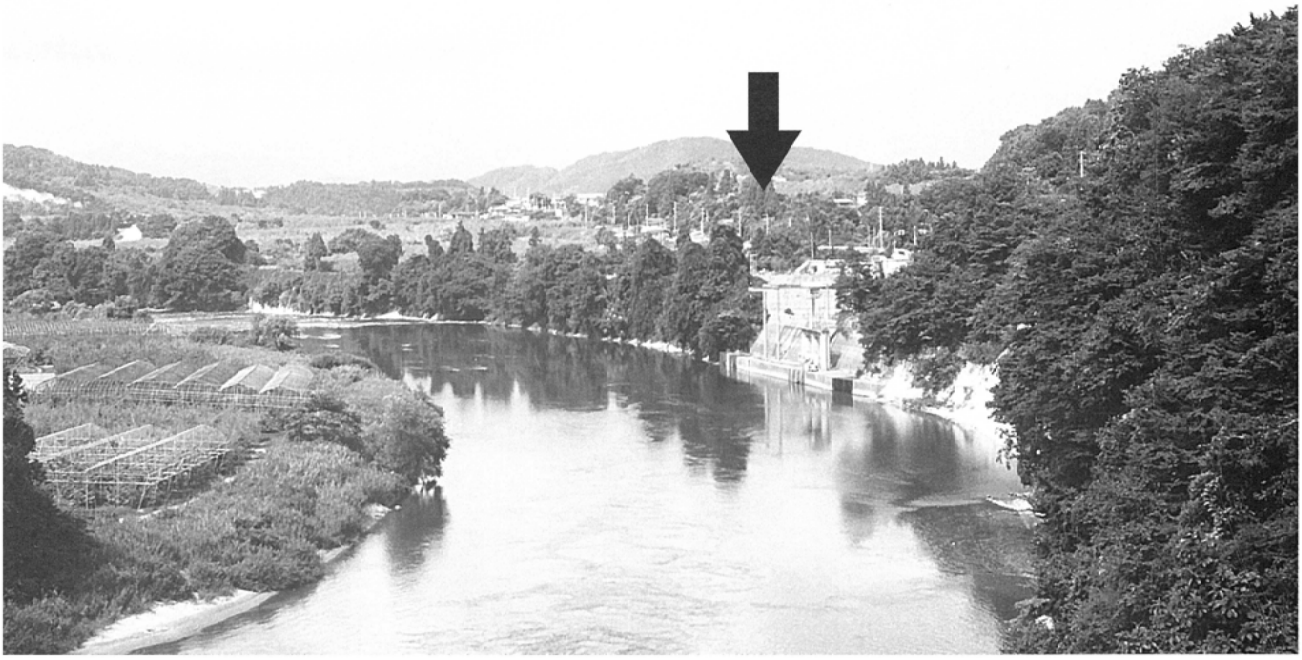
報告書紗録

ふりがな	やつめくぼいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	八ツ目久保遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第64集
編著者名	佐竹桂一
編集機関	財団法人　山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL023-672-5301
発行年月日	1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
やつめくぼ 八ツ目久保	やまがたけん 山形県 にしむらやまぐん 西村山郡 あさひまち 朝日町 おおあざ 大字四ノ沢 あざやめく 字八ツ目久保	6323	平成8年度登録	38度18分43秒	140度9分49秒	19970728～19971031	3,000	一般国道287号道路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八ツ目久保	集落跡	縄文時代中期	竪穴住居跡 土坑（貯蔵穴） 埋設土器 陥穴	縄文土器（深鉢・浅鉢・注口土器1） 土製品（土偶1・円盤状土製品1） 石器（石鏃・石匙・磨製石斧） 石製品（砥石・石皿・凹石・磨石）	埋没土坑の窪地に土器廃棄を行う状況を確認。土坑覆土中から、縄文中期では県内2例目となる注口土器が出土。 時期不詳の陥穴39基を列状に検出。 （総出土箱数88箱）

図　　版



遺跡遠景（南から）

鍬入式調査開始風景（西から）

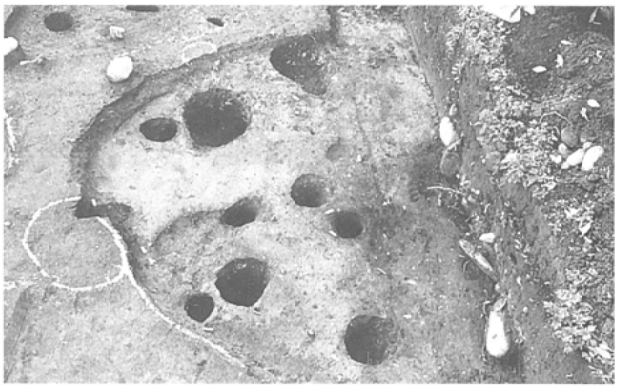
北区遺構検出状況（南東から）

南区遺構検出状況（北から）

調査説明会風景（南東から）

図版２

ＳＴ１　完掘状況（北から）



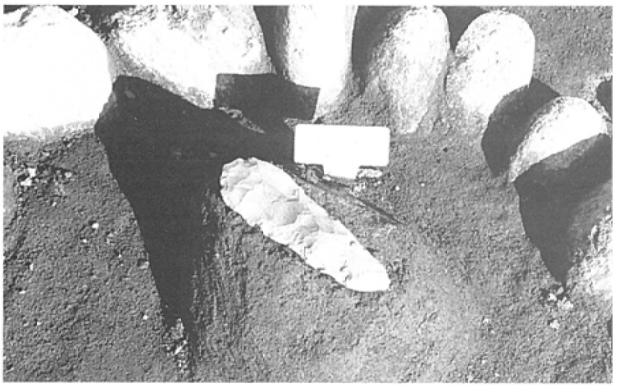
ＳＴ２　完掘状況（北から）

ＳＴ３　炉跡及び遺物出土状況（西から）

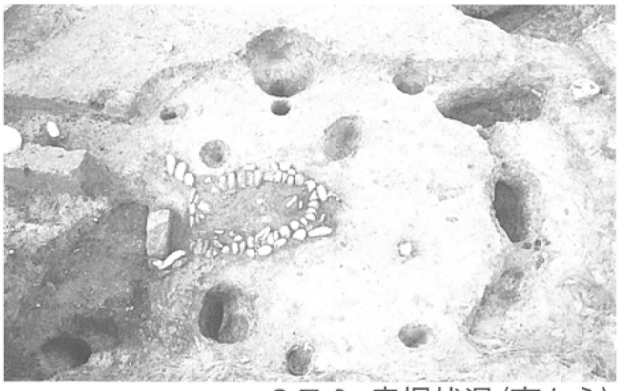
ＳＴ３内　ＲＰ47　出土状況（西から）

ＳＴ３内　ＲＰ46　出土状況（北西から）

ＳＴ３　ＲＰ47　出土状況（西から）

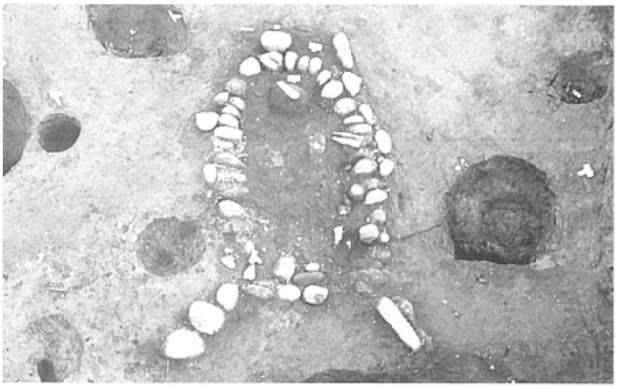


ＳＴ３内　ＲＱ56　出土状況（西から）



ＳＴ３　完掘状況（南から）

ＳＴ１内　ＥＬ11　炉跡検出状況（東から）



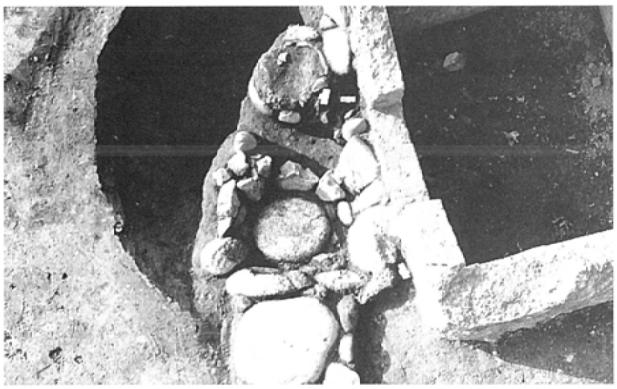
ＳＴ３内　ＥＬ　完掘状況（西から）

ＳＴ４内　ＥＬ16　検出状況（南西から）

ＥＬ15　出土状況（西から）

複式炉出土状況（北から）

図版４



ＳＴ６内 EL12 出土状況（南東から）

南区ＳＫ45内 ＲＱ41 出土状況（南から）

ＥＵ８ 検出状況（東から）

ＳＰ232内 遺物出土状況（南から）

ＳＸ21 下層陥穴検出状況（南から）

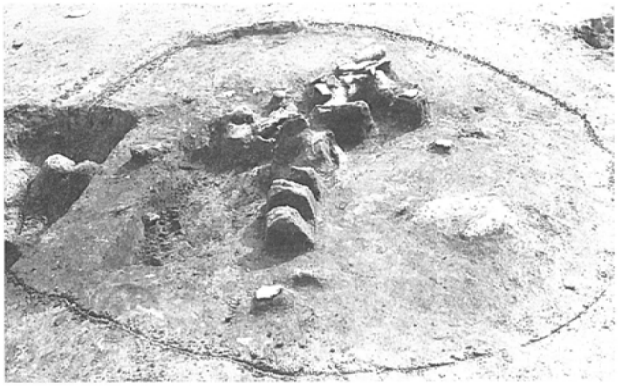
南区完掘状況（北東から）

北区完掘状況（東から）

南区完掘状況（北から）

ＳＫ101内　ＲＰ61　出土状況（東から）

ＳＫ26　完掘及びＲＰ57　出土状況（西から）

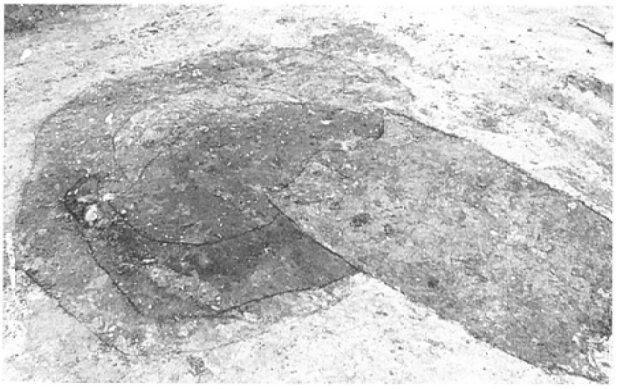


ＳＫ32　検出状況（西から）

ＳＫ32・34及びＳＴ4　完掘状況（南東から）

奥からＳＫ27・29・30　完掘状況（北から）

図版 6



ＳＫ35 遺構検出状況（南から）

ＳＫ35ＲＰ28～30ＲＱ31 出土状況（南から）

ＲＰ28 出土状況（南から）

ＳＫ35内 ＲＰ52 遺物出土状況（東から）

ＳＫ35内 ＲＰ54 出土状況

ＳＫ35内 石器剥片出土状況（西から）

ＳＫ35内 ＲＰ72 出土状況　南西から

ＳＫ35内 ＲＰ72 出土状況　南西から

ＳＫ37　ＲＰ34・42　出土状況（西から）

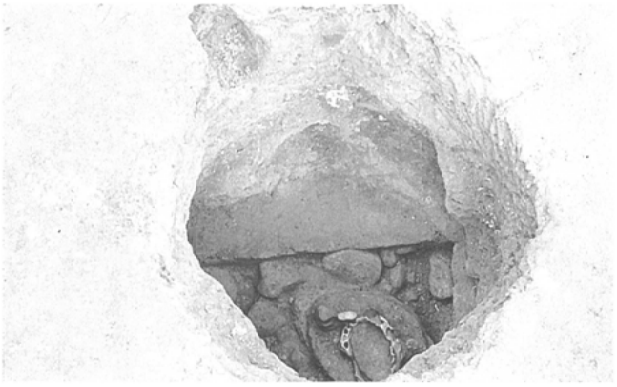
ＲＰ60　出土状況（北東から）

ＳＫ36内　ＲＰ44　出土状況（西から）

ＳＫ36　完掘状況（北から）

ＳＫ31内　ＲＰ26・27　出土状況（南から）

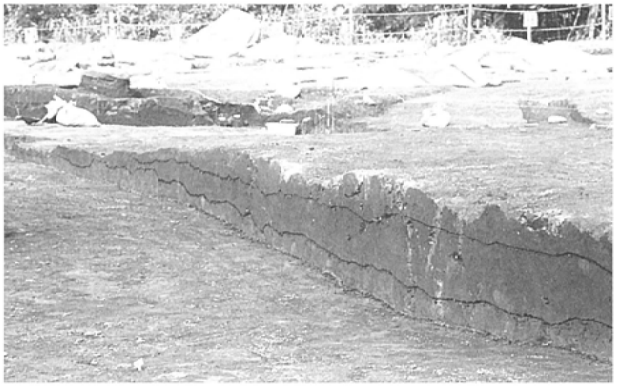
ＲＰ45　出土状況（西から）



ＳＫ31　完掘状況（南から）

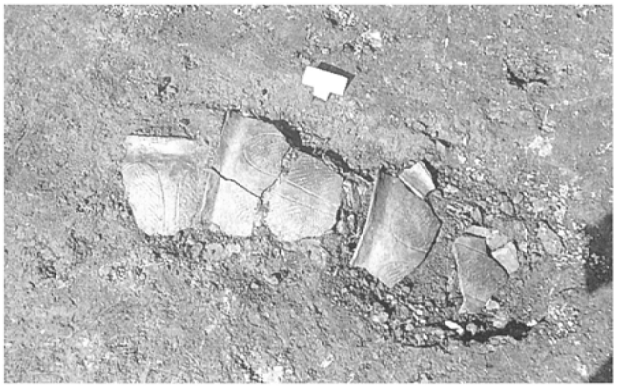
ＳＫ31内　ＲＰ50　出土状況（東から）

図版８

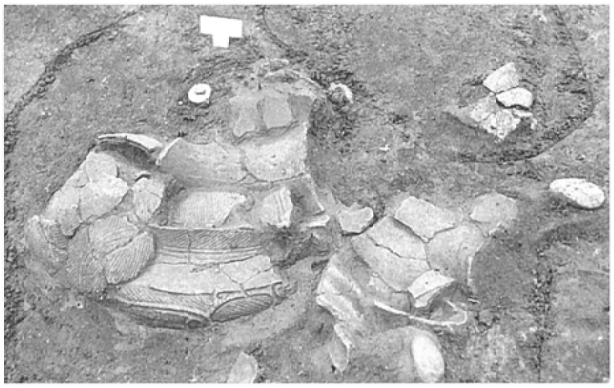


ＳＸ21 中央ベルト　土層断面（南西から）

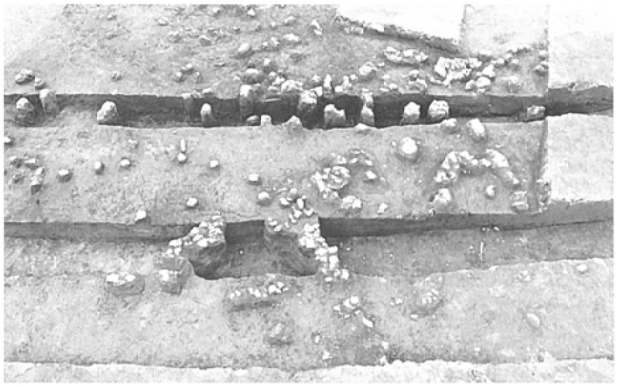
ＳＸ21 中央ベルト　土層断面（北西から）



ＳＸ21内 ＲＰ４ 出土状況（東から）



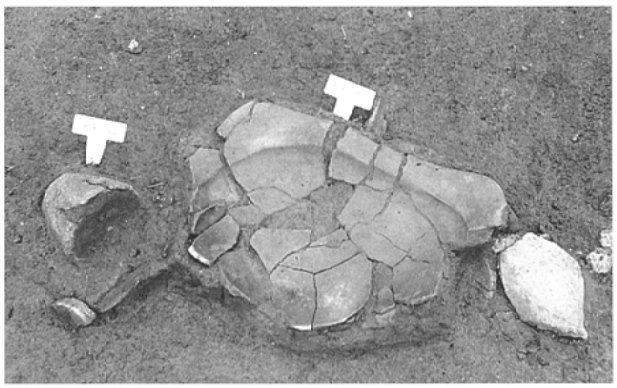
ＳＸ21内 ＲＰ７ 出土状況（南から）



ＳＸ21 中央ベルト付近　遺物出土状況（東から）

ＳＸ21 中央ベルト付近　ＲＰ９出土状況（南西から）

ＳＸ21 西半部遺物出土状況（東から）

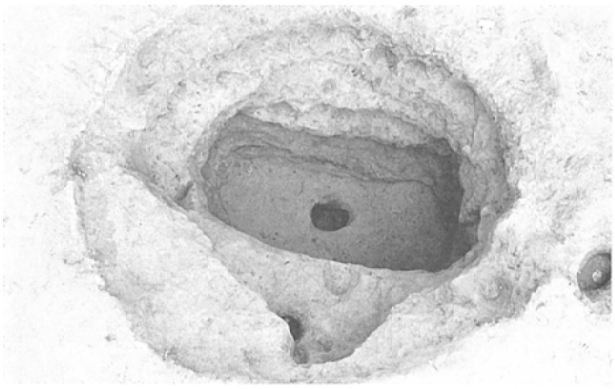


ＲＰ15・16 出土状況（東から）

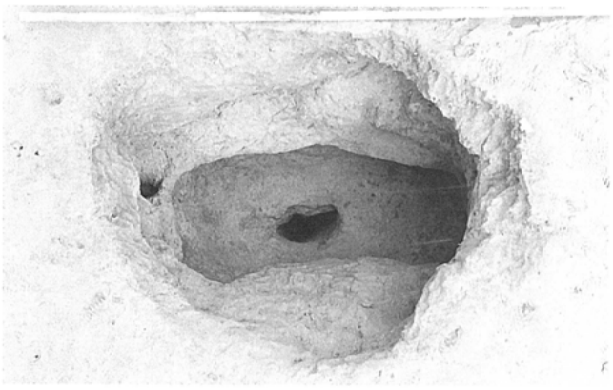
ＳＸ21内　ＲＱ23　出土状況（南西から）

基本層Ⅲ層中　石匙出土状況（北西から）

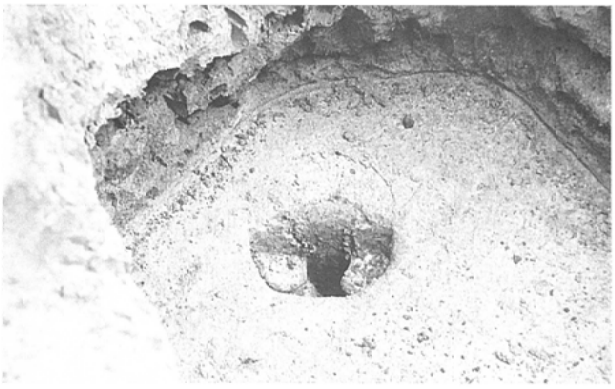
ＳＫ74　完掘状況（東から）



ＳＫ46　完掘状況（南から）

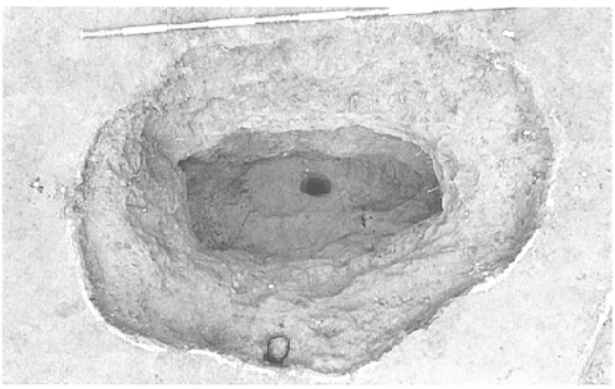


ＳＫ50　完掘状況（南から）



ＳＫ56　逆茂木痕　検出状況（南から）

ＳＫ45内　ＲＱ41　出土状況（西から）

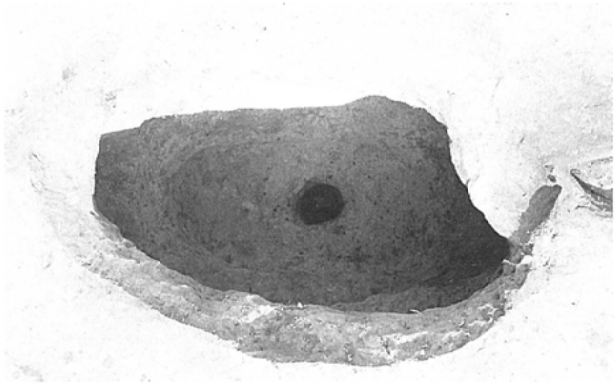


ＳＫ45　完掘状況（南から）

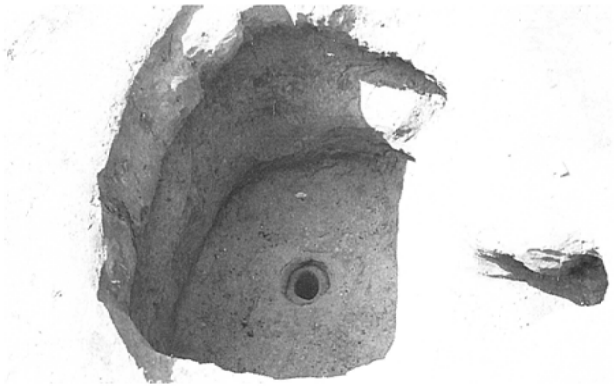
図版10

ＳＫ61 完掘状況（東から）

ＳＫ62 完掘状況真上（東から）

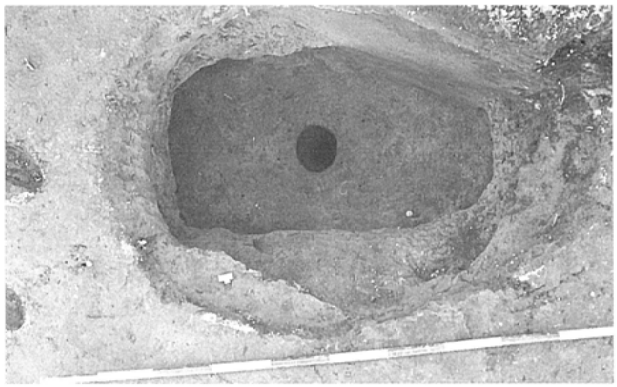


ＳＫ59 完掘状況真上（南から）

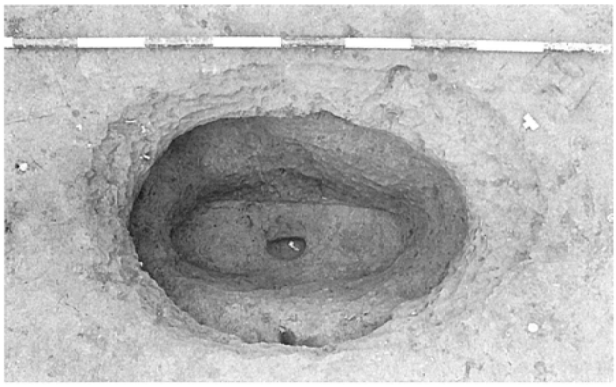


ＳＫ54 完掘状況（東から）

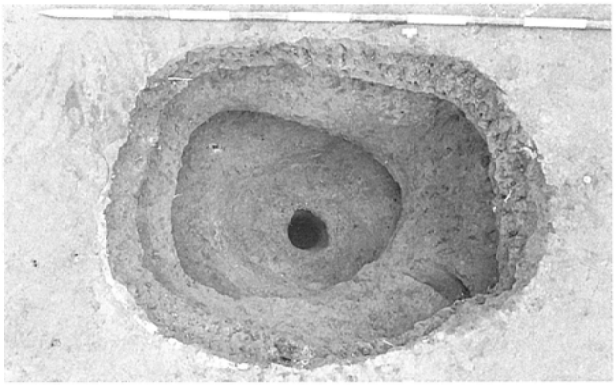
ＳＫ58 完掘状況（西から）



ＳＫ57 完掘状況（北西から）



ＳＫ51 完掘状況（南から）



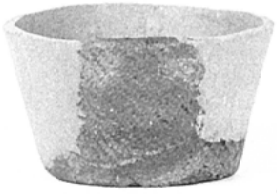
ＳＫ53 完掘状況（南から）

1

2

3

5



4

6

図版12

1

2

3

4

5

6

出土土器(2)

1　正面

1　側面

2

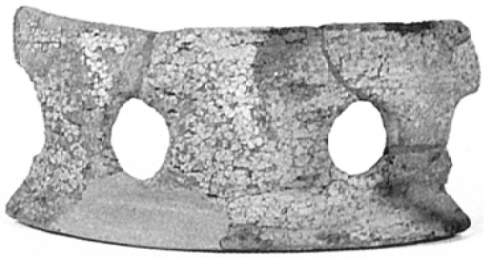
3

4

5

出土土器(3)

図版 14



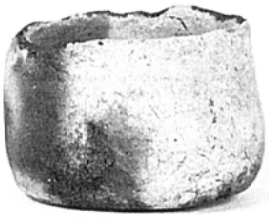
1

2

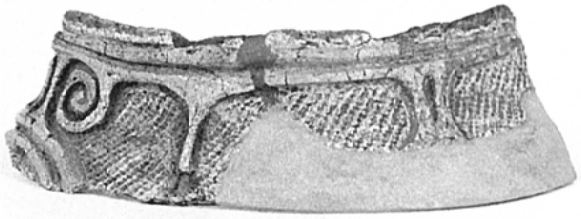
3

出土土器（4）

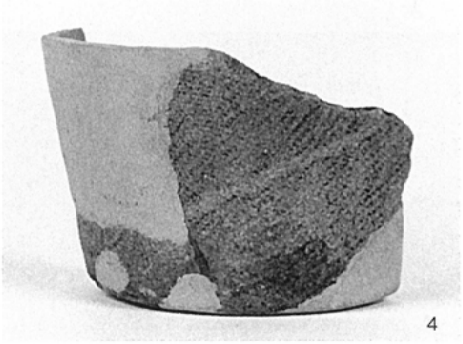
1



2



3



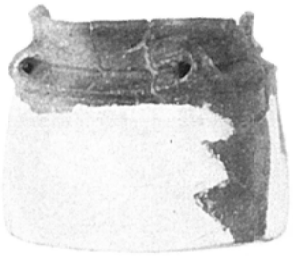
4

5

出土土器(5)

図版16

1



2

3

4

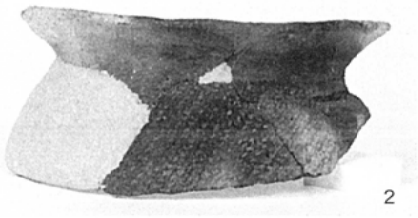
5

6

7

出土土器(6)

1



2

3

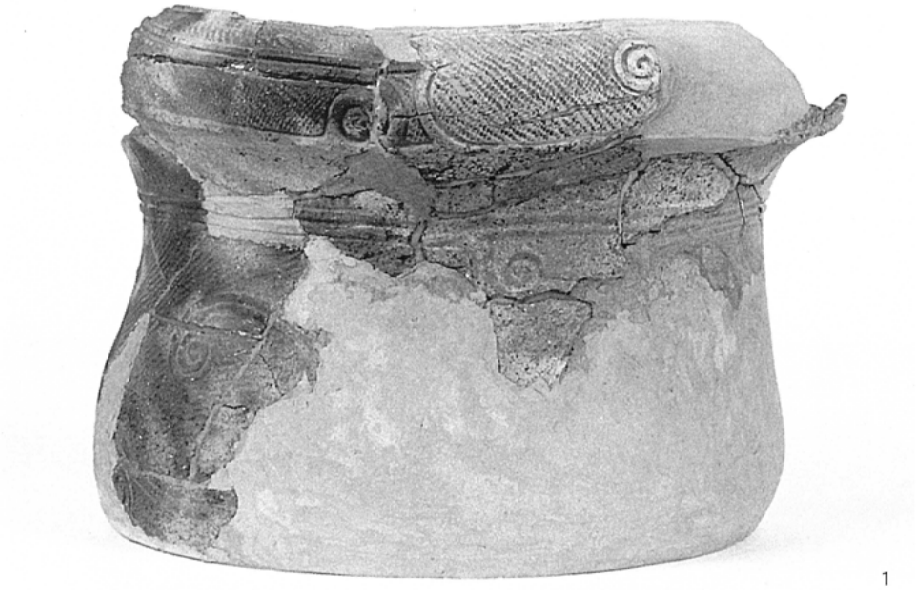
4

5

6

出土土器(7)

図版18



1

2

3

出土土器(8)

1

2

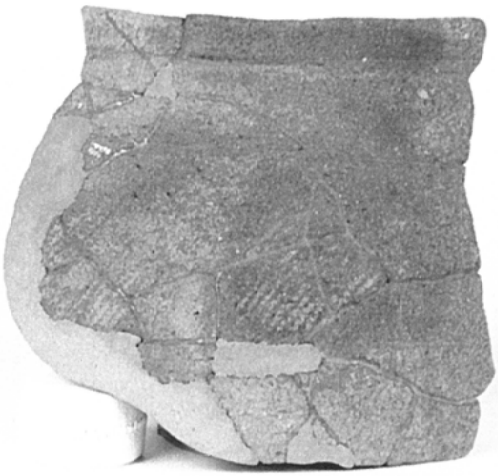
3

4

出土土器(9)

図版 20

1



2

3

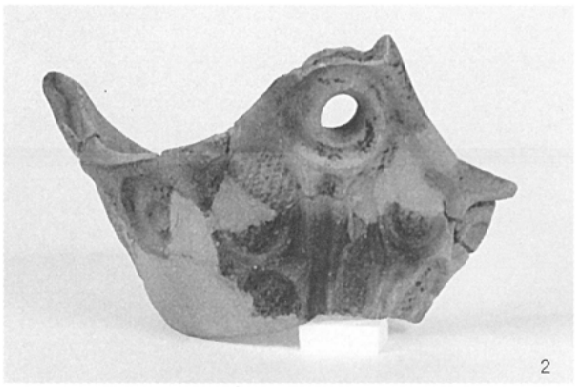
4

5

6

出土土器 (10)

1


2

3

4

5

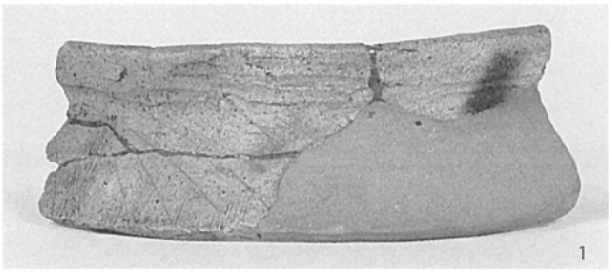
6

7

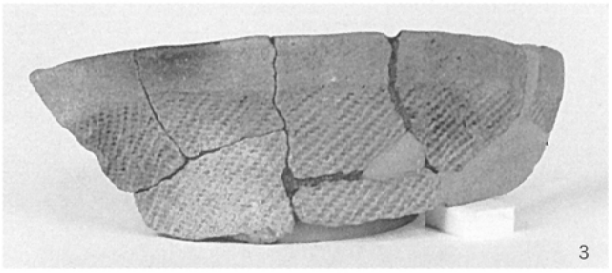
8

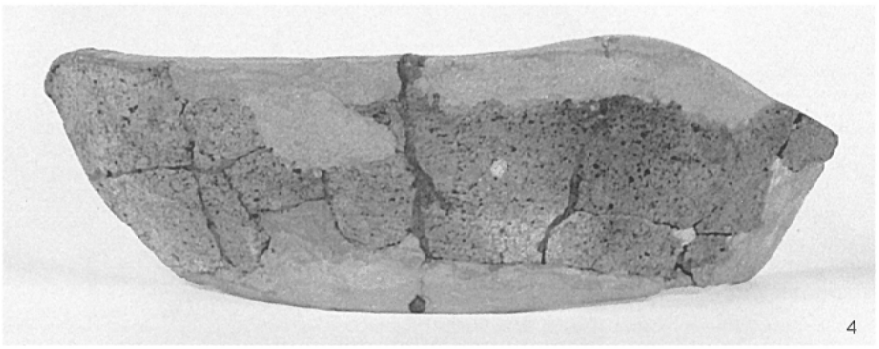
出土土器 (11)

図版 22

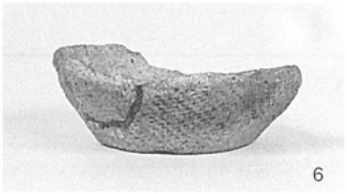

1

2


3


4

5


6

7

8

9

出土土器 (12)

1

2

3

4

5

6

7

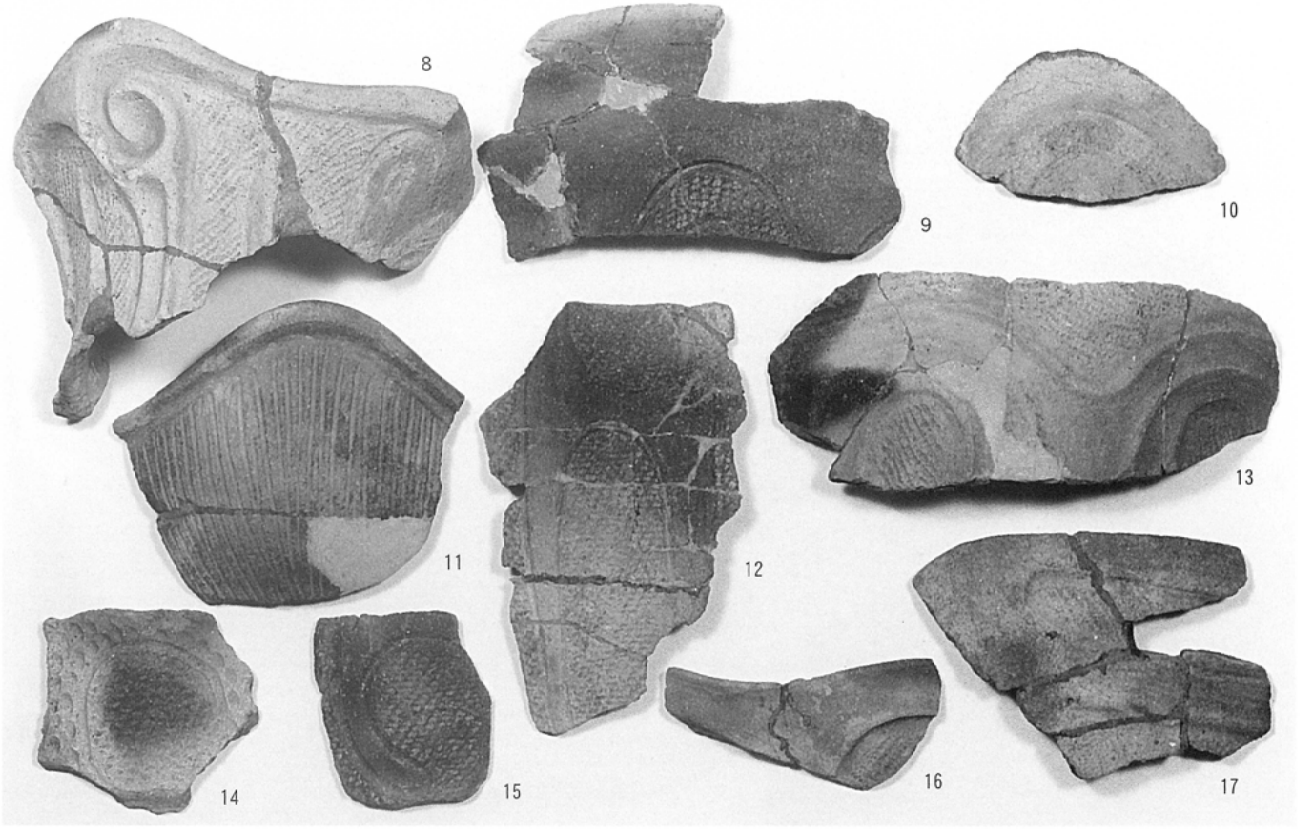
8

9

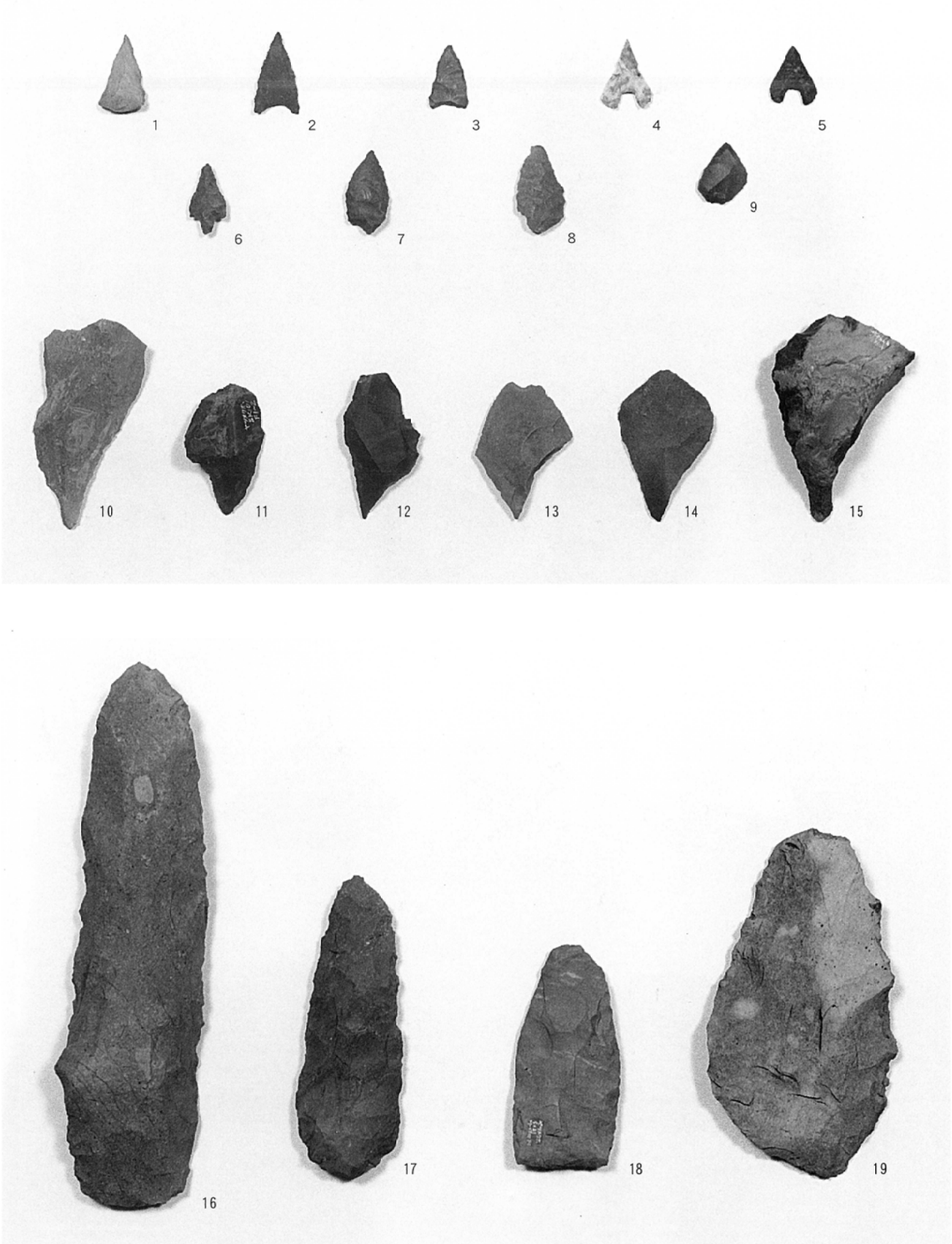
10

出土土器・土製品

図版 24

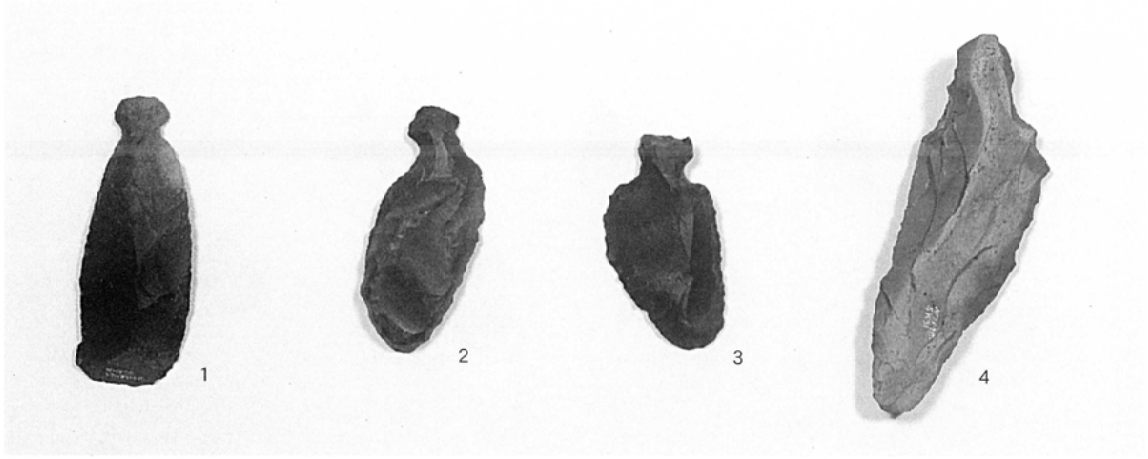


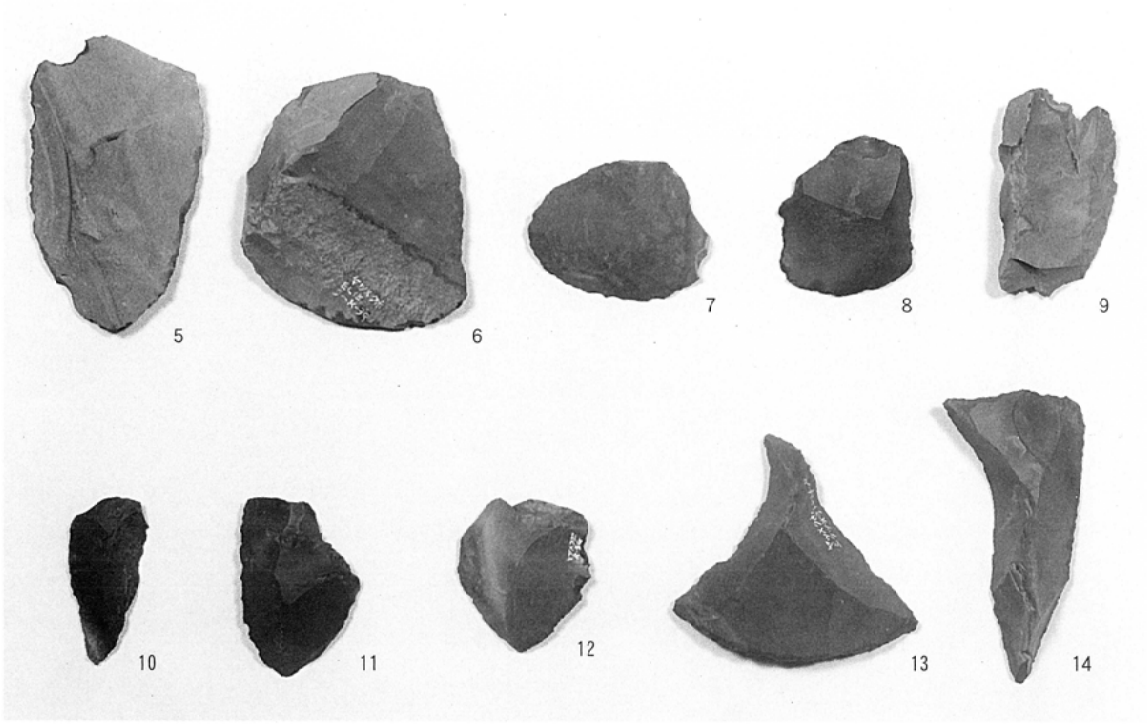
出土土器 (13)



出土石製品 (1)

図版 26





出土石製品（2）

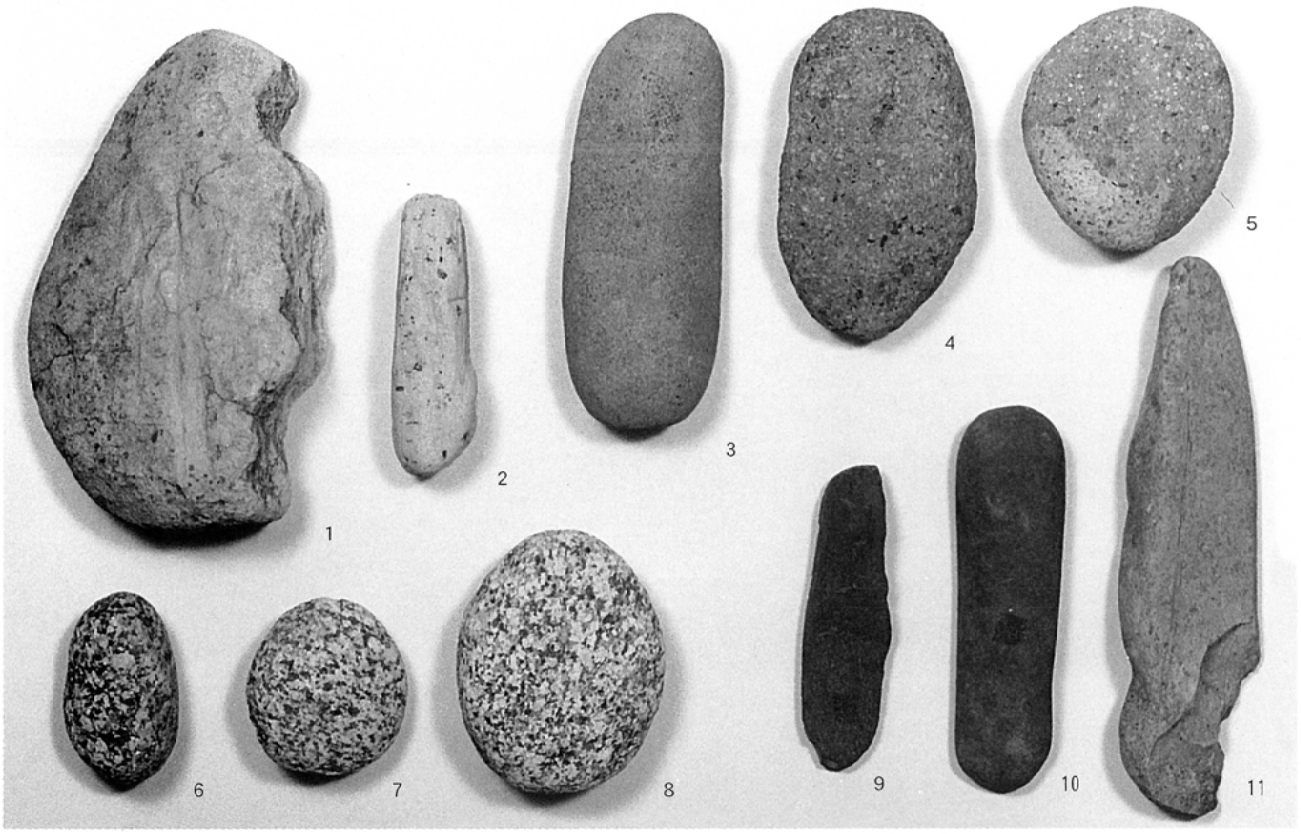
1表

1裏

2

出土石製品(3)

図版 28



出土石製品（4）

付　　編

八ツ目久保遺跡における自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1．試料

今回の分析調査試料の一覧を表1に示す。

年代測定は、ＳＸ21、ＳＫ31、注口土器が出土したＳＫ35、の3遺構から出土した炭化材について実施する。これらの出土炭化材については樹種同定も併せて実施する。土坑については、リン分析をＳＫ35・ＳＫ101・ＳＫ27・ＳＫ35・ＳＫ37・ＳＫ36・ＥＵ８の覆土を中心に実施する。土壌理化学分析、Ｘ線回折、微細遺物分類同定は、黒色土の認められたＳＫ35・ＳＫ101・ＳＫ27の覆土および覆土中の埋設土器内の土壌について実施する。花粉分析は、炉跡覆土について実施する。

表　分析試料

サンプル番号	遺構・場所	層位（備考）	分析項目						
			14C	W	リン	土	X	微	P
2	SX21西	RP14～17まわり	●	●					
5	SX21東	F1		●					
6	SX21東	F1	●	●					
8	SK31	地山直上	●	●					
11	SK35	F3(RP28直下)		●	●	●	●	●	
12	SK35	F2(RP28直下)				●	●	●	
13	SK35	RP28直下	●	●					
18	SK35	F4上位(RP52底面)			●	●	●		
23	SK101				●	●	●	●	
24	SK101	F2			●	●	●	●	
40	SK27	F4(RP64直下)			●	●	●	●	
54	SK31内	RP50(下)			●				
57	SK35内	RP69(下)			●				
58	SK35内	RP72(中)			●				
61	ST4内EL16	RP71(下)							●
64	ST5内EL15	RP70(下)							●
67	SK37内	RP60(内)			●				
72	ST5内EL15	RP37(下)							●
76	SK36内	RP44(下)			●				
77	ST3内	RP73(中)						●	●
81	ST7内EL13	RP33(下)							●
89	ST6内EL12	RP32(下)							●
93	EU8内	RP8(下)			●				
96	ST7内EL13	RP65(下)							●
101	SK35内	RP28(中)			●				
分析点数			4	6	12	6	6	6	7

●：分析試料，14C：放射性炭素年代測定(AMS法)，リン：リン酸・カルシウム分，土：土壌理化学分析，X：X線回析分析，微：微細遺物(分類・同定)，W：炭化同定，P：花粉分析

2．分析結果と考察

（1） 放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）

考察

今回の年代測定試料は、縄文時代中期と考えられる土坑覆土中から出土した炭化材である。各遺構の年代値は、約4,100年前前後を示し、誤差範囲内で一致した。このことは、これらの遺構がほぼ同時期に構築されたものであることを裏づける。

ただし、ＳＸ21東の出土炭化材は870年前と、他の試料よりもかなり新しい年代を示した。これは、炭化材同定の項で詳述するが、埋没後に新しい時期の炭化材が混入したことが原因の一つとして考えられる。

（2） 炭化材同定

考察

縄文時代中期の土坑覆土から出土した炭化材は、クヌギ節とクリに同定された。これらの土坑の性格は不明であるが、周辺に分布していた植物を利用している可能性が高い。いずれも落

葉広葉樹の種類で、その種実は食料となる。これらが遺跡の周辺に生育していた可能性がある。

ＳＫ21東の試料番号５・６は、他の場所から採取された炭化材と樹種が異なっており、かつ前述のように放射性炭素年代測定値も明らかに若い年代値を示した。このことは、ＳＫ21東の炭化材は土坑が構築された当時に取り込まれたものではなく、埋没後に取り込まれたものである可能性が高い。したがって、今回調査した土坑に限ってみると、全てクリ材が利用されていることになる。

（３）　リン酸・カルシウム分析および土壌理化学分析

考察

今回のリン酸・カルシウム含量は、上記の天然賦存量や既往の調査成果と比較して低く、覆土中に動物遺体に由来する成分の富化は確認されなかった。Ｘ線回折でも、骨の主成分である、リン酸、カルシウムは検出されず、微細遺物分類同定でも骨片などは確認されなかった。これらのことから、土坑覆土および土坑内出土の土器内には、ヒトを含む動物遺体の痕跡を確認することはできなかった。

遺構内覆土に認められた黒色土は、全般に腐植含量が高く、腐植酸に富んでいることはほぼ間違いない。また、この腐植酸は腐植化度の最も進んだＡ型腐植酸である可能性が高く、さらに腐植の約70～80％近くが腐植酸あるいはフルボ酸の可溶性腐植であることがわかった。このような形態の腐植は、一般土壌では黒ボク土に多くみられるが、樹木を燃やした炭化物にも同様な腐植形態が認められる。今回の場合、炭化物が混入していることから、炭化物に由来する腐植の可能性がある。次に土坑内の炭化物が、土坑内で燃やされて残存したのであるか検討してみた。また、他の遺構覆土に比較して腐植含量が高かったＳＫ101は、堅果類の種実が検出されていることから、これら植物遺体の存在が腐植含量を高めている可能性がある。

（４）　Ｘ線回折分析

考察

土坑覆土のＸ線回折分析グラファイトが確認されなかったことから、土坑内が高温（約900℃以上）になることはなかったと推定される。このことは、炭化物は別の場所から持ち込まれたものであることを示唆している。

今回調査した土坑について整理すると、いずれも埋葬施設としての可能性は低い。また、被熱も考えにくく、別の場所から炭化物などが持ち込まれている可能性があり、貯蔵穴など別の用途が考えられる。

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第64集

八ツ目久保遺跡発掘調査報告書

1999年3月31日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号
電話　023-672-5301
印刷　藤庄印刷株式会社